文部科学省

ー多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランー

《京都大学拠点》

高度がん医療を先導するがん医療人養成

外部評価報告書(平成30年度)

京都大学
三重大学
滋賀医科大学
大阪医科大学
京都薬科大学

〈京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学連携〉

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

「高度がん医療を先導するがん医療人養成」

事業推進責任者

京都大学大学院医学研究科　教授

武　藤　　学

ごあいさつ

現在のわが国は、世界に類を見ない超高齢社会を迎えるとともに生産人口の減少、少子化と社会構造が大きく変わりつつあります。一方、科学技術の進歩もめざましく、医療の分野でも新技術が次々生み出され、新しい医療の提供が様々な分野で行われるようになっています。わが国が今後も健全な社会を維持するためには、国民の健康長寿は必須であり、安心して暮らせるようにしなければなりません。なかでも、わが国の死因の第一位である「がん」の医療に関しては、最先端の医療技術を活用しながら、ライフステージに合わせた多様な新しいニーズに対応できる医療人の育成が求められています。

本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学において、ひとりひとりのがん患者に、より精密な医療を提供するプレシジョンメディシンを実現する「がんゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成を目指します。

具体的には、がんゲノム医療では、がん組織におけるゲノム変化を理解し治療に結びつけるがん薬物療法専門医の育成に加え、家族性腫瘍などのゲノム情報にも対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成を行います。希少がん、小児がんにおいては、これまで原因が不明だった病態の解明と病態に基づいた新規医療開発ができる研究者と医療人を育成します。さらに、現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージと新しいニーズに合わせたがん医療の提供が必要になってきています。例えば、高齢者に対するがん医療のあり方、腎障害や肝障害などの合併症をもつがん患者への治療、からだに優しい低侵襲な治療開発などが大きな課題になっています。特に、ロボット手術や高精度放射線治療など最先端の治療を担う人材は不足しており、その育成は喫緊の課題であります。さらに、がんと診断された時から心身のケアを含む緩和医療を担える人材を育成する必要があります。

私達は、このようながんの専門的教育を実践することによって、幅広い領域の医療人の育成とがん医療の発展に貢献し、健康な社会つくりの一躍を担いたいと考えています。

京都大学コーディネーター

大学院医学研究科　教授

溝　脇　尚　志

本教育プログラムの主眼は、プレシジョンメディシンを実現する「ゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成であります。京都大学におきましては、前２期のがんプロフェッショナル養成プログラムにおいて築いてまいりました基盤の上に本教育プログラムを整備することにより、幅広く高度な臨床能力を身につけ先導的にがん研究を推進できる医療人の養成を行います。また、ゲノム医療、ロボット手術や高精度放射線治療などの最先端医療に加えて、家族性腫瘍などに対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラー、がんの診断時から緩和医療を担える人材等、幅広い医療人を養成するために、９つのコースを開設いたしております。本プログラムの実施におきましては、連携５大学との交流を通して、本学のプログラムが対応しきれていない内容についても相補的に学べる環境を提供いたします。また、海外の先端的施設における研修の機会も設けております。

本教育プログラムによって、我が国の将来の医療を中核となって担える人材を養成していきたいと考えております。

三重大学コーディネーター

がんセンター長

中　瀬　一　則

三重大学では、第３期のがんプロである「がん専門職医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランの大学院の教育コースとして、従来までの腫瘍内科専門医、放射線治療専門医、乳腺外科専門医、婦人科腫瘍専門医、がん専門薬剤師、がん看護専門看護師の養成コースに加えて、新たに、小児がん専門医の養成コースを開設しました。三重大学医学部附属病院は小児がん拠点病院に指定されていますので、小児がんのすべてに対応した研修が可能となっています。これらの大学院コースでは、がん研究による学位の取得とともに、がん専門職の資格取得を目指した指導教育を行い、優れたリサーチマインドを持ち、ライフステージやゲノム情報に応じた個別化医療を適切に実施できる高度がん医療人の育成を進める予定です。また、インテンシブコースにおいても、ゲノム医療を推進できる医師養成コース、ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供する医師養成コース、ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる多職種人材養成コース、地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コースを開設して、講演会、セミナー形式による研修を行うことにより、地域におけるがん医療の総合的な向上を目指します。

滋賀医科大学コーディネーター

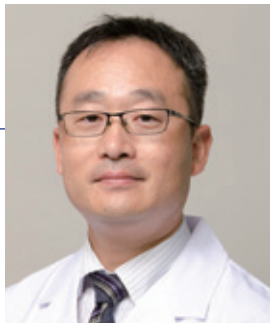
臨床腫瘍学講座　教授

醍　醐　弥太郎

滋賀医科大学大学院医学系研究科・医学専攻では、多彩な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランにおいて、過去 10 年間のがんプロフェッショナル養成事業の実績と最新の社会的ニーズを踏まえ、先進的がん医療開発、がんゲノム医療、ライフステージに応じたがん集学的治療（薬物療法、外科療法、放射線療法、緩和ケア、支持療法）、小児がん治療に精通した医療人材を養成することを目的とした４つのがん専門医療人コースと３つのインテンシブコースを新たに設けました。

いずれのコースにおいても最先端の基礎・臨床腫瘍学とその学際領域を教育するとともに、がんの基礎研究からトランスレーショナルリサーチにつながる研究手法の指導と先進医療制度や医師主導治験等を通じたがん先進医療開発の On the Job Training（OJT）を行い、標準治療から先進的医療、創薬研究までを推進して包括的・全人的がん医療を指導的立場で実践できる専門医療人材を養成します。また、行政、地域医療機関、国内外の卓越した大学院・研究機関・がん専門病院群とのネットワークや本学の特色ある教育・研究基盤を活用し、地域と世界で活躍する人材を輩出して医療、福祉の発展に貢献することを目指します。

大阪医科大学コーディネーター



化学療法センター長

後　藤　昌　弘

大阪医科大学では平成 19 年度から実施された「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」プログラム、さらに平成 24 年度からの「次代を担うがん研究者・医療人養成」プログラムで化学療法専門医、放射線治療医、がん手術療法専門医養成コースを設置し成果を上げてきました。今回の「高度がん医療を先導するがん医療人養成」プログラムでは、それぞれの専門医育成プログラムをさらに発展させることを目的に「ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース 」、「希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース」、「婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース」の３つの新コースを設立しました。それぞれのコースでの養成分野は「ライフステージ」、「希少がん」、「ゲノム」と異なりますが、いずれもがん専門医療人の育成には欠くことのできない分野です。それぞれの領域における学位の取得とともに、領域横断的な講演会・研修会参加の機会を積極的に提供し、新たなニーズに柔軟に対応できる優れた人材を育成するとともに、国内外での短期研修・発表の機会を通して視野の広い医療人の育成を目指します。

京都薬科大学コーディネーター

生命薬科学系　病態生理学分野　教授
芦　原　英　司

京都薬科大学では、薬学の未来を拓く“Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた薬剤師”の育成を目指した６年制薬学教育を推進するとともに、学部教育に連動する大学院博士課程では、医療現場、企業、行政といったあらゆる医療現場においてリーダーとなる博士号を有した薬剤師を育成することを目的に教育を進めております。

本学は、「ライフステージに応じた個別化がん治療において全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース」を設けました。大学附属病院および基幹病院での連携プログラム、在宅支援診療所との連携プログラムの２つの教育プログラムを企画し、がん薬物療法の高度な専門知識と基礎的または臨床的薬学研究能力を有し、テーラーメイド医療を実践できる薬剤師の養成、および地域包括ケアシステムにおけるがん薬物治療の指導的役割を果たし、高度で先進的な在宅医療を提供できる薬剤師の養成を主眼として、進めていきます。さらに、がん専門薬剤師（指導薬剤師）を目指す大学院生や薬剤師を対象としたキャリアパスセミナーを開催し、がん医療チームの一員として、『現場で科学する』薬剤師の養成を目指します。

文部科学省

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

《高度がん医療を先導するがん医療人養成》

外部評価報告書

（平成30年度）

京都大学

三重大学

滋賀医科大学

大阪医科大学

京都薬科大学

文部科学省 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

高度がん医療を先導するがん医療人養成

「外部評価報告書（平成30年度）」

1. 外部評価実施方針について

・外部評価は、評価委員による書面評価とする。

・評価委員については、３名の委員を選任する。

・評価項目については、「申請書」（H29年7月提出）に記載した達成目標・評価指標の分析評価をするため、「事業評価ガイドライン」（H24.3.29 がんプロ養成推進委員会）を基本として評価指標の適切性や達成状況などの、事業の実施状況を把握するため独自の評価項目をする。

2. 評価項目について

「外部評価項目」 3 ～

3.「高度がん医療を先導するがん医療人養成」について

「連携する大学」、「事業の概要」、「事業取組の実績」、
「事業取組の成果」、「事業の概念図」、 5 ～
「各大学の教育プログラム・コース」

4.「平成30年度　取組状況等」

「平成30年度　取組状況等」 10 ～

資料　1　「受入目標人数・入学者数・在学者人数」 45 ～
資料　2　「資格取得者数一覧」 46 ～
資料　3　「がんプロ履修生調査（要望・改善点）」 48 ～
資料　4　「がんに特化した講座の設置状況」 51 ～
資料　5　「セミナー・シンポジウム等の開催状況」 52 ～
資料　6　「インテンシブコース実施事業」 55 ～
資料　7　「医療チームの整備体制」 59 ～
資料　8　「キャンサーボードの体制」 61 ～
資料　9　「プロトコル作成への関与状況」 66 ～
資料　10　「国際学会・英文誌への発表一覧」 68 ～
資料　11　「国内学会・雑誌等への発表一覧」 73 ～
資料　12　「海外学会・シンポジウム等参加状況」 80 ～
資料　13　「国内学会・シンポジウム等参加状況」 83 ～
資料　14　「５大学連携海外合同教育セミナー」 90 ～
資料　15　「５大学連携学生短期研修プログラム」 98 ～

5. 評価について

「評価結果表」　106 ～
「講　評」　107 ～

6. 外部評価委員について

がん・感染症センター　都立駒込病院　放射線診療科（治療部）　唐澤克之　部長
名古屋大学　医学部附属病院　化学療法部　安藤雄一　部長・教授
川崎医科大学　総合医療センター　猶本良夫　病院長・特任教授

7. 評価実施日程について

令和元年 8月 6日　～　令和元年 8月27日

外 部 評 価 項 目

【教育プログラムコース】

1 各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み

2 がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか

3 コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか

4 がんに特化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況

5 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数

6 医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数

7 多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数

8 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績

9 コース履修者の医療チーム・キャンサーボードの開催数、期間等

10 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績

11 コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数

12 コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数

13 コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数

14 コース履修者の国際学会等への参加者数

15 コース履修者が国内学会等への参加者数

【シンポジウムやセミナー等の実施】

16 地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数

17 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）

18 インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況

【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】

19 コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み

20 国際交流プログラムの実施数

21 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数

【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】

22 がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数

23 多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況

24 がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況

25 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進

【事業の運営体制（実施、評価、連携）】

26 連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制

27 外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか

28 連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況

29 連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数

30 連携5大学　コース履修者の ｅ－learning 受講登録率

31 新たな ｅ－learning　講義科目の提供の取組みについて

32 主幹大学での事業支援事務組織体制

【事業の普及】

33 本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか

34 県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて

35 ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み

36 テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み

37 がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み

38 がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況

39 新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況

「高度がん医療を先導するがん医療人養成」について

連携する大学

京都大学、 三重大学、 滋賀医科大学、 大阪医科大学、京都薬科大学

事業の概要

我が国は世界に類を見ない超高齢化社会を迎えるとともに生産人口の減少、少子化と社会構造が大きく変わりつつある。一方、科学技術の進歩もめざましく、医療の分野でも新技術が次々生み出されている。我が国が今後も健全な社会を維持するためにも国民の健康長寿は必須であり、中でも我が国の死因の第一位であるがん医療に関しては、最先端の医療技術を活用しながら、ライフステージに合わせた多様な新ニーズに対応できる医療人の育成が求められている。

本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学において、プレシジョンメディシンを実現する「ゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成を目指す。

ゲノム医療では、ゲノム情報を理解し治療に結びつける医療人の育成に加え、家族性腫瘍などに対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成を行う。希少がん、小児がんにおいては、病態解明および新規医療開発を担う医療人を育成する。現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療の提供が必要になってきた。特に、ロボット手術や高精度放射線治療など最先端の治療を担う人材に加え、がんの診断時から緩和医療を担える人材を育成し、幅広い領域の医療人育成とがん医療の発展に貢献する。

平成 30 年度　事業取組の実績

高度がん医療を先導する医療人の育成を目指すための取り組みとして、「ゲノム医療従事者の養成」6 コース、「希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成」5 コース、「ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成」13 コース、全 24 の多様な教育プログラムコースを平成 29 年度に開設した。平成 30 年度のがんプロ履修生の受入目標人数 35 名のところ、受入実績は 34 名であり、概ね受入目標人数と同等のがんプロ履修者は確保した。

高度がん医療を先導する医療人養成基盤の強化に向け、5 大学が連携し、各大学の特色を活かした多様な教育プログラムを構築するため、人材交流、多職種交流、国際交流を推進する事業を実施した。

国際交流・人材交流プログラムでは、スウェーデン王国ストックホルムにおいて「5 大学連携海外合同教育セミナー GAP 2018」 を企画し、教員 4 名、大学院生 5 名が GAP conference 2018、カロリンスカ研究所での「molecular tutor board」に参加し、最先端のがん研究者とのディスカッションの場を提供した。

人材・多職種交流プログラムでは、連携 5 大学の学生短期研修プログラム、医療フォーラムを企画実施し、京都大学拠点だけでなく大阪大学・近畿大学拠点との近畿 3 拠点合同フォーラム等を開催した。また、地域のがん診療拠点と連携した多職種交流プログラムとして、がんチーム医療研究会、癌化学療法研究会、緩和ケアセミナー、三島圏域がん研究会等の地域医療機関・団体と連携した人材交流・多職種交流プログラムを実施した。

専用ホームページにより、広報活動の実施、地域医療貢献のための各種フォーラムや公開講座等の開催情報を含め、新たに活動報告もできるように更新し、拠点活動を積極的に公開した。

これらの取組事業全体を統括する 5 大学連携「事業推進運営委員会」を 3 回開催して、基本計画の協議・決定、評価を行い、本事業の円滑な推進に取り組んだ。

平成 30 年度　事業取組の具体的成果

高度がん医療を先導する医療人の育成を目指すための取り組みとして、引き続き、「ゲノム医療従事者の養成」6 コース、「希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成」5 コース、「ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成」13 コース、全 24 の多様な教育プログラムコースを開設し、34 名のがんプロ履修者を受け入れた。

教育プログラムコースでは、各大学の特色を生かして、長年積み重ねてきた教育インフラを基に、ゲノム医療の臨床実装、希少がんと小児がん、さまざまな社会環境における医療や多岐にわたる併存症への取組等、多分野にまたがる総合的な医療を意識して、各領域においてバランスを踏まえ、また、遺伝性腫瘍、AYA がんなど複数臓器、長期間のフォローアップが必要な課題に対して、診療科・職種横断的な人材育成が可能な教育プログラムコースを提供することができた。これにより、履修する学生には、幅広い領域からがんプロフェッショナルとしての教育を教授することができた。

高度がん医療を先導する医療人養成基盤の強化に向け、5 大学が連携して人材交流、多職種交流、国際交流を行う中で、各大学の特色を生かした多様な教育プログラムを構築することができた。

国際交流・人材交流・多職種交流プログラムでは、スウェーデン王国ストックホルムにおいて「5 大学連携海外合同教育セミナー GAP 2018」 を実施し、GAP conference 2018 への参加、カロリンスカ研究所での「molecular tutor board」への出席、「the New Karolinska Hospital (NKS) 」での施設見学等を行い、海外最先端のがん教育・研究施設等にて情報収集を行うと共に、がんプロ履修生自身がカロリンスカ研究所の研究者を前にして意見交換する機会を提供し、がんプロ事業の推進を行った。さらに、履修生が国際学会に参加するだけでなく、研究成果発表を前提とする学生に対して経費支援を行い、学修研究意欲の向上を図った。

人材・多職種交流プログラムでは、連携 5 大学からがんプロ履修生 15 名を選抜し、京都大学での 2 日間の「学生短期研修」を実施した。この研修では、研修生が一同に介した共通研修の後、「ゲノム医療コース」、「小児がん/AYA 世代コース」、「緩和ケアコース」の 3 コースに研修生が分かれ、講義だけの座学ではなく、履修生同士でのフリーディスカッション、多職種が協働する医療現場でのカンファレンス参加、事例検討、ラボ見学、病棟回診等のコース別研修を受け、がんプロ教育を受ける履修生同士の共通意識の向上を図った。

また、連携大学の三重大学での「連携 5 大学医療フォーラム」の開催、京都大学拠点だけでなく大阪大学・近畿大学拠点の「近畿 3 拠点合同フォーラム」への講演者派遣等の積極的に取り組むことで、連携大学・他拠点間の交流を実施することができた。

地域のがん診療拠点と連携した多職種交流プログラムとして、がんチーム医療研究会、癌化学療法研究会、緩和ケアセミナー、三島圏域がん研究会等の実施により、地域医療機関・団体との実践教育、多職種教育を実施することができた。さらに、他拠点が開催するシンポジウムであるが、本拠点の履修生による研究成果発表の推薦を行い、他拠点との人材交流を行った。また、各大学のがん相談支援センターががん患者や家族からの意見を集約して、教育内容に反映するシステムを取り入れることで、がん患者の視点に立てるがんプロフェッショナルとしての教育を行うことができた。

社会への普及活動としては、がんプロ専用ホームページのサイト項目に「5 大学医療フォーラム」を追加して、フォーラム内容の映像による公開、サイト項目「活動報告」を追加して、事業活動の報告をできるように更新した。これにより、拠点としての取組事業活動の可視化を図り、履修者及び地域医療関係者をはじめ社会から、拠点としてがんプロ活動の理解を得ることができた。掲載情報は京大拠点だけでなく、他拠点との公開講座や近畿地区 3 拠点とのフォーラムも掲載し、他拠点交流や多職種交流教育を図ることができた。

これらの取組事業全体を統括する 5 大学連携「事業推進運営委員会」を 3 回開催して、基本計画の協議・決定、評価を行い、がん教育プログラム事業の円滑な推進を図ることができた。

高度がん医療を先導するがん医療人養成プログラム

多様なニーズに対応できるがん専門医療人の輩出と教育プログラムの確立

（医師、薬剤師、看護師、医学物理士、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、データサイエンティストなど）

各大学の教育プログラム・コース

コ ー ス 名	養成する専門分野
京都大学	
プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	ゲノム
婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	希少がん・小児がん
希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	ライフステージ
がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	ライフステージ
ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	ライフステージ
がん免疫療法と新規分子標的薬・生物製剤治療を担う医療人育成コース（インテンシブ）	ライフステージ
高度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
家族性腫瘍(遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など)に対応できる医療人育成コース(インテンシブ)	ゲノム
ビックデータ医科学を担う人材育成コース(インテンシブ)	ゲノム
社会と交流できるがん相談支援者育成コース(インテンシブ)	ゲノム
三重大学	
婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児がん治療専門医養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	ライフステージ
ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	ライフステージ
地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	ライフステージ
ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成（インテンシブ）	ゲノム
ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース（インテンシブ）	ライフステージ
ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース（インテンシブ）	ライフステージ
地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース（インテンシブ）	その他
滋賀医科大学	
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	ゲノム
先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース（インテンシブ）	ライフステージ
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース（インテンシブ）	ゲノム
ライフステージに応じた集学的医療における放射線治療を担う医療従事者養成コース（インテンシブ）	ライフステージ
大阪医科大学	
婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	ライフステージ
京都薬科大学	
ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ

平成30年度　取組状況等

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
【教育プログラムコース】				
	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	事業期間中（5年間） 達成目標 （ゲノム医療従事者の養成）　40人 （希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成）　40人 （ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成）　99人 合計　179人　を受入目標人数とする。 平成30年度取組状況 拠点全体における平成30年度入学目標人数 35人 に対して、入学実績人数は 34人であり、概ね達成した。 各大学における平成30年度取組状況 京都大学: 平成30年度は、4/6の新入生オリエンテーションにおいて、多様な新ニーズに対する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン『高度がん医療を先導するがん医療人養成』の取組概要、がん教育の重要性を説明のうえ、がんプロ履修生の獲得に努めた。これにより、受入目標人数19名に対して入学実績人数22名で、受入目標人数は達成した。 三重大学: 平成30年度については、充足率を満たすために、大学院HPでの案内、近隣の大学および病院等への募集要項送付、三重県内のがん関連の研修会、セミナー等で各コースについての紹介を行い、放射線腫瘍医養成コースに1名、がん専門薬剤師養成コースに1名、看護師養成コースには1名が入学した。 滋賀医科大学: 30年度については、受入れ目標数に達するよう、各講演会・セミナーにおいて本事業及びコースの説明を行った。 大阪医科大学: 各コースとして入学者1名、大学全体として入学者3名を充足するため、ホームページや入試要項などで広報活動を実施し、婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース1名 、ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース1名 の入学者であった。なお、今後も充足するための広報活動等を実施する。 京都薬科大学: 大学ホームページおよび大学院パンフレット等による広報活動をはじめ、本学5～6年次生に対して、学内で大学院説明会を実施している。説明会では大学院進学の意義、「臨床腫瘍薬学」の重要性、ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース（がんプロコース）等の説明を行い、大学院進学を促進している。 30年度は、受入目標1人に対して入学実績人数は4人であり、受入目標人数を達成した。	（資料1） 受入目標人数、入学者数・在学者人数
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	事業期間中（5年間） 達成目標 専門医資格取得者数 100名を目標とする。 平成30年度取組状況 拠点全体として、32名の専門医の資格を取得した。	（資料2） 資格取得者数一覧

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			各大学における平成30年度取組状況 京都大学: 引き続いて、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた講習会を行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し専門医取得指導を行っている。 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) 他の事業であるが文科省ゲノムスーパードクター養成コース(1年間)に参加支援した。 がん薬物療法専門医取得または更新の単位となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会参加・発表のサポートを行った。 その他、Best of ASCOや日本癌治療学会など、がん薬物療法の知識取得に役立つセミナーなどに派遣した。 がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の取得に必須となる造血器、呼吸器、消化管、乳房領域の薬物療法が学会認定の指導医のもとで研修出来るプログラムを継続して施行している。 また受験のために必須となる病歴要約も専門医の指導教官が添削・指導している。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 当コース参加の大学院生には、婦人科腫瘍専門医取得にむけて、大学病院において症例の経験を積ませている。 さらに、学会発表や論文執筆の指導を行っている。 また、クリニカルシークエンスカンファレンスやゲノム関連研究会への瀬局的な参加を促している。 毎年コース修了生が婦人科腫瘍専門医を取得できるように取り組んでいる。 今年度は2人合格した。 (小児・AYA世代コース) コース履修者には大学病院で症例の経験を積むと同時に、毎週の小児血液がんカンファレンスの出席を義務付けており、すべての症例のディスカッションを通じて知識と経験の習得ができるよう研修を行っている。また、血液内科、整形外科腫瘍グループ、脳腫瘍ユニット、病理診断部との定期的カンファレンスを通じて、症例の経験に加えて他科連携の実際を習得できる。さらに、学会発表、論文執筆を義務付けており、指導を行っている。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療・医学物理士養成コース) 早朝に各臓器の放射線治療に関する勉強会(放射線治療科モーニングレクチャー)を行い、水曜日午後2時-4時に医学物理に関する特別授業を行い、放射線治療専門医試験・医学物理士認定試験に向けて理解を深めるような取り組みを行っている。 日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会、欧州放射線腫瘍学会、米国放射線腫瘍学会、米国医学物理学会など国内外の放射線治療関係の学会だけでなく、日本癌治療学会、日本乳癌学会、日本肺癌学会、日本泌尿器腫瘍学会、ASCO消化器癌シンポジウム、ASCO泌尿器癌シンポジウムなど、各臓器別のがん治療の知識取得に役立つ学会での発表の機会を設けた。 また、ESTRO School、医学物理士取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援した。 (外科治療・集学的診療コース) 領域別、疾患別、診断治療法ごとの各種専門医資格の取得に向けて、必要な経験、特に症例経験の集積等に十分配慮し、研修プログラム・講演を実施した。 (がん専門薬剤師養成コース) 日本医療薬学会がん専門薬剤師・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師・日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師の認定講習会を行うなど、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行っている。また、がんプロ後援セミナーや勉強会などを企画し、がんプロ履修生が最新のがん薬物療法に関する知識を習得できるよう取り組んでいる。 また、症例検討会を定期的に開催し、最新の文献紹介を通してがん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識を習得するとともに、臨床現場で活躍する薬剤師や医師と討議する機会を定期的に設けている。 (緩和ケアコース) コース参加の大学院生を対象に「身体症状のアセスメントとマネジメント」、「精神症状のアセスメントとマネジメント」、「緩和ケアにおける学際的アプローチ」に関する講義を系統的に行った。関連学会への参加・発表や論文執筆の支援を行った。また、緩和ケアの知識取得に役立つ教育セミナーや研修会への参加を積極的に支援した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学： 各コースのコーディネーターが責任を持って、研修カリキュラムに従った、コース履修者の指導・教育を行っており、受験に必要な各領域の受け持ち患者数が確保できるように、適切な患者の割り当てを行った。 また、専門医取得のための学会主催の教育セミナーに参加するための支援を積極的に行った。 さらに、大学内で開催する専門医取得に有用ながん治療セミナーは、がんプロ推奨セミナーとして、大学院の単位取得の対象セミナーとして認定した。 看護師養成コースでは、三重専門看護師会と協働しCNSコース修了生をフォローアップしている。ここでは、CNS認定のための準備や、継続的な教育を行い、がんプロ大学院修了後も継続して学ぶ仕組みを創っている。 滋賀医科大学： 履修案内において、それぞれのコースにおいて取得が見込まれる学会資格等の概要、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス（入学前・在学中・修了後）を掲載している。また、30年度においては、医師・医療スタッフ等を対象にがん専門医療人の育成に向けたセミナーを12回開催した。 大阪医科大学： 専門知識向上に向けて、がんセンター主催で外部講師を招いて年数回講演会を行い、取得への支援を行っている。 京都薬科大学： 「がん専門薬剤師」認定を受けるために、資格取得へ向けた指導を行っている。資格取得条件である「一般社団法人　日本医療薬学会」（5年間の入会が必要）への入会を促しており、在籍者6名中3名が当該学会に入会している。	
	3	コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか	平成30年度取組状況 京都大学： 引き続いて、コース履修者の満足度を満たす取り組みとして、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行い、調査結果をホームページにおいて公表した。 （がんプロ事業の継続を望むとの回答が多く寄せられている。） （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 京都大学病院が主催するエキスパートパネル（毎週火曜17時半～）の見学参加を推奨している。ゲノム医療の世界的動向を知るため、カロリンスカ大学病院におけるエキスパートパネルを見学し、参加した腫瘍内科医、腫瘍外科医、遺伝カウンセラー等とのdiscussionする機会を提供した。京都大学病院において、5大学履修生を対象とした2日間の短期研修を行い、がんゲノム医療の座学、エキスパートパネル参加、ゲノムデータベース検索の実習、模擬エキスパート、意見交換を行った。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 研究指導を行い、その成果報告のために、国内外の学会発表と論文作成の指導を行っている。さらに、婦人科腫瘍専門医取得のために、手術指導、症例カンファレンスを行っている。 また、がんゲノム医療への理解のために、クリニカルシークエンスカンファレンスやがん遺伝関連カンファレンスや勉強会への参加を促している。 （小児・AYA世代コース） 小児血液がん専門医取得に向けた症例の経験並びに、小児血液がん学会、血液学会、さらに関連する研究会などでの学会発表を行った。 （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース） 希望に添った研究テーマ、国内、国外学会における研究発表機会の提供。ESTRO schoolなどの最先端の放射線治療セミナーへの参加。講座内での定期的な進捗報告会の開催。 （医学物理士養成コース） 履修者の希望に添った研究テーマを設定し、研究発表機会を提供した。放射線腫瘍医コースと連携し、講座内での定期的な進捗報告会の開催し、放射線腫瘍学・医学物理学教員らのコメントをフィードバックした。 （外科治療・集学的診療コース） 学会、研究会、海外研修等への参加を積極的に推進、最先端の研究を遂行できるように環境を整備、産学連携研究にも参加させている。	（資料3） がんプロ履修生調査（要望・改善点）

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(リハビリテーションスタッフコース) 履修者と指導教員によるゼミ活動「Rehabilitation Unit for Cancer Survivor」を定期的に開催している。 (がん専門薬剤師養成コース) 現場における問題点を発見し、自分で解決するための能力を向上させるために、がんプロ大学院生1人1人にリバース・トランスレーショナルリサーチを目指した研究テーマを持たせ、そうした活動を通して医師および薬剤師と積極的に討議する機会を設けている。学会参加・発表やがんプロ協賛セミナーへの参加を通して、がんプロ大学院生のがん薬物療法および関連領域における知識や研究能力のスキルアップのための機会を積極的に設けている。 さらに知識や技能の習得および問題点を把握するために、がんプロ大学院生と指導教員や病院薬剤師が常に情報交換できる環境を整備している。現在までの活動成果をもとに、新たに抗がん剤副作用のバイオマーカーの探索・臨床研究における有用性の実証、抗がん剤の副作用低減薬の探索を開始した。 (緩和ケアコース) 定期的にミーティングを行い、情報交換、研究計画の進行状況の確認・支援を行っている。 三重大学: 他大学の講義を、e-learnigで受講可能とし、毎月、病院全体で開催されるTumor Boardや、がん関連診療科で開催されるがん医療についての講演会やセミナーをがんプロ推奨セミナーに認定し、臨床的なスキルを身につける教育を積極的に行っている。また、手術ビデオなどのe-learnig教材も作成し、いつでも受講できるよう満足度を満たすための取り組みを継続して行った。 また、看護師養成コースの講義では、非常勤講師として、全国的に活躍されている看護実践者・研究者、がん看護専門看護師を招いた講義をおこない、大学院セミナーとしても他専攻大学院生に公開した。 滋賀医科大学: ・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・がんプロ主催のシンポジウム、国際ジョイントセミナーおよび国内・国際学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果について第三者の評価を受ける機会を設け履修意欲の向上に努めている。 ・コース履修者がより能動的に学び、考察できるよう演習・実習形式の科目を設けている。 ・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・多様ながん医療の動向に対応するインテンシブコース主催セミナーを27回開催した。 ・次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。 ・がんプロ主催のシンポジウム、国際ジョイントセミナーおよび国内・国際学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果について第三者の評価を受ける機会を設け履修意欲の向上に努めている。 大阪医科大学: 各コースカンファレンスや症例検討会において、履修生に対して個別で指導行っている。 京都薬科大学: 教育研究環境整備に努めるほか、指導教員とがんプロコース履修学生の意見交換会を定期的に実施している。	
	4	がんに特化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況	平成30年度取組状況 京都大学、三重大学、滋賀医科大学では、平成24年度にがんに特化した講座を設置しており、活発な教育・研究を行っている。	(資料4) がんに特化した講座の設置状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			各大学における平成30年度取組状況 京都大学： 平成24年9月に当初計画どおり、「腫瘍薬物治療学講座（分野）」を設置、がんプロ経費にて特定助教を採用している。本講座は、アカデミアにおけるがんセンターの機能的運用の支援を行うとともに 1）専門的かつ先進的ながん診療の実践と教育 2）治験・臨床試験などの臨床開発の実践と教育 3）がんに関連する基礎研究 4）基礎研究を臨床に応用するTranslational Oncology 5）次世代の医療開発に繋げるキャンサーバイオバンクおよびがんクリニカルシークエンス事業 等を展開し、専門的な教育を推進している。 三重大学： 平成24年5月に「放射線腫瘍学講座」を設置し、放射線治療医の育成および診療・研究に取り組んでいる。放射線腫瘍医養成コースにはこれまで6名の入学があるが、平成30年度は新たに1名が入学した。 附属病院において放射線治療および先進医療開発に取り組むとともに、地域病院と連携して放射線治療の啓蒙をはかるためにセミナーや市民公開講座を開催した。 滋賀医科大学： 平成24年10月に、大学の正規講座として「臨床腫瘍学講座」が設置され、腫瘍学講義を学部および大学院で担当している。また、附属病院腫瘍内科および腫瘍センターを運営し、がん診療活動と先進医療開発に従事している。 さらに、地域病院と連携したセミナーや市民公開講座等を複数回実施している。 また、同講座より滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」の改定や「滋賀県がん対策の推進に関する条例」の策定・推進に引続き取り組んでいる。 臨床腫瘍学講座を設置し、附属病院腫瘍内科、腫瘍センターおよび大学附属先端がん研究センターを統括し、がん拠点病院、がんゲノム医療連携病院、滋賀県がん診療連携協議会および滋賀県がん対策推進協議会の運営を行うとともに、がんプロ事業コーディネートと統括を行っている。 ・教授1名、講師1名、特任講師4名、特任助教1名（臨床腫瘍学講座・腫瘍内科および腫瘍センター）を配置し、活発な教育研究活動を実施している。	
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	平成30年度取組状況 教員の指導技術向上等のため、教育研究者、看護師等を含めた医療関係者、がんプロ履修生を参加対象者としてフォーラム・シンポジウム、特別講演を実施している。また、インテンシブコースにおいては、自大学教職員だけでなく、他大学教職員も含めて、指導技術向上、医療技術向上のため、「がんチーム医療研修」、「専門薬剤師研修」を開催している。 上記以外にも各コース毎に、週1回程度の合同カンファレンスを行い、教員の指導技術、医療技術の向上に取り組むと共に、がん医療に関するセミナー、講演会等に積極的に参加した。 京都大学： 引き続いて、教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントへの取り組みとして、講演会、セミナー、研修会等を開催、また、各疾患別の症例カンファレンス、キャンサーボードの実施、さらに特定の病態に特化した疾患横断的な診療ボードを設置し積極的にFDに取り組んだ。 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) 京都大学は、米国MD Anderson Cancer Centerとの姉妹校であり、毎年開催されるMD Anderson Cancer Centerの姉妹校の学術交流（GAP:Grobal Academic Program）に、本がんプロの教員も参加し、世界的ながん対策や研究の方向性を学ぶ機会を設けている。特に、がんの予防や教育などの社会医学的な取り組みや、ゲノム医療や免疫療法の世界的動向を知ることにより、新たな視点での教育に生かすことを目的にしている。 5大学履修生を対象とした2日間の短期研修にも教員を参加させ、がんゲノム医療の座学、エキスパートパネル参加、ゲノムデータベース検索の実習、模擬エキスパート、意見交換におけるアドバイスを与える機会を行うとともに、今後の対応を検討した。	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況 （資料6） インテンシブコース実施事業

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 当教員が積極的に指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本産科婦人科学会にて開催される、指導医講習会に参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索する。 ①毎週の病理カンファレンス（婦人科腫瘍医と病理医、20名参加）、 ②毎週の画像カンファレンス（婦人科腫瘍医と放射線診断医、20名参加）、 ③毎週の放射線治療カンファレンス（婦人科腫瘍医と放射線治療医、6名参加）を行っている。また症例に応じ、2週に一度程度、 ④外科カンファレンスや、⑤泌尿器科カンファレンスに婦人科腫瘍医も参加して症例検討会を行うとともにFDに取り組んでいる。 ⑥クリニカルシークエンスカンファレンスにて最新のゲノム医学知識、情報を更新している。 (小児・AYA世代コース) ①毎朝の症例検討カンファレンス ②毎週の小児血液がんカンファレンス、骨軟部腫瘍カンファレンス ③1～2ヶ月に1回の脳腫瘍カンファレンス、造血細胞移植カンファレンス、病理カンファレンス、小児外科カンファレンスを継続して行っており、関連学会への参加、発表を通して、症例の詳細な検討を行うとともにFDに取り組んでいる。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) スタッフ全員が指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会にて開催される、研修指導者講習会に教員医師が全員参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索する。 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃癌/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファンレンス、膵癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移キャンサーボード等、各ユニットカンファレンス・キャンサーボードへの参画 (外科治療・集学的診療コース) がんプロFDのため学生や教員の発表や情報収集をサポートした。 ・第26回日本乳癌学会学術総会　多数 ・Kyoto Breast Cancer Consensus Conference (KBCCC) 2018　多数 ・京都大学ーソウル大学　セミナー　15名 (医学物理士養成コース) ①放射線腫瘍医、診療放射線技師、看護師、医学物理士合同の症例検討会(約30名)に毎週2日参加し、放射線治療の臨床の現状把握及び課題の抽出を行っている。この検討会にはがんプロ学生も参加している。 ②医学物理士に認定されている教員を対象に、今後資格更新の際に必須となる学会主催の教育セミナーおよび学会への参加のサポートを行った。 日本医学物理学会：3名 日本放射線腫瘍学会：3名 米国医学物理学会：1名 アジア放射線腫瘍組織連合(FARO)：1名 欧州放射線学会：1名 欧州放射線腫瘍学会スクール：2名 アジア-欧州放射線腫瘍学会：2名 四次元放射線治療ワークショップ：1名 (がん専門薬剤師養成コース) 指導教員は指導能力向上のために講演会・セミナー（ex. 10月4日京都大学病院薬剤部研修室：参加者52名、2月7日京都教育文化センター：参加者37名、2月16日京都大学薬学部記念講堂：参加者92名など）の主催。参加を通して、FDに取り組んでいる。また、がんプロ学生についても、勉強会やセミナーへの参加を励行し、がん薬物療法における必要な専門知識やがん薬物療法についての最新知見の習得を目的として、国際学会などに参加して情報交換を行うことを支援している（2018.9.12-16 IASP2018@USA）。さらに、勉強会にて、指導教員、がんプロ学生およびがん専門薬剤師で月に数回ディスカッションする機会を設けている。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学： 医師コースでは、病院全体のTumor Board(月1回)、骨転移合同カンファランス(月1回)のほかに、緩和ケアセミナー（年3回）、緩和ケアフォローアップ研修会（年1回）、早期からの緩和ケアを考える会（年1回）、がんチーム医療研究会（年1回）、三重がん放射線治療研究会（年1回）、医科歯科連携人材養成研修会（年2回）などの診療科横断的なセミナー、研修会を定期的に開催するとともに、各がん関連診療科で開催される症例検討会、カンファレンスやがん医療に関するセミナー、講演会に積極的に参加し、教員の指導能力向上のためのFDに取り組んだ。 看護コースでは、大学院FDとして、Moodleを活用したアクティブラーニングについて、昨年度に引き続き、8月と2月に研修会を行った。教員の参加率は了解とも80%であり、参加者からの評価も高かった。 大学院生が、専攻分野以外の教員の研究を知る機会とするために、教員の研究活動を発表する機会を設け、それらの研究についての質疑を通して、大学院生と教員が歓談する「研究交流会」を継続して行っている。今年度は9月19日に開催し48名が出席した。 滋賀医科大学： 各教員等の知識修得の機会として、病診連携フォーラムや勉強会を開催 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・若年がんを考える会　2回（6月23日/34名、3月2日/27名） 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・腫瘍センター講演会　4回（10月24日/42名、11月2日/27名・2月13日/47名、3月12日/45名） ・緩和ケア講演会　in　滋賀　1回（12月4日/71名） 大阪医科大学： 三島圏域緩和ケア研修会の開催　10/27、10/28　参加者　87名、 がん研究会　5/16　75名　9/13　87名　1/4　85名　、 OMC－緩和ケアセミナー　9/29　30名 京都薬科大学： 教員の指導能力向上等のため、主にがんプロコース履修学生が受講する「特論講義」において、外部招へい講師による特別講義として実施している。 【医薬品評価科学特論】 ・「医薬品承認申請と医薬品評価」（7月31日、参加者10名） 【キャリアパスセミナー】 ・「薬物治療の質的向上を目指して～薬剤師に研究が必要な理由～」他（2月10日、参加者53名）	
	6	医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数	平成30年度取組状況 京都大学： 放射線治療科は、治療に関わるすべての癌腫においてカンファレンスを開催し、チーム医療を実践している。 化学療法においても、がん種ごとに関連する専門診療科、腫瘍内科、薬剤部、看護部など診療科、職種横断的なカンファレンスを開催するとともにチーム医療を実践している。 緩和ケアに関しても、緩和ケア専門医4名、精神科医2名、看護師3名、薬剤師1名、作業療法士1名、MSW1名による多職種専門の緩和ケアチームを形成し、チーム医療を実践している。 三重大学： 緩和ケアセンター内に緩和ケアチームが整備されており、センター長、常勤の身体症状に携わる医師を配置し、精神科医、麻酔科医、鍼灸師、薬剤師、看護師、作業療法士、臨床心理士等も緩和ケアチームに加わり、多角的な緩和ケア活動が可能な体制になっている。 三重大学に入院して治療を行うがん患者に対して、歯科口腔外科医、歯科衛生士のチームによる治療前の口腔ケアの実施を行う体制を整備している。	（資料7） 医療チームの整備体制

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： 附属病院腫瘍内科、腫瘍センター化学療法室・緩和ケアチーム、化学療法チームを設置して運用している。 大阪医科大学： 多職種による緩和チームの編成がなされており、毎週木曜日に定例会を開催している。	
	7	多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数	平成30年度取組状況 京都大学： がんを専門とする内科医・外科医・放射線治療医、あるいは病理診断医・放射線診断医・各種医療スタッフの多職種が参集する「キャンサーボードの体制」（資料８－１）のとおり、①脳腫瘍・小児脳腫瘍がんユニットカンファレンス～㉑胆道がんユニットカンファレンスが活動している。 三重大学： 大学病院内の多職種（医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー等）の参加が可能なTumor Board、また、骨転移合同カンファレンスを開催した。 滋賀医科大学： ・平成30年度腫瘍センター主催のキャンサーボード：適宜開催 ・臓器別キャンサーボードは20あり、各診療科がチーム医療に基づき毎週もしくは隔週で開催 大阪医科大学： 緩和ケアチーム、がん相談支援センターも多職種で編成されて活動している。	（資料8） キャンサーボードの体制
	8	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績	平成30年度取組状況 京都大学： 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組として、診療科横断的なキャンサーボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的な合同カンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている。 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) 多職種によるがん遺伝子パネル検査に関するエキスパートパネルを毎週火曜17時半から実施しているが、本コース履修の大学院生の参加も推奨している。 京大病院では、関連する臨床科が合同で症例検討を行うユニット制を各癌腫ごとに毎週開催して、治療方針を決めているが、各ユニットには大学院生も参加している。 入院がん薬物治療に関する症例検討会を週1回開催、診療科・職種横断的な外来化学療法に関する検討会を月1回、外来化学療法を安全かつ円滑に運用するため、専門医、看護師、薬剤師、SWなどによるチーム医療会議を毎月開催し、安全管理、実務管理を行っている。 また、京大がんセンターにおけるがん薬物治療を安全に実施するため、がんに関連するすべての診療科、薬剤部、看護部、医療安全部、病理部、緩和ケアチームなどによる会議を隔月で開催し、医療安全部、病理部なども含めて、医療の質の向上に貢献している。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 医療チーム：医師と看護師により、婦人科がん患者に関するカンファレンスを行っている。また緩和医療の方針について、メディカルソーシャルワーカーも含めたカンファレンスを行っている。 キャンサーボード：婦人科医、病理医による病理カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線診断医による画像カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線治療医による放射線治療カンファレンスを行っている。婦人科医、腫瘍内科医による化学療法、ゲノム医療についての治療カンファレンスを行っている。 （婦人科コース） 毎週水曜日に研修医・修練医・医員・スタッフによる臨床カンファレンスおよび画像カンファレンスを行い、診療の質の向上に取り組んでいる。	（資料8） キャンサーボードの体制

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(小児・AYA世代コース) 小児科のみによるカンファレンスに加え、整形外科、小児外科、脳外科、放射線治療科、病理診断科、血液内科、さらに必要に応じて成人診療科各科との横断的なカンファレンスや診療を行っており、質の向上を図っている。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンスをはじめ、各がん診療ユニットの診療、カンファレンスを通じて、単科だけの診療方針でなく、multidisciplinaryな診療方針について検討する機会を提供している。がんプロコース生には積極的にカンファレンスにて発言するように指導し、主体的に放射線治療科の方針を決定する能力を養成する。 (外科治療・集学的診療コース) 専門の異なる各種の専門家が一同に会するように設定するとともに、国内外の他大学、がん診療専門施設の医療チームを訪問、ボードの見学、意見交換を実施、また、雑誌、学会等のキャンサーボードへの参加を推進している。 (リハビリテーションスタッフコース) 各履修者の研究分野に応じて京大病院のがん診療カンファレンス等（がんサポートチームのカンファレンス等）に参加（2週に1回程度） （緩和ケアコース） 緩和ケアチーム依頼を受けた事例検討会を週1回開催し、医師、看護師、薬剤師、作業療法士、MSWなどによる多職種横断的なアセスメントとケアの実践を行っている。 三重大学: 毎月1回開催される、がんセンターの各部門のリーダーと三重県健康福祉部の担当者で構成されるリーダー会議で、緩和ケアチーム、口腔ケアチームの活動状況やTumor Board、骨転移合同カンファレンスの運営状況が報告され、質の向上に向けた協議を行っている。また、緩和ケアチームの定例会が毎月1回開催され、活動内容についての問題点を把握し、解決に向けての協議を行った。 滋賀医科大学: ・全科キャンサーボードを行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。 大阪医科大学: 緩和ケアチームの定例会が毎週1木曜日に開催されている。がん相談支援センターも多職種で編成されて活動している。	
	9	コース履修者の医療チーム・キャンサーボードの開催数、期間等	平成30年度取組状況 京都大学: 実施件数　676件 各コースにおいては、多くの合同カンファレンス等の取り組みが行なわれている。 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) クリニカルシークエンスユニット（腫瘍内科医、病理医、外科医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、バイオインフォマティシャン、基礎研究者、週1回）、 胃癌・GISTユニット（腫瘍内科医、消化管外科、毎週1回）、 大腸がんユニット（腫瘍内科医、消化管外科、毎週1回）、 膵がんユニット（腫瘍内科医、肝胆膵外科、放射線診断科、毎週1回）、 食道がんユニット（腫瘍内科医、消化管外科、放射線治療科、頭頸部外科、毎週1回）、 原発不明がん・希少がんユニット（腫瘍内科、血液内科、病理診断科、放射線診断科など、随時）、 NETユニット（腫瘍内科医、消化管外科、肝胆膵外科、放射線診断科、病理医、内分泌・糖尿病科、など、隔週） メラノーマユニット（皮膚科、腫瘍内科、月1回） (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 医師と看護師によるカンファレンス；毎週1回月曜日午後。緩和医療の方針についてのカンファレンス；適時（2週間に1回程度）。キャンサーボード；病理カンファレンス毎週2回（月、水の朝）。画像カンファレンス毎週1回（水曜日の夕方）。放射線治療カンファレンス毎週1回（木曜日の夕方）。以上を行っている。	（資料8） キャンサーボードの体制

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(小児・AYA世代コース) ①症例検討カンファレンス （小児科血液グループ、毎朝） ②小児血液がんカンファレンス（小児科血液グループ、毎週） ③骨軟部腫瘍カンファレンス（小児科血液グループ、整形外科腫瘍グループ、毎週） ③小児脳腫瘍カンファレンス（小児科血液グループ、脳外科腫瘍グループ、放射線診断科、1～2ヶ月に一度） ④造血細胞移植カンファレンス（小児科血液グループ、血液内科、2ヶ月に一度） ⑤病理カンファレンス（小児科血液グループ、病理診断科、2ヶ月に一度） (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス（毎週火曜日）、頭頸部癌ユニットカンファレンス（毎週木曜日）、食道癌ユニットカンファレンス（毎週水曜日）、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス（毎週木曜日）、乳癌ユニットカンファンレンス（毎週水曜日）、膵癌ユニットカンファレンス（毎週金曜日）、大腸癌ユニットカンファレンス（毎週火曜日）、前立腺癌ユニットカンファレンス（毎週水曜日）、小児癌ユニットカンファレンス（毎月1回火曜日）、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス（不定期）、血液腫瘍カンファレンス（隔週火曜日）、骨転移キャンサーボード（第3火曜日）等、各ユニットカンファレンス・キャンサーボードへの参画 具体的には、各疾患の初診の段階で放射線治療科医師が主科の先生方と共に診察を行い、当日に治療方針について検討し、適正な治療方針を決定する。 この制度により症例の治療方針が速やかに適切に決定され、時間的なロスがなくなり、医療者、患者ともに大きなメリットがある。 また、治療中、治療後においても主科の先生方とともに外来をすることで、治療方針の変更、再発のチェック、再発後の救済治療などの方針決定も速やかにされるため、京大病院のがん治療の質向上のために貢献している。 (医学物理士養成コース) 医療チーム： 放射線治療医師・診療放射線技師・医学物理士・看護師で定期的に会議を開き，診療の問題点，安全が確保されているか，などを討論する会議を設けている。 病院主催の放射線品質管理委員会に参加しており，医学物理士が副議長を務めている。 キャンサーボード： 放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士カンファレンス(毎週月曜日)，放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)，医学物理グループカンファレンス(毎週水曜日)，前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)，放射線治療症例検討会(毎週月・水曜日) (外科治療・集学的診療コース) 症例カンファレンス 週1回 研究カンファレンス 週1回 (リハビリテーションスタッフコース) 履修者が専門性に応じて、京都大学医学部附属病院リハビリテーション部で、がん患者のリハビリテーション治療に参加 （緩和ケアコース） 緩和ケアチームのカンファレンスを毎週1回木曜日昼に開催。 三重大学: 病院全体のTumor Board(月1回)、骨転移合同カンファレンス(月1回)のほかに、乳癌治療検討会(月2回)、婦人科カンファレンス（毎週1回）、耳鼻科カンファレンス（毎週1回）、脳神経外科カンファレンス（毎週1回）、呼吸器カンファレンス（月2回）、食道カンファレンス（月1回）、産婦人科症例検討会（毎週1回）歯科口腔外科・放射線治療科合同カンファレンス（毎週1回）、乳腺疾患術後検討会（月2回）、血液腫瘍内科全体症例検討会（毎週1回）、血液内科検討会（毎週1回）、乳房再建検討会（月1回）、乳腺疾患カンファレンス（2ヶ月に1回）、がんゲノム医療エキスパートパネルを開催している。 滋賀医科大学: ・附属病院腫瘍センターに教育・研修部門を設置し、コース履修者の医療チーム、キャンサーボードへの参加を許可している。H30年度は6回程度、コース履修者が参加している。 大阪医科大学: がん医療総合センターとして月2回程度開催している。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	10	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	平成30年度取組状況 京都大学： 平成30年度提出件数 【院内がん登録】 国立がん研究センターへ　3,405件 【地域がん登録】 京都府医師会へ　3,417件 三重大学： 三重大学がんセンター内で、院内がん登録と三重県の地域がん登録業務を実施しており、29年度の院内がん登録件数は2371件で、データはすべて地域がん登録データと連携して活用された。 滋賀医科大学： ・附属病院腫瘍センターにがん登録部門を設置している。 ・がん登録の活用に向けた手順書を設けて院内活用を図っている。	
	11	コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数	平成30年度取組状況 京都大学： 25件のがんプロ履修生によるプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与が達成され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。 滋賀医科大学： ・平成30年度コース履修者が関与した件数：4件 大阪医科大学： 切除不能進行胃癌に対するTS-1+オキサリプラチン（L-OHP）+イリノテカン（CPT-11）（TIROX）併用療法　第I相臨床試験 1件	（資料9） プロトコル作成への関与状況
	12	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	平成30年度取組状況 がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えており、がん医療のグローバル展開を見据え、英文による教育研究成果発表を推進している。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。 拠点全体として、87件の国際学会、英文誌への発表をした。 各大学における平成30年度取組状況 京都大学： 「がんプロ養成管理委員会」において、履修生自身が海外において研究成果を発表させるため、国際学会への積極的な参加を推進するための旅費等を予算化し発表推進への体制を構築している。 英文研究発表件数は、57件（学会発表 23件、論文発表　34件） 　うち筆頭発表数は、34件 （学会発表 17件、論文発表 12件） 三重大学： 国際学会、英文誌への研究論文発表数　2件 滋賀医科大学： 【国際学会・シンポジウムでの発表】10件 【英文誌への発表】 5件	（資料10） 国際学会、英文誌への発表一覧

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			大阪医科大学： 国際学会、英文誌への研究論文発表数　9件 京都薬科大学： 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、国際学会・英文誌への成果発表を促している。 国際学会研究発表 6件　うち筆頭発表 2件	
	13	コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	平成30年度取組状況 がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えており、国内学会・和文誌での研究発表を推進させるため、指導教員の推薦の基、論文名、国内学会・和文誌名、研究成果等を記載させ、国内学会・和文誌への発表を推し進めている。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。 拠点全体として、121件の国内学会、和文誌への発表があった。 各大学における平成30年度取組状況 京都大学： 「がんプロ養成管理委員会」において、履修生自身が国内において研究成果を発表させるため、国内学会への積極的な参加を推進するための旅費等を予算化し発表推進への体制を構築している。 研究発表件数は、 61件（学会発表 56件、論文発表 5件） うち筆頭発表数は、43件（学会発表 41件、論文発表 2件） 三重大学： 学会への研究論文の発表については、各コースのコーディネーターが責任を持って、指導・教育に当たり、学会発表を積極的に奨励支援を行った。 国内学会発表件数　26件　和文誌での発表件数　1件 滋賀医科大学： 【国内学会・シンポジウム発表実績】 17件 【和文誌への発表】0件 大阪医科大学： 国内学会、和文誌への研究論文発表数　10件 京都薬科大学： 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促している。 国内学会研究発表 6件　うち筆頭発表 2件	（資料11） 国内学会、雑誌等への発表一覧
	14	コース履修者の国際学会等への参加者数	平成30年度取組状況 がん医療のグローバル展開を見据え、国際学会等へのがんプロ履修生の参加を推進しており、拠点全体として42名の参加者となった。 各大学における平成30年度取組状況 京都大学： 「がんプロ養成管理委員会」において、海外腫瘍学会に参加するだけでなく英文研究発表・研究情報交換を前提とする学生に対して旅費等を予算化し経費支援する体制を構築している。 国際学会等への参加者数は、29名 三重大学： 国際学会等への参加人数　1人	（資料12） 海外学会・シンポジウム等参加状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学: 【国際学会等（海外開催）への参加者数】3名 大阪医科大学: 国際学会等への参加者数　4名 京都薬科大学: 国際学会等への参加者数　3名	
	15	コース履修者が国内学会等への参加者数	平成30年度取組状況 がんプロ履修生が専門的知識を収集できる国内腫瘍学会への積極的な学会参加を推進しており、拠点全体として 164名の参加者となった。 各大学における平成30年度取組状況 京都大学: 「がんプロ養成管理委員会」において、国内学会へのがんプロ履修生の積極的な参加と研究成果発表を推進するための旅費等を予算化し助成支援する体制を構築している。 国内学会等への参加者数は、89名 三重大学: 国内学会等への参加について、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行った。 国内学会等への参加者数　23人 滋賀医科大学: 【国際学会等（海外開催）への参加者数】28名 大阪医科大学: 国内学会等への参加者数　延14名 京都薬科大学: 国内学会等への参加者数　10名	（資料13） 国内学会・シンポジウム等参加状況
【シンポジウムやセミナー等の実施】				
	16	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	事業期間中（5年間）　達成目標 本事業に係るシンポジウムやセミナー等の実施数240件、参加者14,400人を目標とする。 平成30年度取組状況 各種団体（地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、患者団体等）との連携した取り組みを推進した。 各大学における平成30年度取組状況 京都大学: 京都大学では、地域貢献のためインテンシブコース（7コース）事業を運用しており、さらに地域医療機関等の各種団体とも連携した取組み推進している。	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況 （資料6） インテンシブコース実施事業

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) がん治療に係わる基幹病院の医師・看護師・薬剤師を対象に、最新かつ高度な専門的知識・技術の普及、およびチーム医療のがん専門医療職養成するために、「京大病院がんチーム医療研修」を毎年開催している。 がん薬物療法を中心に基本的スキルの修得だけではなく、京大病院の最新システムの研修を行った。さらに、各施設の現状・問題点・解決法について意見交換を行い、その後の問題点解決に向けた取り組みをフィードバックした。 平成30年度：がんチーム医療研を3回（2019.1.22-23, 2019.2.19-2.20, 2019.3.12-13）開催し、合計10施設から薬剤師・看護婦・医師32名が参加した (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 平成30年10月12日京都がん研究会を主催し、最新のがん研究のなかでがん免疫とゲノム医療について意見交換を行った。また平成31年3月2日に京都薬科大学にて、医療者を対象とした市民公開講座で子宮頸がんに対する啓もう活動を行った。 (小児・AYA世代コース) 平成31年3月9日京都府医師会館にて、第一回京都がんと生殖医療研究会を開催し、若年・小児がん患者における妊孕性温存について討議を行なった。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース) 市中病院を対象に、より有用性の高い知識と技術の修得を目的としたセミナーを2回開催し、参加施設に対して最新の知見に基づいた放射線治療法を提示した。また放射線科の全職種を対象に医用画像解析に有用な深層学習についての講義・実習形式のセミナーを開催した. 平成30年9月1日　第46回京都放射線腫瘍研究会（103名） 平成31年3月9日　第47回京都放射線腫瘍研究会（85名） 平成31年2月17日　京大がんプロセミナー「Deep learningによる医用画像解析の深化と進化」（69名） (外科治療・集学的診療コース) セミナーを開催 ・"Collaboration between breast and plastic surgery in caring for breast cancer patients"平成30年7月30日（月）20名 ・がん細胞間の転写不均一性と薬剤抵抗性のエピジェネティック制御　平成30年8月22日20名 ・人工知能(AI)の基本とAIを用いた乳腺画像の臨床応用研究　平成30年12月17日（月）20名 (リハビリテーションスタッフコース) チャイルドケモハウスで実施されるAYA世代向けイベントの運営に参加し、AYA世代の健康増進、就職支援に寄与した。 (がん専門薬剤師養成コース) 平成30年2月7日に地域薬剤師を対象とした研究会HCC病診薬連携セミナー」を京都教育文化センターでがんプロ後援として開催（参加者37名）。 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた「地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」を、今期事業から「第2回 地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」（インテンシブコース）として開催した。（平成30年2月16日、参加者92名）	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学: 膵がんセミナーを5月22日に開催（67名参加） 骨髄腫セミナーin MIEを6月8日に開催（32名参加） 第10回三重メディカル・オンコロジー・フォーラムを6月22日に開催（53名参加） 第26回三重肺癌研究会を7月14日に開催（28名参加） 第6回三重骨転移セミナーを8月31日に開催（50名参加） Mie lung cancer symposiumを9月13日に開催(34名参加） Mie lung cancer forumを11月1日に開催（23名参加） Lymphoma seminar in MIEを11月2日に開催（33名参加） 「日本のがん医療と研究を見据えて」特別講演会を11月2日に開催（50名参加） 三重泌尿器科臨床セミナーを11月9日に開催（26名参加） Miw breast cancer symposiumを11月16日に開催（27名参加） がん性疼痛セミナーを1月18日に開催（68名参加） 「若い女性の将来の妊娠と出産を考える」妊孕性温存セミナーを1月27日に開催（226名参加） 第7回がん薬物療法セミナーを2月19日に開催(40名参加） Mie lung cancer symposiumを3月8日に開催（30名参加） 「がん医療地域連携」特別講演会を3月15日に開催（17名参加） 第8回三重血液フォーラムを3月15日に開催(28名参加） 第28回三重乳腺診断フォーラムを3月30日に開催(84名参加） 三重県内の医療機関、医師会と連携し、緩和ケア研修会を30年5月26,27日（29名参加）、11月11日(45名参加）に開催、緩和ケアセミナーを30年7月26日（113名参加）、10月25日（60名参加）、31年1月24日（65名参加）に開催した。また、緩和ケアフォローアップ研修会を30年8月26日（24名参加）、第9回早期からの緩和ケアを考える会を30年5月11日に開催（26名参加）した。 三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、第23回がんチーム医療研究会を30年9月７日に開催（75名参加）した。 歯科医師会と連携した、医科歯科連携推進人材養成研修会を、30年7月1日に開催（160名参加）した。 県内各医療機関にて放射線治療を行っている医師・技師・看護師を対象に、第4回三重がん放射線治療研究会を開催31年3月23日に開催(54名参加） 滋賀医科大学: 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:2回（10月7日/103名、3月2日/43名） ・滋賀県がん薬物療法conference:3回（7月4日/20名、9月1日/35名、11月7日/29名） ・ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー:3回（4月24日107名、11月9日/42名、3月12日/45名） ・ゲノム医療薬剤師研修会in京都1回（9月23日/79名） 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・若年がんを考える会:1回（6月23日/34名） ・病診連携フォーラム:1回（6月17日/39名） 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座:2回（11月4日/156名、2月3日/169名） ・がん免疫療法カンファレンスin滋賀:1回（8月24日/40名） ・‘がんを学ぼう’市民公開講座（NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催）:6回（7月26日/33名、8月30日/25名、9月13日/28名、10月12日/20名、11月19日/22名、12月14日/30名） ・腫瘍センター講演会:4回（10月24日/42名、11月12日/27名、2月13日/47名3月6日/43名） ・滋賀県がん医療フォーラム（滋賀県との共催）:1回（1月27日/333名） ・緩和ケア講演会in滋賀:1回（12月4日/71名） ・滋賀県肺癌診療講演会:1回（5月23日/41名） 【その他】 ・リレー・フォー・ライフ ・ジャパン2018（日本対がん協会事業に協力・開催支援）:1回（10月12日、13日/550名） 大阪医科大学: 大阪医科大学:三島圏域緩和ケア研修会の開催　10/27、10/28　参加者　87名、がん研究会　5/16　75名　　9/13　87名　　1/4　85名　、　OMC－緩和ケアセミナー　9/29　30名　、がんセンター講演会　6/14　39名　、10/11　15名、3/22　90名　、ネットワーク協議会　1/24　47名	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			京都薬科大学： ・地域医療機関合同セミナー（2018年4月26日、参加者117名、渡辺西賀茂診療所と連携） ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン京都2018（2018年9月29日～9月30日（台風接近のため29日20時で終了）、参加者300名、日本対がん協会事業に協力・開催支援） ・卒後薬剤師セミナー －肺がんー（2018年11月11日、参加者105名、後援：京都府薬剤師会） ・第4回市民公開講座「子宮頸がん」（2019年3月2日、参加者86名、後援：京都府薬剤師会）	
	17	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	平成30年度取組状況 社会への情報発信の取組事業として、別添資料「セミナー・シンポジウム等の開催状況（平成30年度）」のとおり推進した。 各大学における30年度取組状況 京都大学： 京都大学では、社会への情報発信として市民公開講座や各種セミナー等に積極的に取り組んでいる。 （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） がんゲノム医療の実施体制には、まず病院内の事務、相談員、ソーシャルワーカーなどへの啓蒙と教育が必要であるため、がんゲノム医療連携病院説明会を開催した。 4/9（20施設、119名）、5/29（19施設、69名）、7/26（19施設、73名）、8/23（19施設、79名）、10/23（4施設,23名）、10/31　Web配信、1/16　Web配信、2/23 web配信 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 平成30年10月12日京都がん研究会を主催し、最新のがん研究のなかでがん免疫とゲノム医療について意見交換を行った。また平成31年3月2日に京都薬科大学にて、医療者を対象とした市民公開講座で子宮頸がんに対する啓もう活動を行った。 （小児・AYA世代コース） 平成30年3月17日に医療者、学校関係者、一般市民向けに小児がん拠点病院公開シンポジウムを開催し、小児がん拠点病院事業の進捗状況を報告するとともに地域医療連携につきパネルディスカッションを行った。 （外科治療・集学的診療コース） 平成30年5月19日第26回日本乳癌学会学術総会市民公開講座を開催、乳癌検診についてや、乳癌の遺伝子についての解説またゲストを招いてのトークなどを行った 参加約100人 （がん専門薬剤師養成コース） 平成30年2月7日に地域薬剤師を対象とした研究会HCC病診薬連携セミナー」を京都教育文化センターでがんプロ後援として開催（参加者37名）。 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院−薬局−在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた「地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」を、今期事業から「第2回 地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」（インテンシブコース）として開催した。（平成30年2月16日、参加者92名） （リハビリテーションスタッフコース） 「第13回AYA世代ピアサポートプログラム」を共催（平成31年2月17日(参加30人） 「関西がんのリハビリテーション研究会」を共催（平成30年9月29日、参加80人） 三重大学： 生命の駅伝とのジョイント市民公開講座「がんゲノム医療について」を30年5月13日に開催し、146名が参加した。 パープルリボンのウオークイベント、セミナー「膵臓がんについて学ぶ」を、30年9月16日に開催し、380名が参加した。 市民公開講座「がんの免疫療法について」を、31年3月21日に開催し、1253名が参加した。	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座：2回（11月3日/73名、1月21日/89名） ・‘がんを学ぼう’市民公開講座（NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催）：5回（8月29日/34名、9月29日/21名、10月31日/22名、11月29日/18名、1月25日/16名） ・滋賀県がん医療フォーラム（滋賀県との共催）：1回（2月18日/170名） 大阪医科大学： がんセンター市民セミナー　1/5　176名、三島医療圏合同市民公開セミナー　1/19　130名、市民公開セミナー　10/6　96名 京都薬科大学： 第4回市民公開講座「子宮頸がん」（2019年3月2日、参加者86名）を開催した。後援：京都府、山科区、京都府薬剤師会	
	18	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	平成30年度取組状況 京都大学： インテンシブ事業を活用して、継続して地域医療への貢献を推進している。 ・京都放射線腫瘍研究会プログラムを年2回実施 （平成30年9月1日、平成31年3月9日） ・がんプロセミナー「Deep learningによる医用画像解析の深化と進化」 （平成31年2月17日） ・がん専門薬剤師養成研修を実施 （平成31年2月16日） ・がんチーム医療研修を3回実施 （平成31年1月22～23日、平成31年2月19～20日、平成31年3月12～13日） ・海外遺伝医療視察報告会を2回実施 （平成30年4月27日、平成30年5月25日） を実施、順調に地域医療の貢献を進捗させた。 三重大学： 地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース：2回（7月29日/87名、2月3日/107名） ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース：9回（5月11日/26名、5月26-27日/29名、8月26日/24名、11月11日/45名、12月15日・1月5日・1月26日/5名、1月13-14日/10名、7月26日/113名、10月25日/60名、1月18日/65名） ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース：26回（4月11日/72名、4月16日/21名、5月9日/69名、5月28日/19名、6月13日/66名、6月18日/18名、7月11日/50名、7月14日/28名、7月23日/18名、9月7日/75名、9月10日/18名、9月12日/58名、9月13日/34名、10月10日/75名、10月15日/20名、11月14日/57名、11月19日/17名、12月12日/64名、12月17日/18名、1月9日/41名、1月21日/17名、2月13日/40名、2月18日/18名、3月8日/30名、3月13日/41名、3月18日/19名） ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース：21回（4月3日/19名、5月1日/15名、6月5日/18名、7月3日/12名、8月7日/17名、9月11日/13名、10月2日/18名、11月16日/18名、12月4日/17名、12月18日/9名、12月25日/12名、1月8日/14名、1月15日/9名、1月29日/11名、2月5日/16名、2月12日/12名、2月19日/11名、3月5日/17名、3月12日/10名、3月19日/13名、3月26日/11名）	（資料6） インテンシブコース実施事業

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：2回（10月7日／103名、3月2日／43名） ・滋賀県がん薬物療法conference：3回（7月4日／20名、9月1日／35名、11月7日／29名） ・ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー：3回（4月24日／107名、11月9日／42名、3月12日／45名） ・ゲノム医療薬剤師研修会in京都（9月23日／79名） ・平成30年度　薬剤部講演会（3月25日／35名） 【ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座：2回（11月4日／156名、2月13日／169名） ・滋賀県肺がん学術講演会　～肺癌診療Up to Date～（5月23日／41名） ・‘がんを学ぼう’市民公開講座（NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催）：6回（7月26日／33名、8月30日／25名、9月13日／28名、10月12日／20名、11月19日／22名、12月14日／30名） ・腫瘍センター講演会：4回（10月24日／42名、11月12日／27名、2月13日／47名、3月6日／43名） ・緩和ケア講演会in滋賀：1回（12月4日／71名）	
【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】				
	19	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	平成30年度取組状況 「がんプロ事業推進運営委員会」において、国際的な視野を有したがん専門医療人養成のために先進的医療・研究機関等にて研修する制度として「5大学連携海外合同教育セミナー」を企画し、毎年度各大学から履修生を選抜して研修を実施する連携事業の枠組みを構築した。これにより、連携大学間の異なった分野の履修生の人材交流、多職種交流、及び先進的医療・研究機関との国際交流を実施した。 平成30年度は、スウェーデン王国ストックホルムにて連携大学がんプロ履修生（医学・薬学）5名と指導教員4名により合同教育セミナーを5/13－19に開催し、「GAPconference2018」への参加、カロリンスカ大学病院におけるmolrcular tumor boardに参加すると共に、the New Karolinska Hospital (NKS) の施設見学を行い、海外の臨床医等とのディスカッションや世界トップレベルの医療体制に触れることで、国際的ながん専門医療従事者としての意識づけの機会を提供した。 各大学における平成30年度取組状況 京都大学： 「がんプロ事業推進運営委員会」にて企画した「5大学連携海外合同教育セミナー GAP conference2018」(30.5.13～19)に教員1名と大学院生1名が参加した。 「がんプロ養成管理委員会」において、がんプロ履修生が国際学会に参加するだけでなく、研究成果発表を前提とする学生9名に対して、旅費と学会参加費を支援経費支援を行い、学修研究意欲の向上図った。 三重大学： コース履修者の海外での研修の場合は経済的サポートを積極的に行い、現地へ留学中の研究者と活発な交流を行えるように手配する体制を整備した。 また、平成30年度「5大学連携海外合同教育セミナー」（スウェーデン）に、1名の大学院生（がんプロ履修生）が参加した。 滋賀医科大学： 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・2018年10月　ESMO2018（欧州癌治療学会）において、大学院生1名がポスター発表を行った。 ・「5大学連携海外合同教育セミナー」に大学院生1名（ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース）が参加し、研究発表を行った。 ・AACR2019 に大学院生1名が参加しポスター発表を行った。	（資料14） 5大学連携海外合同教育セミナー

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			大阪医科大学： 学内の国際交流基金の整備を行っており、コース履修生が海外への先進的医療・研究機関等へ研修を希望した場合に、教育研究上必要と認められると、一部助成を行うことができる。 平成30年度「5大学連携海外合同教育セミナー」（スウェーデン）に、1名の大学院生（がんプロコース履修者）が研究発表を行った。 京都薬科大学： サポート体制は整備されている。コース履修者が希望すれば留学に必要な資金に充当できる、助成金を支給する学内規程（京都薬科大学科学振興基金規程）や、研究成果を発表するための資金を補助する学内規則（京都薬科大学大学院生学会等参加補助金取扱要綱）を整備している。 「5大学連携海外合同教育セミナー」（スウェーデン王国ストックホルム）に、教員1名と大学院生（がんプロコース履修者）1名が参加し、研究発表を行った。	
	20	国際交流プログラムの実施数	事業期間中（5年間） 達成目標 MDアンダーソンとの交流プログラムをはじめ、韓国ソウル大学、国立台湾大学、シンガポール大学等と連携合同教育セミナー等　15件を目標とする。 平成30年度取組状況 5大学連携の国際交流プログラムとして、スウェーデン王国ストックホルムにおいて「5大学連携海外合同教育セミナー GAP conference 2018」（5/13～19）を開催し、教員4名と連携大学がんプロ履修生（医学・薬学）5名が参加した。 各大学における平成30年度取組状況 京都大学： MDアンダーソンがんセンターとの交流事業を推進させるため、平成30年5月13～19日に「GAP conference 2018」にがんプロ指導教員1名、がんプロ履修生1名を参加させた。 （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 1）MD Anderson Cancer Centerとの交流事業を推進させるため、平成30年5月14日～5月17日に開催されたGlobal Academic Program（GAP2018）に指導教員3名、がんプロ履修生2名を参加させた。 2）平成30年5月14日に5大学連携海外合同教育セミナーを開催し、指導教員1名、がんプロ履修生2名が英語で発表をした。 3）平成30年5月15日カロリンスカ大学病院との合同エキスパートパネルを開催し、指導教員3名、がんプロ履修生2名が参加した。 （小児・AYA世代コース） 多次元フローサイトメトリーによる白血病の微小残存病変診断をシンガポール国立大学　小児科のDr. Elaine Coustan-Smithとウェブカンファレンスを毎週行っている。 （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース） エジプトのClinical Oncology Department.Sohag University Hospitalより、エジプト政府奨学金「チャネル・システム・プログラム」による国際交流事業として、放射線治療医の共同研究者を1名を2年間の予定で受け入れている。 （がん専門薬剤師養成コース） 2018.9.12-16、米国ボストンにて開催された国際学会IASP2018にがんプロ履修生とともに参加し、様々な国から参加しているがん・疼痛関連領域における医療従事者および研究者との意見交換を行なった。 （緩和ケアコース） 米国Oregon Health and Science UniversityのMacauley教授が平成30年6月25日から7月6日までの期間に京都大学に滞在し、講演会とワークショップを開催した。がんプロ履修生2名が参加した。 （医学物理士養成コース） ドイツ・エルランゲン大学より博士後期課程学生1名を受け入れ、四次元放射線治療/適応放射線治療に関する共同研究を行った(平成30年7月-12月)。	（資料14） 5大学連携海外合同教育セミナー

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学： スウェーデン王国ストックホルム カロリンスカ研究所「GAP Conference 2018」との５大学連携海外合同教育セミナー（30年5月13日～19日）にがんプロ履修生1名が参加した。 滋賀医科大学： ・国際交流として海外協定校から短期留学生を受入れるSUMS Grantを設け、留学生終了後は、滋賀医科大学大学院入学を目指すものとしている。 大阪医科大学： スウェーデン王国ストックホルム カロリンスカ研究所「GAP Conference 2018」との５大学連携海外合同教育セミナー（30年5月13日～19日）に1名が参加した。 京都薬科大学： the New Karolinska Hospital (NKS)との「５大学連携海外合同教育セミナー」（スウェーデン王国ストックホルム）に、教員1名と大学院生（がんプロコース履修者）1名が参加した。	
	21	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	事業期間中（5年間） 達成目標 特別講演等　30件を目標とする。 平成30年度取組状況 京都大学 1）「Collaboration between breast and plastic surgery in caring for breast cancer patients」（H30.07.30） Plastic surgeon at Cleveland Clinic Risar　Djyohan 2）「がん細胞間の転写不均一性と薬剤抵抗性のエピジェネティック制御」（H30.08.22） Dana-Farber Cancer Center/Polyak Lab/research fellow 日野原邦彦 3）single-cell RNA-sequencingの最新技術「Uncoverring single-cell regulatory programs in adult and pediatric glioma」（H30.12.05） Assistant Professor of Pathology, Harvard Medical School Mario L. Suva 4）産婦人科国際医療塾2018「世界における広汎子宮筋腫全摘手術の違いを学ぶ」（H30.09.17） Oslo大学婦人科腫瘍科Senior Consultant Yun Wang ベルリン医科大学婦人科腫瘍科Director ZelalMuallem 三重大学： 30年9月3日に、米国　Center for Immunotherapy,Roswell Park Cancer Institute,Buffalo,NYのRichard Koya先生を招へいし、「Improved Cellular Immunotherapies based on T Cell Receptor Engineering」のタイトルで講演会を開催した。 11月12日に、米国　St. Jude Children's Reserarch Hospital　稲葉 寛人 先生とミャンマー　Yangon Children's Hospital Aye Aye Khaing 先生を招へいし、それぞれ「Mixed Phenotype Acute Leukemia」と「Pediatric Oncology in Myanmar」のタイトルで講演会を開催した。 12月6日に、米国　Fred Hutchinson Cancer Research CenterのEvan Newell先生を招へいし、「High Dimensional Cellular Immune Profiling:　Asking T cells about What They See in Health and Disease」のタイトルで講演会を開催した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 1回 （平成30年度薬剤部講演会 講師：オランダ・ラドバウト大学医療センター Nielka van Erp 演題「経口分子標的抗がん剤の臨床薬理学的アプローチに基づく個別化への挑戦と可能性」 3月25日/35名） 滋賀医科大学：腫瘍センター講演会2回で国際的な臨床研究成果をあげている外部講師を招聘した。	
【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】				
	22	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	事業期間中（5年間） 達成目標 がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた取り組み 10件を目標とする。 平成30年度取組状況 近畿地区にある「ゲノム世代高度がん医療人養成」（大阪大学拠点）と「7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン」（近畿大学拠点）との連携事業として、教職員・学生・一般聴講者を対象としがんプロ人材養成事業の取組概要を周知する「近畿地区3拠点合同フォーラム」を平成31年1月25日に開催した。さらに、他拠点が開催するシンポジウム「第2回国際がん研究シンポジウム」（近畿大学）に、本拠点の履修生4名による研究成果発表の推薦等を行い、履修生のプレゼン能力向上を図ると共に、他拠点との人材交流を行った。 地域のがん診療拠点等との連携としては、がんチーム医療研究会、癌化学療法研究会、緩和ケアセミナー、三島圏域がん研究会等の実施により、地域医療機関・団体との実践教育、多職種教育を実施することができた。 また、各大学のがん相談支援センターががん患者や家族からの意見を集約して、教育内容に反映するシステムを取り入れることで、がん患者の視点に立てるがんプロフェッショナルとしての教育を行うことができた。 各大学における29年度取組状況 京都大学： がん薬物療法に携わる医師、看護師、薬剤師を対象に、抗がん薬に関する最新かつ高度な専門的知識の普及、及びチーム医療の養成を目的とする研修として、がんチーム医療研修(6回)（薬剤師・看護婦・医師32名参加）を実施した。 1回(H31/1/22-23) 12人、2回(H31/2/19-20) 12人、3回(H31/3/12-13) 8人 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) がん薬物療法に携わる医師、看護師、薬剤師を対象に、抗がん薬に関する最新かつ高度な専門的知識の普及、及びチーム医療の養成を目的とする研修として、がんチーム医療研を3回（2019.1.22-23, 2019.2.19-2.20, 2019.3.12-13）開催し、合計10施設から薬剤師・看護婦・医師32名が参加した。 前年度研修生を対象としたフォローアップ会議を2018年9月8日に開催した。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 平成30年10月12日京都がん研究会を主催し、最新のがん研究のなかでがん免疫とゲノム医療について意見交換を行った（参加者60人）。また平成31年3月2日に京都薬科大学にて、医療者を対象とした市民公開講座で子宮頸がんに対する啓もう活動を行った。 (小児・AYA世代コース) 平成30年7月7～8日 第11回研修医のための血液セミナー 平成31年3月10日 がん専門薬剤師集中講義 (リハビリテーションスタッフコース) 「関西がんのリハビリテーション研究会」を共催（平成30年9月29日、参加80人） （がん専門薬剤師養成コース） 平成31年2月7日に地域薬剤師を対象とした研究会HCC病診薬連携セミナー」を京都教育文化センターでがんプロ後援として開催（参加者37名）。 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた「地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」を、今期事業から「第2回 地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」（インテンシブコース）として開催した。（平成31年2月16日、参加者92名）	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			（緩和ケアコース） 緩和ケア研修会を平成30年10月27～28日に開催し、参加者は55名であった。 三重大学: 三重県内の医療機関、医師会と連携し、緩和ケア研修会を30年5月26,27日（29名参加）、11月11日(45名参加)に開催、緩和ケアセミナーを、30年7月26日（113名参加）、10月25日（60名参加）、31年1月24日（65名参加)に開催した。また、緩和ケアフォローアップ研修会を30年8月26日に開催（24名参加）、第9回早期からの緩和ケアを考える会を30年5月11日に開催（26名参加)した。 三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、第23回がんチーム医療研究会を30年9月７日に開催（75名参加)した。 歯科医師会と連携した、医科歯科連携推進人材養成研修会を、30年7月1日に開催（160名参加)した。 県内各医療機関にて放射線治療を行っている医師・技師・看護師と連携した、第4回三重がん放射線治療研究会を開催31年3月23日に開催(54名参加)した。 理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会と連携した三重がんリハビリテーション研修会を30年9月22,23日(60名）に開催した。 滋賀医科大学: 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:2回（10月7日/103名、3月2日/43名） ・滋賀県がん薬物療法conference:3回（7月4日/20名、9月1日/35名、11月7日/29名 11月19日/28名、3月7日/84名） ・ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー:3回（4月24日107名、11月9日/42名、3月12日/45名） ・ゲノム医療薬剤師研修会 in 京都1回（9月23日/79名） 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・若年がんを考える会:2回（6月23日/34名、3月2日/27名） 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・東近江医療圏がん診療市民公開講座:2回（11月3日/73名、1月21日/89名） ・‘がんを学ぼう’市民公開講座（NPO法人淡海かいつぶりセンターとの共催）:5回（8月29日/34名、9月29日/21名、10月31日/22名、11月29日/18名、1月25日/16名） ・滋賀県がん医療フォーラム（滋賀県との共催）:1回（2月18日/170名） ・緩和ケア講演会in滋賀:1回（2月27日/76名） ・第34回滋賀医学会総会　醍醐弥太郎「肺がん薬物療法のトピックスと展望」（教育講演）:11月11日/医師会会員約30名　大津 【その他】 ・リレー・フォー・ライフ ・ジャパン2018（日本対がん協会事業に協力・開催支援）:1回（10月13～14日/400名） 大阪医科大学: 三島圏域緩和ケア研修会の開催　10/27、10/28　参加者　87名、　がん研究会　5/16　75名　9/13　87名　1/4　85名　、 OMC－緩和ケアセミナー　9/29　30名　、がんセンター講演会　6/14　39名　、10/11　15名、3/22　90名　、ネットワーク協議会　1/24　47名 京都薬科大学: ・地域医療機関合同セミナー（2018年4月26日、参加者117名、渡辺西賀茂診療所と連携） ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン京都2018（2018年9月29日～9月30日（台風接近のため29日20時で終了）、参加者300名、日本対がん協会事業に協力・開催支援）	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	23	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	平成30年度取組状況 5大学連携としての人材交流、多職種交流を図るため、 1)「5大学連携学生短期研修プログラム」 平成31年2月5～6日に京都大学医学部附属病院において実施した。 この研修は、各大学がんプロ履修生の人材交流・多職種交流を推進するため、連携する5大学のがんプロ履修生から16人を選抜し、2日間にわたり研修生が一同に介した共通研修の後、「ゲノム医療コース」、「小児がん/AYA世代コース」、「緩和ケアコース」の3コースに研修生が分かれ、講義だけの座学ではなく、履修生同士でのフリーディスカッション、多職種が協働する医療現場でのカンファレンス参加、事例検討、ラボ見学、病棟回診等のコース別研修を受け、がんプロ教育を受ける履修生同士の共通意識の向上を図った。 2)「5大学連携海外合同教育セミナー」 スウェーデン王国ストックホルム カロリンスカ大学病院において、「5大学連携合同教育セミナーin GAP conference 2018」を5月13～19日に実施した。（教員4名、履修生5名参加） 3)「5大学連携医療フォーラム」 連携する5大学の医療関係従事者、教育研究者、学生、さらに一般聴講者を対象に、平成30年11月30日に三重大学にて開催した。 各大学における平成30年度取組状況 京都大学: がんチーム医療研修(3回)（薬剤師・看護婦・医師32名参加）、 第46回京都放射線腫瘍研究会プログラム（医師・技師・医学物理士103名参加） 第47回京都放射線腫瘍研究会プログラム（医師・技師・医学物理士85名参加） (小児・AYA世代コース) 年に数回、病棟看護師を対象とした勉強会を開催。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 年に数回、病棟看護師、外来看護師向けの放射線治療に関する勉強会を開催。 平成29年度は、診療放射線技師向け勉強会1回、診療棟看護師向け勉強会1回、外来看護師向け勉強会1回を開催。各参加者は、10名～20名程度 (外科治療・集学的診療コース) 日本癌治療学会：日本癌治療学会がん医療ネットワークナビゲーター実地研修を実施　緩和医療、薬物治療の外来の見学や症例検討会の参加など。 1回1名　2018年2月28日～3月31日 (医学物理士養成コース) 京都大学工学研究科授業「医学物理学」 本コースの教員は、医学物理士の人材養成を図ると共に、医学物理士が効率的に活用できる放射線治療装置の研究者・技術者養成のため、工学研究科生命・医工融合分野にて放射線治療の臨床現場で生じた様々な問題に対処し、高精度放射線治療を実現するため装置の性能、照射精度、治療品質を維持管理するための手法を学習できる授業を提供しており、診療放射線関連の研究者、技術者養成を行っている。 (参加者数：9名) 三重大学: 医師、薬剤師、看護師が参加する緩和ケア研修会（2件74名）、緩和ケアフォローアップ研修会（1件24名）、緩和ケアセミナー（3件238名）、早期からの緩和ケアを考える会（1件26名）、がんチーム医療研究会（1件75名）。 医師、歯科医師、歯科衛生士が参加する医科歯科連携研修会（1件160名）。 医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師が参加するがんリハビリテーション研修会(1件60名)。	（資料15） 5大学連携学生短期研修プログラム （資料14） 5大学連携海外合同教育セミナー （資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況 （資料6） インテンシブコース実施事業

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：2回（10月7日／103名、3月2日／43名） ・滋賀県がん薬物療法coference（第19回滋賀県がん薬物療法多職種合同カンファレンス）（9月1日／35名） ・平成30年度　薬剤部講演会（3月25日／35名） 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計36名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計36名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムIで看護師171名にがん医療に関わる研修を実施した。 大阪医科大学： がん医療総合センターで会議（キャンサーボード）年間363名参加	
	24	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	平成30年度取組状況 京都大学： 「レベルアップ研修」2018年8月27～29日　15名参加 「京大病院ELNEC-J研修会」2019年1月13日～1月14日　30名参加 京都府健康福祉部との連携 ・「第1回緩和ケア（PEACE）研修会」2018年7月7～8日　台風の為中止 ・「第2回緩和ケア（PEACE）研修会」2018年10月27～28日　53名参加 ・「ELNEC-J研修会」（エンドオブライフケアについて）2018年9月8～9日　54名参加 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 京都女性のヘルスケア研究会を開催（平成30年10月21日）し、「婦人科がんサバイバーシップ～女性医学と婦人科腫瘍学との連携」講演を行った。 (小児・AYA世代コース) 緩和ケア科を交えた小児がん多職種ミーティングを週一回開催 三重大学： 緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップのための緩和ケアセミナーを、30年7月26日(113名参加)、30年10月25日（60名参加）、31年1月18日(65名参加)に開催するとともに、緩和ケアフォローアップ（緩和ケアチーム）研修を30年8月25日（24名）に開催、チーム対人援助・スピリチュアルケア研修(3日間)を30年12月15日、31年1月5日、1月26日（5名参加)に開催、がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会（2日間）を31年1月13-14日（2日間：10名参加）に開催した。 滋賀医科大学： 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・緩和ケア講演会in滋賀：1回（12月4日／71名） ・腫瘍センター講演会：3回（10月24日／42名、11月12日／27名、3月6日／43名）	
	25	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	平成30年度取組状況 京都大学： がんチーム医療研修(3回)（薬剤師・看護婦・医師32名参加） 第46回京都放射線腫瘍研究会プログラム（医師・技師・医学物理士103名参加） 第47回京都放射線腫瘍研究会プログラム（医師・技師・医学物理士85名参加） 三重大学： 平成29年度に引き続き、兵庫県立粒子線医療センターと連携して、コース履修者の研修を行った。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・東海北陸ブロック Oncology Pharmacist ・Community Forum 2018（名古屋）において、がんゲノムにおける薬剤師の役割について講演した。/2018年9月8日 ・ ゲノム医療薬剤師研修会（京都）, を企画・開催した/2018年9月23日 ・平成30年度近畿地区3拠点合同フォーラム(大阪） においてパネリストを務めた, 2019年1月25日 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・帝京大学がんセンターでの大学院講義を1回実施し多職種による先進医療推進の方策に関して啓蒙した。 ・帝京大学内科学講座でのがん関係学部講義を2回実施し、がん医療推進の方策に関して啓蒙した。 ・東京大学大学院（TR看護学）での大学院講義を1回実施し、がんTR研究推進の方策に関して啓蒙した。 ・徳島大学大学院・がんプロシンポジウムでがん医療推進の方策に関して啓蒙した。	
【事業の運営体制（実施、評価、連携）】				
	26	連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制	平成30年度取組状況 事業の運営体制 【事業推進運営委員会】・・・連携5大学間 　連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、連携大学担当コーディネータを配置し、事業推進責任者が招集して事業の企画立案・実施・評価の決定を行う。 （構成員） 　事業推進責任者、連携大学担当コーディネーター、事業推進運営委員会委員 【養成管理委員会等】・・・各大学 　各大学において、事業の実施に向けての現実的な取組を決定 （構成員） 　大学担当コーディネーター、コースコーディネーター、事務局担当者 各大学における平成30年度取組状況 京都大学： 「事業推進運営委員会」 ・・・ 3回（主幹校として開催） 第1回 H30.06.12 第2回 H30.11.30 第3回 H31.02.26 「養成管理委員会」・・・・・・・ 3回 総括コーディネーターを委員長として、事業推進運営委員会で審議決定された事項の取組に向けて意思確認や各担当コースの運営方針を決定する。 第1回 H30.06.07 第2回 H30.11.16 第3回 H31.02.22 三重大学： 「5大学連携事業推進運営委員会」が、30年6月12日に第1回が開催され、三重大学から教員1名、事務1名が参加、30年11月30日の第2回には、教員4名、事務3名が参加、31年2月26日の第3回には、教員1名、事務1名が参加した。 滋賀医科大学： 連携5大学で構成される事業推進運営委員会等を通じて、事業に関する情報収集と連携を行っている。 学内では学生課大学院教育支援係の支援の下、臨床腫瘍学講座が事業コーディネートと統括を行い、同講座、外科学講座、小児科学講座、放射線医学講座、薬剤部が各大学院コースを担当している。適宜、対面・メール会議を開催し、進捗の把握、評価、今後の方策を決定している。 大阪医科大学： 年2回事業推進運営委員会に参加し、各校との情報共有、海外セミナーや医療シンポジウムの開催を行うことなどを決定している。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			京都薬科大学： 事業責任者が招集する事業推進運営委員会に出席し、事業の企画立案・実施・評価（外部評価を含む。）の決定事項を情報収集する。また、本学においても、限られた部局・講座等に取組を任せることがないよう、研究科長をトップとした研究科教授会において、必要事項を審議し、大学事務局とも連携するなど、全学的な実施体制で取り組んでいる。	
	27	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	平成30年度取組状況 【外部評価委員会】 外部有識者を評価委員として外部評価を実施し、PDACサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直し行う体制を構築しており、平成30年度は、平成29年度事業期間の外部評価を実施した。 ・平成29年度事業年度の外部評価は、平成30年8月に3名の外部評価委員からの評価を受け、全39項目の評価項目のうち、36項目の「優」または「良」評価、1項目の「可」評価であり、残り2項目は「やや不十分」であった。 　また、講評でも2項目については、同内容の指摘を受けた。 　この2項目『各コースの受入れ目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組』、『連携5大学 コース履修生のe-learning受講登録率』の評価委員からの指摘・改善項目は、PDACサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを実施するため、「事業推進運営員会」の議題として、連携5大学間での意見交換等を図り、改善に向けての対応を協議した。 　これにより、『各コースの受入れ目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組』は、春期入学生への募集案内の徹底だけでなく、さらに秋期入学生への募集案内も行うことで、昨年度（平成26年度）26名から今年度（平成30年度）は、8名増の34名の新規入学の履修生を確保できた。 『連携5大学 コース履修生のe-learning受講登録率』は、がんプロ関係教職員による受講促進のアナウンス等により、連携大学21名を含め、全体で38名（平成29年度：13名）の新規受講登録となった。	
	28	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	平成30年度取組状況 平成30年11月30日に三重大学において、「5大学連携医療フォーラム」を実施、同フォーラムでは、本拠点連携大学の三重大学大学院医学系研究科　影山 慎一 教授による特別講演「CAR-T,TCR-T細胞療法の最新の進歩」、および、連携大学のコーディネーター5名による「5大学活動報告」についての発表があり、教職員・学生だけでなく、一般聴講者に向けての本拠点の事業活動の取組内容報告が行われた。 当日のフォーラムでの報告内容は、ホームページにて視聴可能とし、広く社会に公開している。 http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/forum/event181130	
	29	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	平成30年度取組状況 連携する5大学の事業を効果的に推進するための「5大学連携　事業推進運営委員会」を3回開催、また、大学間の人材交流、多職種交流を目的として「5大学学生短期研修プログラム」（平成31年2月5～6日）を1回実施、「5大学連携医療フォーラム」（平成30年11月30日）を1回開催、「5大学連携海外大学合同教育セミナー」（平成30年5月13～19日）を実施した。 また、他拠点（近畿大学拠点：7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン）が開催する国際シンポジウム「第2回国際がん研究シンポジウム」(平成31年2月2－3日、大阪）に、京都大学拠点からがんプロ履修生4名の演者推薦を積極的に行った。 各大学における平成30年度取組状況 京都大学： インテンシブ事業として、連携大学間での情報共有を目的に、毎年、がん専門薬剤師養成連携合同コース会議（年1回）、チーム医療研修（年3回）、京都放射線腫瘍研究会（年2回）を開催、さらに、各コースにおいて拠点内大学との研修会が実施され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) 平成31年2月5−6日の日程で、5大学履修生を対象とした2日間の短期研修を行い、がんゲノム医療の座学、エキスパートパネル参加、ゲノムデータベース検索の実習、模擬エキスパート、意見交換を行った。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 京都EXCHANGE MEETING(関係病院の若手医師による症例報告会)を開催(平成30年8月11日、100名)。京都女性のヘルスケア研究会(京都を中心とする関係病院の若手医師および開業医による勉強会)を開催(平成30年10月21日)。 (小児・AYA世代コース) 平成31年9月28日に大阪大学中之島センターにて、「第12回近畿若手小児血液クラブ」開催し、情報交換等を実施 (外科治療・集学的診療コース) 5大学連携フォーラムに参加した。 (がん専門薬剤師養成コース) 平成30年2月16日に連携大学の薬剤師養成コースと合同会議を行い、意見交換を行った(参加者:30名)。また、10月1日から11月30日まで連携大学である京都薬科大学よりがんプロ履修生1名を受け入れ、がん関連病棟における実務研究を実施した。 (医学物理士養成コース) 京都大学工学研究科原子核工学専攻　放射線医学物理学分野より博士後期課程学生1名を受け入れ、京大病院放射線治療科医学物理グループが行っている臨床業務(治療計画，品質管理業務)を指導した。(平成30年12月−平成31年3月) 三重大学: 平成30年度から始まった「5大学連携　学生短期研修プログラム」(平成31年.2月5～6日)に履修生2名が参加した。 また、近畿3拠点合同フォーラム(平成31年1月25日)に本学教員1名、がんプロコース修了生1名がパネリストとして参加した。 滋賀医科大学: 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムIで看護師171名にがん医療に関わる研修を実施した。 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議(研究発表会)が京都大学で開催され、本学より教職員2名(内1名は元がんプロ学生)、大学院生2名が参加した。(平成31年2月16日開催) ・平成30年度近畿地区3拠点合同フォーラム(大阪)においてパネリストを務めた。(2019/1/25) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計36名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計36名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 京都薬科大学: 連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、プログラムコーディネーターを置き、事業責任者が招集する事業推進運営委員会に出席し、事業の企画立案・実施・評価(外部評価を含む。)の決定事項を情報収集する。また、本学においても、限られた部局・講座等に取組を任せることがないよう、研究科長をトップとした研究科教授会において、必要事項を審議し、大学事務局とも連携するなど、全学的な実施体制で取り組んでいる。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	30	連携5大学　コース履修者の e－learning 受講登録率	平成30年度　取組状況 京都大学版 e－learning は、当初からホームページにて受講者募集の案内をしており、その受講できる対象者は、京都大学と連携大学のがんプロ履修生だけでなく、次の方々が受講登録できるシステムであります。 1)京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学とその附属病院等に在籍する医療関係者 2)がん診療を専門とする事を志望する上記各大学の学生 3)本事務局が上記の趣旨に適合すると判断した方 平成29年度がんプロホームページのサイトデザインの刷新と共に、e-learningバナーボタンの変更も実施し、よりわかりやすいデザインに変更を行った。 平成30年度のe-ラーニングの新規申請登録者は、30名（平成29年度：12名）であり、がんプロ履修生の総数144名のうち、87名が受講登録者しています。 内訳は、京都大学のがんプロ履修生の登録率は、76%、74人であり、他の連携4大学では、28%、13人であります。 また、がんプロ履修生以外の医療関係者の平成30年度新規申請は、8名（平成29年度：1名）の受講登録がありました。 三重大学: 連携5大学のe-learningおよび全国のe-learningの受講登録を積極的に勧めた。 滋賀医科大学: 連携5大学のe-learningおよび全国のe-learningの受講登録を勧めている。 大阪医科大学: 連携5大学のe-learningの受講登録を積極的に勧めている。 京都薬科大学: 連携5大学のe-learningに登録し、受講を積極的に勧めている。講義学生受講登録率100%	
	31	新たな e－learning　講義科目の提供の取組みについて	平成30年度　取組状況 拠点の取り組みとして、平成30年度において、次の6点の講義等について、新たに撮影・収録し聴講できるようにした。これにより、がんプロ履修生や本拠点の医療関係者に向けて、分野横断的、先進的教育研究が推進されるものと期待されている。 ・「がんゲノム医療中核病院と連携病院」 　京都大学・医学研究科・教授　武藤　学 ・「小児がんにおけるトランスレーショナルゲノミクス」 　京都大学・医学研究科・教授　滝田　順子 ・「ライフステージに応じた緩和ケア」 　京都大学・医学研究科・教授　恒藤　暁 ・「がんゲノム医療について」 　京都大学・医学研究科・特定助教　髙　忠之 ・「地域全体でがん患者を支援するために薬剤師が出来ること」 　竹田綜合病院・薬剤科・室長　木本　真司 ・「がん疼痛の薬物療法について」 　信州大学・医学部附属病院信州がんセンター・教授　間宮　敬子	
	32	主幹大学での事業支援事務組織体制	平成30年度　取組状況 引き続き、複数のプロジェクトの担当職員を統合して、プロジェクトに係る総務的業務、経理的業務、教務的業務と幅広い業務に、横断的に支援できる教育推進室を配置した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
【事業の普及】				
	33	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	平成30年度　取組状況 本がんプロ拠点のホームページのデザインは、平成29年度にサイトデザインを一新し、引き続き、事業活動の社会への周知、地域医療貢献のために各種フォーラムや公開講座等のイベント活動をホームページに逐次公開しており、社会からのがんプロ活動の理解を頂けるよう発信・充実に努めています。 ホームページでは、本拠点の活動だけでなく、他拠点との府民公開講座や近畿地区3拠点とのフォーラムの情報提供し、他拠点間交流や多職種交流教育にも努めています。 平成30年度には、新たに本拠点の取組活動を広く情報公開するため「活動報告」欄を追加する共に、「5大学連携医療フォーラム」の講演内容等も視聴可能にし、さらなる情報公開を進めています。 また、毎年度実施してきた「外部評価」も、HPにておいて公開しがんプロ事業への理解を得ることに努めています。 http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 「高度がん医療を先導するがん医療人養成」 三重大学: 三重大学大学院及び三重大学がんセンターのホームページでそれぞれ入学案内を含めた本事業の情報公開を行った。また、がんプロ推奨セミナーの案内をリアルタイムで行い、県内の医療機関の多職種に参加を呼び掛けた。ホームページに加えて、大学院で作成したパンフレットをインテンシブコースの講演会等で積極的に配布し、本事業の紹介を行った。 滋賀医科大学: 本学のがんプロホームページから、京都大学拠点事業のホームページへとリンクさせている。 また、本学がんプロホームページには、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載し積極的な情報公開を行っている。 平成30年度更新回数27回 大阪医科大学: 本事業のホームページに、公開講座開催概要等を集約して情報公開を行っており、積極的に広報を行っている。 本学でのHPにも同様な講演やセミナーについて情報公開を行い、広報活動を行っている。 京都薬科大学: 京都大学で開設されているがんプロホームページを本学ホームページにリンクさせている。本学での取り組みを、京都大学に情報提供し公開を行っている。 本学リンクページ:https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/#symposium	
	34	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	平成30年度　取組状況 京都大学: 京都府がん医療戦略推進会議の各部会（院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、外来化学療法部会、地域連携部会）および、各種ワーキング（前立腺がん地域連携パスワーキング等）に参加し、活動に協力している。（総勢27名が活動中） また、府内で実施している以下の事業に講師派遣する等、府のがん対策の企画立案に積極的に協力している。 ・生命のがん教育推進プロジェクト・・・小中学校でガンの基本知識に関する授業を行う H30.5.17　京都市立岡崎中学校　1年生67名 H30.11.1　京都市立高野中学校　1年生80名 H31.3.18　京都府井手町立泉ヶ丘中学校　1年生45名 （各回につき、医師1名を講師として派遣）	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			・かかりつけ医（がん対応力）向上研修・・・地域の医師を対象に最新情報等の研修を行う H30.9.9（日）、10.21（日）、11.25（日）、12.2（日）　京都府医師会館 （計9名を講師派遣） 各コースにおいては （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 地域がん拠点病院およびがんゲノム医療連携病院を中心に　免疫チェックポイント阻害剤における重篤な有害事象の症例検討、対策案など外来化学療法に関する情報交換会を開催（平成30年7月10日＠京大病院） （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） ①京都府医師会の子宮がん検診委員となっている。 ②近畿産婦人科学会の腫瘍研究部会の学術委員長および委員を選出している。 ③京都産婦人科医会主催の勉強会に講師を派遣している。 （小児・AYA世代コース） ①京都府小児がん拠点病院連携推進会議において、京都府健康福祉部健康対策課、京都府立医科大学との情報交換、小児がん対策につき定期的に協議を行っている。 ②京都市入院児童生徒等への教育保障体制整備事業推進に関する会議メンバーとして入院児童、とくにAYA世代を含む患者への教育機会の充足に努めている。 ③KOF-net（京都がんと生殖医療ネットワーク）の活動を通じて、府下の患者に対する妊孕性温存の推進に取り組んでいる。 （外科治療・集学的診療コース） 京都府がん医療戦略推進会議に教官を派遣し、企画立案に取り組んでいる 三重大学： 三重大学がんセンターの医師が、30年度の三重県のがん検診精度管理検討委員会の委員長を務め、がん検診の精度の向上を進めた。また、三重県のがん対策推進協議会の緩和ケア部会、医科歯科連携部会、PDCAサイクル部会、地域連携パス部会、がん相談支援部会、がん登録部会のそれぞれの部会長にも、がんセンターの医師が任命されており、県のがん対策の推進に積極的に貢献した。 県教育委員会が主催する小学校、中学校の出前授業（30年9月11日、10月9日、12月4日、12月17日）に、がんセンターの医師が参加して「がん教育」の授業を行い、小学生、中学生との活発な質疑応答を行い好評であった。また、教員を対象とする、がん教育の講習会でも、がんセンターの医師が講演（30年8月2日、9日）し、がん教育の意義や指導内容・方法等の普及、啓発を行った。 滋賀医科大学： 滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。また滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「第3期滋賀県がん対策推進基本計画」の推進に取り組んだ。	
	35	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	平成30年度　取組状況 京都大学： （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） テレビ電話会議システムWebExとクラウド型データストレージBoxを用いて、がん遺伝子パネルによるエキスパートパネル体制を構築している。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 関連病院間でのインターネットアクセス可能なサーバーを開設して、関連病院が京大産婦人科での講義やカンファレンスでの情報共有を図るシステムを構築した。 （小児・AYA世代コース） 京都市入院児童生徒等への教育保障体制整備事業推進に関する会議メンバーと協力し、高校生を含む入院児童に対するICTを用いた遠隔授業を推進している。 （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース） インターネットでアクセス可能なサーバーを構築・運用して、関連病院医師が京大放射線治療プロトコールを閲覧可能としている。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(外科治療・集学的診療コース) 関連施設と共同で共通のフォーマットでの院内診療データベースを運営しており、定期的にこれらのデータを集約し、web上での利用を推進している。 三重大学: 三重大学のがんセンターが事務局となり、周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域医療連携ネットワークを構築し、地域完結型医療を推進した。現在、医療情報の開示病院は、地域がん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院を中心にして計18施設で、閲覧施設は計274施設になっており、連携する登録患者数は計18,936名となった。 滋賀医科大学: ・東近江医療圏メーリングリスト、ならびに滋賀県がん診療連携協議会・診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修に関わる情報を発信した。 ・がん関係の研修・講演会をTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院と大津医療圏病院（JCHO滋賀病院）へ配信している。	
	36	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	平成30年度　取組状況 京都大学: (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) テレビ電話会議システムWebExとクラウド型データストレージBoxを用いて、がん遺伝子パネルによるエキスパートパネル体制を構築し、毎週テレビ会議を開催している。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) テレビカンファレンスシステムを用いた症例検討会を定期的に開催している。 (小児・AYA世代コース) ウェブカンファレンスシステムを用いた、近畿、北陸、東海地域の病院との症例検討会を毎月開催している。 三重大学: がんプロ主催の多職種緩和ケアTVカンファレンスは、三重県内7病院を結んで、各施設で生じた解決困難な事例について検討している。今年度は、1回/月で行い、合計10回開催し、のべ55施設、247名の専門職が参加した。各拠点では、がんプロ修了生であるがん看護専門看護師がリーダー的存在となり、チームとしてカンファレンスに参加している。がんプロ大学院生も参加し、問題解決の考え方や、多職種が連携することでもたらされる力など、地域での緩和ケアの実際を学ぶ機会となっている。三重県内の緩和ケアの向上を目指した取り組みであるが、がんプロ修了生にとっても縦・横のつながりを創り、実践的な継続教育の機会となっている。 滋賀医科大学: ・東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院および大津医療圏のJCHO滋賀病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築している。 ・がん関係のCPCをTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院へ配信している。 ・滋賀県の運営する遠隔病理診断システムの運用を附属病院で支援している。	
	37	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	平成30年度　取組状況 京都大学: 1）がんゲノムナース講習会開催　(2018/12/13)＠京大病院　　部長・師長クラス20名参加 2）AMED事業　がんゲノム医療に携わる臨床検査技師の育成セミナー(2018/7/28):3名参加 3）AMED事業　ゲノム医療薬剤師研修会(2018年9月23日):3名参加 4）AMED事業　バイオメディカルデータサイエンティスト養成集中講座(2019/2/18-2/20):1名参加	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			5）第46回京都放射線腫瘍研究会（2018/9/1）：103名 共催：株式会社バリアンメディカルシステムズ、株式会社たけびし、ブレインラボ株式会社、東洋メディック株式会社、第一三共株式会社 6）第47回京都放射線腫瘍研究会（2019/3/9）：85名 共催：株式会社バリアンメディカルシステムズ、株式会社たけびし、ブレインラボ株式会社、東洋メディック株式会社、第一三共株式会社 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 第10回 関西婦人科腫瘍・病理懇話会 共催：大鵬薬品工業（株） 第1回卵巣がん治療研究会　共催：アストラゼネカ社 （小児・AYA世代コース） 平成30年2月9日　第11回近畿若手小児血液クラブ　共催：中外製薬株式会社、大阪大学がんプロ拠点 平成31年2月9日　第37回京都大学小児血液腫瘍研究会　共催：中外製薬株式会社 平成31年2月16日　第41回近畿小児血液がん学会　共催：協和発酵キリン、中外製薬、帝人など （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース） ・放射線医学への応用が期待される深層学習を用いた研究開発を、株式会社Ristと共同で行っている。 ・患者間・位相間非線形位置合わせデータベースの開発を、イーグロース株式会社と共同で行っている。 ・放射線照射中の標的位置確認のために用いられるイメージング用画像の画質向上に向けた研究開発を、Varian Medical Systemsと共同で行っている。 （外科治療・集学的診療コース） 上方乳癌研究会　共催：中外製薬株式会社　5月13日 京滋乳癌研究会　共催：中外製薬株式会社　9月1日 （がん専門薬剤師養成コース） 2019年2月7日　HCC病診薬連携セミナー 共催：エーザイ株式会社 三重大学： 三重大学を中継拠点として、三重県内7か所の病院が参加して、毎月1回、多職種による緩和ケアカンファレンスを行っており、解決困難な事例について、互いの専門性を活かしたタイムリーな検討を行い、施設の垣根を超えた緩和医療の質の向上に貢献している。 滋賀医科大学： ・第2回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー　2018/4/24 共催：中外製薬株式会社 ・第3回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー　2018/11/9 共催：小野薬品工業株式会社 ・第4回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー　2019/3/12 共催：武田薬品工業株式会社 ・第18回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース　2018/10/7 共催：第一三共株式会社 ・第19回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース　2019/3/2 共催：東和薬品株式会社 ・緩和ケア講演会in滋賀　2018/12/4 共催：第一三共株式会社	
	38	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	平成30年度　取組状況 京都大学： （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） パネル検査に関しては、京都大学が三井情報と臨床実装したクリニカルシークエンス（OncoPrime)を全国の医療機関（約20施設）に導入し、わが国のゲノム医療を先導している。また、クリニカルシークエンスに関する研究会を立ち上げた。AMEDの臨床ゲノム統合データベース事業のがん領域に採択され、クリニカルシークエンスのゲノム情報と臨床情報を統合し、データシェアリングする取り組みを行った。国立がん研究センターが主導するNCCオンコパネルを用いた先進医療に参加し、登録症例数が国立がん研究センターに次いで2番目の多さだった。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) ①卵巣がんにおいて、MDSC、B7H3,B7H5が抗腫瘍免疫に与える影響を明らかにした。 ②卵巣明細胞癌において、特有の代謝経路を解明した。 ③卵巣明細胞癌の遺伝子変異のパターンについて、RNAシークエンシングおよびゲノム解析を行っている。 ④子宮体部漿液性癌において、STAT1が化学療法抵抗性に寄与するメカニズムについて解明した。 ⑤子宮頸がん予防に対し新規治療の臨床応用を開始している。 (小児・AYA世代コース) 1. 小児がんの臨床検体を用いた網羅的遺伝子解析による新規診断、治療法の開発を目指した探索的研究を行っている。 2. 固形がんの表面抗原を標的とした新規治療法開発に関する基礎研究を推進し、動物モデルを用いて臨床応用を進めている。 3. 高度免疫不全マウスであるNOGマウスを用いて患者由来の白血病や固形がんをマウス体内で維持するPDX (Patient derived xenograft)マウスモデルを確立し、ヒト腫瘍細胞のin vivo解析系を構築することで病態の解明や新規治療法の開発を行っている。 4. 白血病の増殖／維持に関わる分子標的を探索的に研究し、PDXモデルを用いた新規治療法開発を行っている。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース) 臨床放射線治療グループ、医学物理グループ、放射線生物学グループに分かれ、新たながん治療法開拓に向けて、研究を推進している。 各グループで定期的にミーティングを開催し、さらにグループ間での密接な連携も行う。 月に数回、3グループからの研究発表も行う機会を設けている。 (外科治療・集学的診療コース) 光超音波技術を用い、血管が関与する疾患のより早期での診断、治療方法の精密化、個別化を目指す研究を進めている。 臨床データをAIを用いてデータベースとして活用できる形に実装化など、人工知能を用いた技術にも着目し今後展開を図っている。 (リハビリテーションスタッフコース) チャイルドケモハウスと連携してAYA世代の就業支援、健康増進を実施中。 (がん専門薬剤師養成コース) がん化学療法に用いる薬物の血中濃度測定に必要な分析機器の導入を進め、測定法の確立に向け取り組んでいる。また、各診療科と連携して抗がん剤の血中濃度測定を実施し、効果や有害事象発現との関連も検討している。さらに、抗がん剤の用量規定因子である末梢神経障害の新規治療・予防候補薬およびバイオマーカー探索を進めており、その成果に基づき、乳腺外科と協働でいくつかの臨床研究を開始した。 抗がん剤誘発末梢神経障害の新規予防・治療薬の開発を目指し、京都大学が保有する約3000種類の化合物ライブラリーをハイスループットスクリーニングし、有効な候補薬を複数見出した。現在、特許申請への準備を進めている。 三重大学: 複合的がん免疫療法センターを中心にして、以下の研究開発を進めた。 1. 長鎖ペプチド抗原デザイン技術とナノゲル型ワクチンデリバリーシステムを応用した高性能がんワクチンの研究開発 2. 免疫チェックポイント阻害薬不応性がんに著効するTriCombo ACT療法の研究開発 3. がん治療に用いるヒト型抗体の作製と解析 4. 新しいCAR-T細胞輸注療法の開発研究 5. がんの変異抗原等に対するTCRの分離と標的ペプチドの解析 6. T細胞由来小胞体ベシクルの解析と臨床への応用 7. 新しいがん免疫療法のトランスレーショナルリサーチ:TCR遺伝子改変T(TCR-T)細胞の輸注療法 8. 新しいがん免疫療法のトランスレーショナルリサーチ:CHPナノゲル／蛋白複合体がんワクチン（三重大オリジナルがんワクチン臨床開発） 9. がん免疫療法臨床試験のリバーストランスレーショナルリサーチ:がん免疫療法モニタリング研究	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： ・次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計36名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計36名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムIで看護師171名にがん医療に関わる研修を実施した。 京都薬科大学： 昨年たちあげた「遺伝統計学研究プラットホーム」共同研究を推進するとともに、新たに採択された私立大学研究ブランディング事業「受容体特異的画像化技術を基盤とするがん放射線内用療法（radio-theranostics）研究拠点の形成」を通じ、radio-theranostics研究を開始した。	
	39	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	平成30年度　取組状況 京都大学： （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 全エキソン解析実施体制を三井情報、IBM、Molecular Health社と協議し、実施体制の基盤を構築した。 院内完結型のがんゲノム解析センター開設に向けた準備を行った。 （小児・AYA世代コース） 小児がんの臨床検体を使用した遺伝子の網羅的解析と、培養のみならず動物モデルを用いた機能解析を組み合わせ、新規診断法、治療法の開発を目指している。 （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース） ①放射線治療科では2011年9月より世界に先駆けてVero4DRTを用いた動体追尾照射を開始している．肺癌・肝癌・膵癌に対する動体追尾照射の安全性および有効性を評価することを目的とし，AMED革新的がん医療実用化研究事業より平成29-31年度の研究資金提供を受けて多施設共同試験を実施している。さらに、2017年11月24日には、世界で初めて回転原体照射による動体追尾放射線治療を行った。 ②また，前立腺癌に対する強度変調放射線治療は、全例Vero4DRTを用いた革新的新規照射法であるDynamic WaveArc照射法（革新的がん医療実用化研究事業より平成27-29年度の研究資金提供を受けている）を行っており、さらに一部の脳腫瘍症例に対しても行った。現在、乳がん、脊椎転移など、他部位の症例に対してもDynamic WaveArc照射法が優位であるか研究を進めている。 ③実験検体および臨床検体 中のDNA、RNA、タンパクなどを解析して放射線治療抵抗性の原因究明とその克服法を開発している。 ④また、低酸素などの腫瘍内微小環境や生体中の酸化還元バランスが、放射線治療効果に及ぼす影響についての研究も推進している。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(医学物理士養成コース) ・照射実績ログ，照射日に撮影した画像，統計形状モデルを駆使して実際に患者に投与した線量分布を再構成する方法を開発しており、呼吸性移動を伴う疾患に対しても展開している。さらに、再構成した分布と計画された分布の差異の経時変化を監視し、適切な治療を提供できるシステムを開発している。 ・京都大学放射線治療科、および関連病院では400件を超える肺癌に対する体幹部定位照射を実施してきた。そのCT画像を用いて人間の目では抽出できない特徴量をアルゴリズムにより抽出し、また予後データと結びつけることにより、CT画像から予後を予測するシステムを開発している。 ・放射線医学への応用が期待される深層学習を用いて、CT画像上で放射線治療計画に必要な臓器の輪郭の自動抽出を行っている。 ・京大病院放射線治療科では三菱重工とともに開発した国産の放射線治療装置Vero4DRTによる、革新的な新規放射線照射法Dynamic WaveArc照射を用いて臨床にて治療を行っている。またVero4DRTによる強度変調回転追尾照射などの技術開発も行っている。これらの新規照射法に対する適切な品質管理手法の開発を行っている。また，新規照射法は装置と患者とが衝突する危険性があるため、3Dスキャナを用いて装置−患者の立体像をモデル化し、衝突を未然に防ぐことを可能とする衝突検出システムを開発している。 ・主に放射線診断領域で開発されてきたデュアルエナジー撮像を放射線治療装置において実現し、毎治療日に適切な治療を実現するシステムを開発している。 (外科治療・集学的診療コース) 光超音波技術を用い、血管が関与する疾患のより早期での診断、治療方法の精密化、個別化を目指す研究を進めている。 また関連病院と共同で共通フォーマットでの診療データベースを運営し、定期的なデータを集約し、WEB化に向け推進。さらに臨床データをAIを用いてデータベースとして活用できる形に実装化など、人工知能を用いた技術にも着目し今後展開を図っている。 (リハビリテーションスタッフコース) チャイルドケモハウスと連携してAYA世代の就業支援、健康増進を実施中。 （がん専門薬剤師養成コース） 抗がん剤の用量規定因子である末梢神経障害の新規治療・予防候補薬およびバイオマーカー探索を進めており、その成果に基づき、乳腺外科と協働でいくつかの臨床研究を開始した。さらに、抗がん剤誘発末梢神経障害の新規予防・治療薬の開発を目指し、京都大学が保有する約3000種類の化合物ライブラリーをハイスループットスクリーニングし、有効な候補薬を複数見出した。現在、特許申請への準備を進めている。 三重大学: ・がんゲノム医療連携病院の指定を受け、中核拠点病院の京都大学と連携し、京都大学で毎週火曜日に開催されるエキスパートパネルに参加した。また、がんセンター内に、がんゲノム医療部門を設置するともに、ゲノム診療科を新設し、がんゲノム医療を受けられる体制の整備を進めた。現在、ミライ−S、ミライ−Gのがん遺伝子パネル検査を実施し、遺伝子カウンセリングを既に行っている。 ・がん免疫療法を安全に実施するための医師（がん関連診療科、免疫関連診療科）、看護師、薬剤師、医療安全管理部スタッフ等で構成する免疫療法対策チームを発足し、活動を開始した。 ・急性白血病に対するWT1を標的にしたTCR遺伝子改変T細胞輸注療法やCD19CAR−T療法等のがん免疫遺伝子治療の多施設共同臨床試験を実施できる体制を構築している。 滋賀医科大学: ・附属病院での新たな創薬に向けて、腫瘍内科においてがんペプチドワクチン療法の医師主導型臨床試験を実施し、履修者のOJT教育に生かしている。 ・腫瘍内科を中心に国内外の先端的がん免疫療法の医療・研究機関と共同研究体制を構築している。 ・新しいがんゲノム医療の開発に向けて腫瘍内科と国内外の先端的がんゲノム医療・研究機関と共同研究体制を構築している。 ・NCCオンコパネルの先進医療Bを実施した。 京都薬科大学: 1．在宅医療での多職種連携の中で指導的役割を担えるがん専門薬剤師育成のための履修学生教育プログラムを遂行し、多職種連携のがん治療における重要性を学ばせている。 2．遺伝統計学に関する共同研究の展開、およびセミナーを開催し、ゲノム医療の重要性を啓発した。 3．Radio−theranostics研究を開始した。	

資料１

教育プログラム・コース別受入目標人数・入学者数・在学者人数 （平成30年度）

区分		大学名・専攻名	コース名	修業年限	対象職種	受入目標人数						入学者数						在学者人数				
						年度別					計	年度別					計	1年次	2年次	3年次	4年次	計
						29	30	31	32	33		29	30	31	32	33						
① ゲノム医療従事者の養成						8	8	8	8	8	40	5	6					6	6	10	13	35
	1	京大・医学	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	4年	医師	3	3	3	3	3	15	3	2					2	4	6	8	20
	2	京大・医学	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1	3					3	1	2	1	7
	3	三重大・生命医科学	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0	0	2	2
	4	滋賀医科・医学	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	薬剤師	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0	1	1	2
	5	滋賀医科・医学	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0	0	1	1
	6	大阪医科・医学	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1	1					1	1	1	0	3
② 希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成						8	8	8	8	8	40	4	5					5	6	4	3	18
	7	京大・医学	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	4年	医師	2	2	2	2	2	10	0	2					2	2	0	0	4
	8	京大・医学	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	医師	3	3	3	3	3	15	3	3					3	3	3	2	11
	9	三重大・生命医科学	小児がん治療専門医養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1	0					0	1	0	0	1
	10	滋賀医科・医学	小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0	0	0	0
	11	大阪医科・医学	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0	1	1	2
③ ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成						19	19	21	19	21	99	17	23					23	21	24	23	91
	12	京大・医学	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	医師	4	4	4	4	4	20	8	4					4	9	12	14	39
	13	京大・人間健康	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	2年	理学療法士	1	1	1	1	1	5	1	1					1	1	0	0	2
				3年	作業療法士		1	1	1	1	4	0	1					1	0	1	1	3
	14	京大・医学・薬学	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	4年	薬剤師			1		1	2	0							0	0	0	0
				4年		1	1	1	1	1	5	2	1					1	2	1	0	4
	15	京大・医学・人間健康	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0							0	0	0	0
				2年	看護師	1	1	1	1	1	5	1	2					2	1	0	0	3
	16	京大・医学・人間健康	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	4年		1		1		1	3	0	0					0	0	0	1	1
				3年	医学物理士	1		1		1	3	0	1					1	0	0	0	1
				2年			1		1		2	－	2					2				2
	17	三重大・生命医科学	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1	1					1	1	1	2	5
	18	三重大・生命医科学	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0					0	0	0	1	1
	19	三重大・生命医科学	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	4年	薬剤師	1	1	1	1	1	5	0	1					1	0	0	0	1
	20	三重大・生命医科学	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0					0	3	2	1	6
	21	三重大・看護学	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	2年	看護師	2	2	2	2	2	10	2	1					1	2	5	0	8
	22	滋賀医科・医学	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	3					3	0	1	0	4
	23	大阪医科・医学	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1	1					1	1	1	2	5
	24	京都薬大・薬学	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	4年	薬剤師	1	1	1	1	1	5	1	4					4	1	0	1	6
合計						35	35	37	35	37	179	26	34					34	33	38	39	144
（大学別内訳）			京都大学			19	19	21	19	21	99	19	22					22	23	25	27	97
			三重大学			8	8	8	8	8	40	4	3					3	7	8	6	24
			滋賀医科大学			4	4	4	4	4	20	0	3					3	0	2	2	7
			大阪医科大学			3	3	3	3	3	15	2	2					2	2	3	3	10
			京都薬科大学			1	1	1	1	1	5	1	4					4	1	0	1	6

資料 2

「資格取得者数一覧」（平成29年度～令和3年度）

コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	④受験・合格・資格取得者数															
			学会等認定資格名	H29			H30			R1			R2			R3		
				受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数
計				15	15	30	16	16	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）	1	1	0	0	0	0									
	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	がん治療認定医（日本がん治療認定機構）	0	0	0	1	0	0									
	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	外科専門医（日本外科学会）	0	0	0	1	0	0									
	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	総合内科専門医（日本内科学会）	0	0	0	0	1	1									
京都大学医学研究科医学専攻	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	産婦人科専門医	0	0	1	0	0	2									
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	0	0	1	0	1	1									
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	産科婦人科内視鏡技術認定医	1	1	0	1	0	0									
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	がん治療認定医	0	0	1	0	0	2									
京都大学医学研究科医学専攻	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	4年	小児科専門医（日本小児科学会）				0	1	2									
京都大学医学研究科医学専攻	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会）	2	2	6	0	0	1									
	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	放射線科専門医（日本医学放射線学会）	0	0	1	0	0	0									
	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	がん治療認定医				0	1	1									
京都大学医学研究科医学専攻	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	外科専門医（日本外科学会）	0	0	2	0	0	2									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器外科専門医（日本消化器学会）	1	1	2	0	0	0									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器がん外科治療認定医（日本消化器外科学会）	0	0	4	0	0	0									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）	0	0	1	0	0	1									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器病学会専門医（日本消化器病学会）	0	0	1	0	0	1									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器外科指導医（日本消化器外科学会）	0	0	1	0	0	1									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	日本内視鏡外科学会　技術認定医（大腸）	1	1	0	0	0	0									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	がん治療認定医（日本がん治療認定機構）	0	0	1	0	0	1									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	放射線診断専門医（日本医学放射線学会）	1	1	0	0	0	0									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	核医学専門医（日本核医学会）	1	1	0	1	0	0									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	専門医（日本乳癌学会）	0	0	1	0	0	1									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	検診マンモグラフィ読影認定医（日本乳がん検診精度管理中央機構）	0	0	0	0	0	1									
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	肝臓専門医（日本肝臓学会）				0	1	0									
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	4年	認定血液専門医　（日本血液学会）	1	1	1	1	1	1									
	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	4年	総合内科専門医（日本内科学会）	0	0	0	1	1	1									
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	4年	外科専門医（日本乳癌学会）	2	2	2	0	0	0									
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医（日本婦人科腫瘍学会）	1	1	1	2	2	2									
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	4年	放射線治療専門医（日本医学放射線学会）	0	0	0	1	1	1									

コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	④受験・合格・資格取得者数															
			学会等認定資格名	H29			H30			R1			R2			R3		
				受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数
三重大学医学系研究科看護学専攻	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	2年	がん看護専門看護師 （日本看護系大学協議会）	2	2	2	1	1	1									
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	肝臓専門医（日本肝臓学会）	1	1	1	0	0	3									
	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	日本消化器外科学会専門医				1	1	1									
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	日本医療薬学会認定薬剤師				1	1	1									
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	2019/01 日本医療薬学会認定　がん指導薬剤師取得				1	1	1									
大阪医科大学医学研究科医学専攻	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	がん治療認定医 （日本がん治療認定医機構）	0	0	0	0	0	0									
	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	がん薬物療法専門医 （日本臨床腫瘍学会）	0	0	0	0	0	0									
大阪医科大学医学研究科医学専攻	放射線療法専門医養成コース	4年	放射線科専門医 （日本医学放射線学会）	0	0	0	0	0	0									
大阪医科大学医学研究科医学専攻	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	JBCT日本がん治療認定医機構 がん治療認定医試験	0	0	0	2	2	2									
京都薬科大学薬学研究科薬学専攻	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	4年	がん専門薬剤師 （日本医療薬学会）	0	0	0	1	0	0									

資料 3

平成30年度　がんプロ履修生調査（要望・改善点）

【京都大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	がんプロ後援のセミナーが数多く開かれておりますが、例えば京都大学・大阪大学・近畿大学は地理的にかなり近く参加しやすいので、メールでのリアルタイムな情報共有ががんプロ参加者への直接的な利益に繋がると思います。また海外合同教育セミナーや5大学連携医療フォーラムについてのご連絡は中央事務局から各大学の事務局を通していらっしゃるかと存じますが、タイムラグや伝達漏れリスクを軽減して頂ければ幸いと思いまして、中央事務局からメールで直接がんプロ参加者に情報伝達を行うようにできませんでしょうか。ご検討のほど、宜しくお願い致します。	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	Eラーニング講義の視聴済み、未視聴の区別を分かりやすくして、講義を受ける際の手順を簡略化して欲しい	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
3	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	学会参加費の助成をしていただいて、大変満足しています。	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
4	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外合同教育セミナー、医療フォーラムなど参加させていただいておりますが、単調になりがちな研究生活に新しいアイデアや大きなモチベーションを得られています。今の体制に満足しております。	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
5	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	色々なプログラムや補助を用意くださっており、ありがたく思います。まだ積極的な活用経験はないのですが、今度様々な機会を利用させていただければと思っています。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
6	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	平成30年度は登録初年であり、とくに助成申請などしていないのでご評価致しかねます。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
7	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外学会への補助の継続を宜しくお願いいたします。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
8	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成により、学会に積極的に参加できている。また2月に開催された短期研修プログラムは大変充実した研修であり、他大学・多職種とのディスカッションもでき、貴重な経験ができ満足している。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
9	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	がんプロ経費でAACRに行かせて頂きました。非常に有意義な学会で、今年度の学振（DC2）取得の原動力となりました。	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
10	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	充実した教育をいただいております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース
11	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	E-ラーニングがもう少し最新にバージョンにアップデートしていただければ幸甚です。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース
12	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	臨床腫瘍学のE-learningにおいて、特にコアカリキュラムのビデオは約10年前のものであり、聴講しても最新の知見と相違があるのではないかと不安に感じてしまう。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース
13	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	特になし	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
14	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成応募しております。宜しくお願い致します。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
15	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外研究発表に対して旅費助成を頂けるのは大変助かり研究の励みとなるので継続頂きたく思います。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
16	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	まだ使っていませんが、研究発表旅費助成などの制度があり、大変ありがたく思っています。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
17	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	充実した教育をいただいております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース
18	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	E-ラーニングがもう少し最新にバージョンにアップデートしていただければ幸甚です。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース

【京都大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
19	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	特になし	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース
20	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	現状満足しています。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
21	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成のおかげで国際学会で発表させて頂くことができてとても有意義な時間でした。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
22	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	特になし	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
23	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	「研究発表旅費助成について」 手厚い助成を頂いており、満足しています。もし可能であれば、ポスター発表などでも参加費の支払いが可能といった低価格の助成を別枠で作成して頂ければ、下級生のearly exposureとして裾野を広げる役割を担ってくれるのでは、と思いました。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
24	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成については、エジンバラへの渡航費を援助していただき、感謝しております。また5大学連携医療フォーラムにも参加しましたが、普段臨床研究をメインにやっているとなかなか知り得ない、基礎研究の話題も拝聴でき、得るものが多かったと思います。他大学で聴講できるのも刺激になって良いと感じました。研究費がなかなか獲得できず困っている大学院生も多いと思いますので、今後も引き続きサポートをお願い申し上げます。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
25	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	e-learning講義をもう少し充実させてほしい（最新の知見に即したもの）	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
26	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	特になし	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
27	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成は大学院生が海外学会発表を行うにあたり大変重要な事業ですので今後も継続いただけますと幸いに存じます。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
28	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	Eラーニング聴講は平成31年度に行う予定	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
29	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	がんプロの体制変更があったが、おおむね不安なく継続することが可能でよかった。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
30	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	e-learningサイトが勉強になる。一部PDF downloadができ役に立つ	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
31	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	なかなか応募する機会は少ないですが、旅費助成、海外合同教育セミナーについて今後も継続していただけると助かります。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
32	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	e-learning講義の履修登録方法および単位認定方法がわかりにくかった。	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
33	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	e-learningは勉強になりました。	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース
34	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	E-ラーニング講義は大変勉強になりました。	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース

【三重大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望・改善点、満足店）	平成30年度3月に海外合同教育セミナーに参加させていただき、とても良い経験になりました。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	大学院生は、がん看護に関する講義や実習等で、がんプロ修了生であるがん看護専門看護師から、直接指導を受ける機会があり、充実した学習の機会が得られたと評価している。改善すべき点として挙がるものはなかった。	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース

【滋賀医科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望・改善点など）	海外学会・シンポジウムへの参加に対する金銭的支援がさらにあれば貴重な経験ができると思います	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望・改善点など）	金銭面での補助が前年と比較して少なくなっており、学会参加に制限が生じたため改善していただきたい。	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース

【大阪医科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	満足しています	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	eラーニングにて再認識できる領域も多く、活用しております。特に要望はありません。	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース
3	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	他大学の大学院生と交流を持てたことはいい刺激になりました。2019年3月で無事大学院卒業となりました。ありがとうございました。	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース

【京都薬科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外合同教育セミナーに参加させていただき、最先端の病院の見学、最先端の研究・医療を目の当たりにできたのはいい経験になりました。また他の職種の方と交流を深められたのも有意義でした。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	5大学連携 学生短期研修プログラムに参加し、研修を通して今後の薬剤師のありかたや、自分がどのような薬剤師になりたいかをイメージすることができたので大変良い研修であり、満足している。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
3	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	様々な学会に演題を出題し、研究発表旅費助成があり非常に有意義な学会発表になっています。E-ラーニング講義はもっと動画配信数が増えるとよいと考えております。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
4	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	がんプロコース主催の講演やE-ラーニング講義等、学ぶことが多くとても満足しています。30年度は個人的な理由で学会に参加できなかったので、今後は積極的に参加できればと思っています。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
5	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	・学生短期研修プログラム： 今年度初の試みでしたが、大変充実したものでした。 各コースに関わる研修による学びだけでなく、各大学の学生同士の交流もでき、お互いに良い刺激を受けることができたと思います。 ・E-ラーニング講義： 講義一覧ページにおいて、各ビデオの並び方が年度順ではなく、最近のビデオがどれか分かりづらいと思います。 各項目別だけでなく、年度・日付順になるよう表示していただければ助かります。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
6	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	実施されたものに関しては概ね満足しております。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
7	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	実施されたものは満足しております。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース

資料 4

がんに特化した講座の設置状況

大学名	名称	分類	目的	体制	総計	専任						兼任						設置年月
						計	教授	准教授	講師	助教	その他	計	教授	准教授	講師	助教	その他	
京都大学	京都大学大学院医学研究科医学専攻腫瘍薬物治療学分野	化学療法	1）化学療法を中心とした高度ながん治療を展開する 2）化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医を養成する	[計画] 教授1(専任)、准教授1(専任)、助教1(専任)	3	3	1	1		1		0						H24.09
				[実施] 教授1（専任）、准教授1（専任）、助教1（専任）、助教2（兼任）	5	3	1	1		1		2				2		
三重大学	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻放射線腫瘍学講座	放射線療法	医学部、大学院での放射線治療の教育を充実させることにより、放射線治療医の育成を強化し、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することを目的とする。	[計画] 教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	2	1			1		0						H24.04
				[実施] 教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	2	1			1		0						
滋賀医科大学	滋賀医科大学医学部臨床腫瘍学講座	化学療法 その他	最新のがん薬物療法を促進するとともに、がんの予防、診断、治療の面から高度先進がん医療の研究・臨床展開と教育を通じたがん専門医・医療スタッフの育成を推進し、社会に貢献する。	[計画] 教授(専任)1名、講師(専任)2名、助教(専任)1名	4	4	1		2	1		0						H24.10
				[実施] 教授(専任)1名、講師(専任・兼任)各2名、助教(兼任)1名	6	3	1		2			3			2	1		

資料５

セミナー・シンポジウム等の開催状況（平成30年度）

※「参加大学数」は、京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学）以外の大学等を示す。
※「学内参加者数」は、主催大学以外の京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学）の大学を含む。

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	目標			開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	うち拠点外大学数
【達成目標調査作成時】										
1	がんプロ5大学連携「医療フォーラム」	京都大学	1	120	0	1	40	1	0	0
2	がんプロ5大学連携合同教育セミナー	京都大学	1	35	0	1	10	0	0	0
3	がんプロ腫瘍セミナー	京都大学	2	50	0	2	52	136	13	9
4	がんプロ特別講演	京都大学	4	160	0	8	346	230	3	0
5	京都府立医科大学・京都大学連携「府民公開講座」	京都大学	1	220	1	0				
6	がんリハビリテーション特別講演	京都大学	2	70	0	2	13	32	0	0
7	京都がん研究会	京都大学	2	100	0	2	93	21	3	0
8	京都乳がん市民公開講座	京都大学	1	50	0	1	70	170	0	0
9	骨転移セミナー	三重大学	1	50	0	1	29	21	1	0
10	早期からの緩和ケアを考える会	三重大学	1	50	0	1	13	13	1	0
11	医科歯科連携推進人材養成研修会	三重大学	1	120	0	2	35	244	1	0
12	緩和ケアセミナー	三重大学	1	60	0	3	103	135	1	0
13	がんチーム医療研究会	三重大学	1	90	0	1	31	44	1	0
14	膵がん撲滅パープルリボンウオーク・セミナー	三重大学	1	100	0	1	50	17	1	0
15	三重がん看護フォーラム	三重大学	1	100	1	2	18	86	4	1
16	三重大ELNECコアカリキュラム	三重大学	1	80	1	1	7	67	3	1
17	三重がん看護専門看護師会議	三重大学	6	90	1	8	29	86	3	1
18	滋賀がん医療講演会	滋賀医科大学	2	40	0	4	153	6	0	0
19	滋賀がん市民公開講座	滋賀医科大学	3	30	0	6	37	121	0	0
20	滋賀がん医療啓発フォーラム	滋賀医科大学	1	80	0	1	9	324	0	0
21	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	滋賀医科大学	1	100	0	2	21	125	0	0
22	滋賀県薬物療法conference	滋賀医科大学	2	60	0	3	17	67	0	0
23	若年がんを考える会	滋賀医科大学	2	40	0	2	40	21	0	0
24	市民公開講座(乳がんまたは消化器がん)	滋賀医科大学	1	120	0	1	11	87	0	0
25	滋賀癌化学療法研究会	滋賀医科大学	1	50	0	1	12	43	0	0
26	三島医療圏がん診療ネットワーク協議会	大阪医科大学	2	70	0	2	27	40	0	0
27	三島圏域がん研究会	大阪医科大学	2	200	0	3	109	180	1	1
28	大阪医科大学　市民公開講座	大阪医科大学	1	70	0	1	93	15	0	0
29	薬剤師卒後セミナー	京都薬科大学	0	0	0	1	49	56	2	2
30	薬学研究者養成セミナー	京都薬科大学	1	50	0	1	94	1	1	1
31	がん専門薬剤師によるキャリアパスセミナー	京都薬科大学	1	50	0	1	47	6	0	0
32	市民公開講座	京都薬科大学	1	100	0	1	57	29	0	0
33	地域医療機関との合同セミナー	京都薬科大学	0	0	0	1	110	7	0	0
	No1～33の計		49	2,605	4	68	1,825	2,431	39	16

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	目標			開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	うち拠点外大学数
【達成目標調査作成時以降】										
34	第2回　地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師コース	京都大学				1	20	72	4	0
35	近畿地区3拠点合同フォーラム	京都大学、大阪大学、近畿大学				1	9	45	3	0
36	京都大学がんプロセミナー「Deep learningによる医用画像解析の深化と進化」	京都大学				1	18	51	14	12
37	産婦人科国際医療塾2018	京都大学				1	10	7	5	0
38	薬剤師（研究者）養成コース勉強会	京都大学				1	34	18	1	0
39	がん薬物療法セミナー	三重大学				3	143	0	1	0
40	がん薬物療法における薬薬連携研修会	三重大学				2	37	155	1	0
41	三重乳腺診断フォーラム	三重大学				2	44	138	1	0
42	MIE Lung Cancer Symposium	三重大学				2	27	37	1	0
43	緩和ケア研修会	三重大学				2	85	68	1	0
44	MIE Ovarian Cancer Symposium	三重大学				1	12	33	1	0
45	骨髄腫セミナー　in MIE	三重大学				1	18	14	1	0
46	三重メディカル・オンコロジー・フォーラム	三重大学				1	26	27	1	0
47	三重県産婦人科腫瘍研究会	三重大学				1	16	22	1	0
48	三重肺癌研究会	三重大学				1	16	12	1	0
49	三重がん・生殖医療研究会セミナー	三重大学				1	50	45	1	0
50	MIE Lung Cancer Forum	三重大学				1	5	18	1	0
51	将来の日本のがん医療と研究を見据えて	三重大学				1	44	6	1	0
52	Lymphoma seminar in MIE	三重大学				1	11	22	1	0
53	三重泌尿器科臨床セミナー	三重大学				1	9	17	1	0
54	MIE Breast Cancer Symposium	三重大学				1	12	15	1	0
55	がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会	三重大学				1	10	10	1	0
56	がん性疼痛セミナー	三重大学				1	22	46	1	0
57	公開講座　若い女性の将来の妊娠と出産を考える	三重大学				1	12	110	1	0
58	三重乳腺疾患治療研修会	三重大学				1	14	17	1	0
59	血液腫瘍フォーラム	三重大学				1	23	4	1	0
60	三重大学医学部附属病院がんセンター主催特別講演会	三重大学				1	14	3	1	0
61	三重がん放射線治療研究会	三重大学				1	18	36	1	0
62	東近江医療圏がん診療公開講座	滋賀医科大学				2	20	305	0	0
63	滋賀県肺癌学術講演会　～肺癌診療 Up to Date ～	滋賀医科大学				1	18	23	0	0
64	緩和ケア講演会 in 滋賀	滋賀医科大学				1	11	60	0	0
65	ハイリスクがん患者　がん薬物療法セミナー	滋賀医科大学				3	27	167	0	0
66	ゲノム医療薬剤師研修会 in 京都	滋賀医科大学				1	4	75	0	0
67	平成30年度薬剤部講演会	滋賀医科大学				1	20	15	0	0
68	リレー・フォー・ライフ・ジャパン2018	滋賀医科大学				1	150	400	0	0
69	第20回がんセンター研修会	大阪医科大学				1	39	0	0	0
70	第21回がん医療総合センター研修会市民公開講座	大阪医科大学				1	10	86	0	0
71	第22回がん医療総合センター研修会	大阪医科大学				1	115	0	0	0

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	目標			開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	うち拠点外大学数
72	三島医療圏がん診療連携拠点病院合同第2回市民公開セミナー	大阪医科大学				1	10	120	0	0
73	遺伝子・ゲノムセミナー	京都薬科大学				1	99	9	3	3
74	2018年度 実務支援セミナー	京都薬科大学				1	0	39	0	0
	No34～74の計					50	1,282	2,347	53	15
	合　計		49	2,605	4	118	3,107	4,778	92	31

資料 6

平成30年度　インテンシブコース実施事業

（　）の数字は参加人数

【京都大学】

高度放射線治療を担う人材養成コース（インテンシブ）	
18/09/01	第46回京都放射線腫瘍研究会プログラム（103）
19/02/17	がんプロセミナー「Deep learningによる医用画像解析の深化と進化」（69）
19/03/09	第47回京都放射線腫瘍研究会プログラム（85）
地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース（インテンシブ）	
19/02/07	HCC 病診薬連携 Seminer（37）
19/02/16	第2回地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース（92）
様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース（インテンシブ）	
19/1/22～1/23	がんチーム医療研修会（12）
19/2/19～2/20	がんチーム医療研修会（12）
19/3/12～13	がんチーム医療研修会（8）
家族性腫瘍（遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など）に対応できる医療人育成コース（インテンシブ）	
18/04/27	海外遺伝医療視察報告会（1）（21）
18/05/25	海外遺伝医療視察報告会（2）（33）
18/10/05	膵がん早期診断への挑戦・家族性膵がん登録制度（36）
ビックデータ医科学を担う人材育成コース（インテンシブ）	
18/07/21	京都大学薬学部第15回生涯教育講演会「AI、スパコンで挑むゲノム医療、創薬」（123）

【三重大学】

地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース（インテンシブ）	
18/07/29	平成30年度 第1回がん薬物療法における薬薬連携研修会（87）
19/02/03	平成30年度 第2回がん薬物療法における薬薬連携研修会（107）
ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース（インテンシブ）	
18/05/11	第9回早期からの緩和ケアを考える会（26）
18/5/26-27	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（2日間）（29）多職種
18/08/26	緩和ケアフォローアップ（緩和ケアチーム）研修　（24）　多職種

18/11/11	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（1日間：新指針）（45）多職種
18/12/15,19/1/5,1/26	対人援助・スピリチュアルケア研修(3日間)（5） 多職種
19/1/13,14	がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会（2日間）（10） 医師8名 臨床心理士2名
18/07/26	第17回三重大学緩和ケアセミナー「多職種の力を活かした連携を考える」（113）多職種
18/10/25	第18回三重大学緩和ケアセミナー「隣はなにをするひとぞ～各職種の専門性を共有しよう（60） 多職種
19/01/18	第19回三重大学緩和ケアセミナー「緩和ケアにおける臨床倫理」（65） 多職種

ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース（インテンシブ）

18/04/11	第113回Tumor Board（72）
18/04/16	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（21）
18/05/09	第114回 Tumor Board（69）
18/05/28	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（19）
18/06/13	第115回 Tumor Board（66）
18/06/18	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（18）
18/07/11	第116回 Tumor Board（50）
18/07/14	三重肺癌研究会（28）
18/07/23	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（18）
18/09/07	がんチーム医療研究会（75）
18/09/10	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（18）
18/09/12	第117回 Tumor Board（58）
18/09/13	Mie Lung Cancer Symposium（34）
18/10/10	第118回 Tumor Board（75）
18/10/15	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（20）
18/11/14	第119回 Tumor Board（57）
18/11/19	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（17）
18/12/12	第120回 Tumor Board（64）
18/12/17	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（18）
19/01/09	第121回 Tumor Board（41）
19/01/21	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（17）
19/02/13	第122回 Tumor Board（40）
19/02/18	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（18）
19/03/08	Mie Lung Cancer Symposium（30）
19/03/13	第123回 Tumor Board（41）
19/03/18	骨転移合同カンファレンス「症例検討」（19）

ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース（インテンシブ）

18/04/03	遺伝子カンファレンス（19）多職種

18/05/01	遺伝子カンファレンス（15）多職種
18/06/05	遺伝子カンファレンス（18）多職種
18/07/03	遺伝子カンファレンス（12）多職種
18/08/07	遺伝子カンファレンス（17）多職種
18/09/11	遺伝子カンファレンス（13）多職種
18/10/02	遺伝子カンファレンス（18）多職種
18/11/16	遺伝子カンファレンス（18）多職種
18/12/04	遺伝子カンファレンス（17）多職種
18/12/18	エキスパートパネル（9）多職種
18/12/25	エキスパートパネル（12）多職種
19/01/08	遺伝子カンファレンス（14）多職種
19/01/15	エキスパートパネル（9）多職種
19/01/29	エキスパートパネル（11）多職種
19/02/05	遺伝子カンファレンス（16）多職種
19/02/12	エキスパートパネル（12）多職種
19/02/19	エキスパートパネル（11）多職種
19/03/05	遺伝子カンファレンス（17）多職種
19/03/12	エキスパートパネル（10）多職種
19/03/19	エキスパートパネル（13）多職種
19/03/26	エキスパートパネル（11）多職種

【滋賀医科大学】

ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース（インテンシブ）	
18/05/23	滋賀県肺癌学術講演会　～肺癌診療　Up　to　Date～
18/07/26	平成30年度第1回”がんを学ぼう”市民公開講座
18/08/30	平成30年度第2回”がんを学ぼう”市民公開講座
18/09/13	平成30年度第3回”がんを学ぼう”市民公開講座
18/10/12	平成30年度第4回”がんを学ぼう”市民公開講座
18/10/24	第1回腫瘍センター講演会
18/11/04	第9回東近江医療圏　がん診療公開講座
18/11/12	第2回腫瘍センター講演会
18/11/19	平成30年度第5回”がんを学ぼう”市民公開講座
18/12/04	緩和ケア講演会in滋賀
18/12/14	平成30年度第6回”がんを学ぼう”市民公開講座
19/02/03	第10回東近江医療圏　がん診療公開講座
19/02/13	第3回腫瘍センター講演会（キャンサーボード共催）
19/03/06	第4回腫瘍センター講演会（キャンサーボード共催）
19/03/25	平成30年度　薬剤部講演会

ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師コース（インテンシブ）	
18/04/24	第2回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー
18/05/23	滋賀県肺癌学術講演会　～肺癌診療　Up　to　Date～
18/07/04	第18回滋賀県がん薬物療法conference
18/09/01	第2回滋賀県がん薬物療法多職種合同カンファレンス （第19回滋賀県がん薬物療法conference）
18/09/23	ゲノム医療薬剤師研修会in京都
18/10/07	第18回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース
18/11/07	第20回滋賀県がん薬物療法conference
18/11/09	第3回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー
18/12/04	緩和ケア講演会in滋賀
19/03/02	第19回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース
19/03/12	第4回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー

資料 7

平成30年度に導入された医療チーム

大学名	名称	分類	活動内容	30年度	備考
三重大学	がん免疫療法対策チーム	「化学療法」	診療科横断的、多職種の連携によるがん免疫療法のチーム医療	7月	

医療チームの整備体制（平成30年度）

大学名	名称	分類	活動内容	備考
京都大学	脳腫瘍／小児脳腫瘍ユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	脳外科・放射線治療科・小児科合同による集学的がん診療	
京都大学	前立腺がんユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	泌尿器科・放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	肺がん/中皮腫ユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	乳がんユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	乳腺外科、外来科学療法部、放射線治療科、放射線診断科、病理診断部、集学的がん診療部からなる集学的診療体制を構築	
京都大学	食道がんユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	消化管外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科、耳鼻科・頭頸部外科からなる集学的診療体制	
京都大学	膵臓がんユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	肝胆膵・移植外科、消化器内科、放射線治療科、腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	血液腫瘍ユニット	「化学療法」「放射線療法」	血液腫瘍に関するチーム医療	
京都大学	緩和ケアチームユニット	「緩和ケア」	診療科横断的かつ職種横断的診療と支援	
京都大学	頭頸部がんユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、放射線治療科、腫瘍内科合同による集学的がん診療	
京都大学	胃がん/GISTユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	消化管外科、消化器内科、腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	小児がんユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	小児腫瘍に関する横断的ながん療法	
京都大学	大腸がんユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	腫瘍内科、消化器内科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	原発不明がん／希少がんユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」	診療科横断的かつ迅速な治療方針の決定と治療の実践	
京都大学	家族性腫瘍ユニット	「その他」	遺伝相談も含めたチーム医療	
京都大学	婦人科腫瘍ユニット	「放射線療法」「化学療法」「その他」	婦人科腫瘍に関する診療科横断的チーム医療	
京都大学	NET（神経内分泌細胞腫瘍）ユニット	「放射線療法」「化学療法」「緩和ケア」「その他」	ホルモン異常、遺伝性など非腫瘍領域の診療科も含めた診療科横断的集学的治療	
京都大学	メラノーマユニット	「化学療法」「その他」	免疫チェックポイントに阻害剤に関するチーム医療	

大学名	名称	分類	活動内容	備考
京都大学	クリニカルシークエンスユニット	「化学療法」 「その他」	遺伝子解析に基づくゲノム医療に関するチーム医療	
京都大学	放射線治療医療チーム	「放射線療法」 「緩和ケア」	臓器横断的な放射線治療の教育と実践	
京都大学	薬物治療チーム	「化学療法」 「緩和ケア」	がん薬物療法専門医の育成、がん薬物療法のレジメン管理	
京都大学	骨転移ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	整形外科、放射線治療科、乳腺外科、泌尿器科による集学的がん診療	
京都大学	胆道がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	消化器内科、肝胆膵・移植外科、腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科による集学的診療	
京都大学	OncoNephrologyユニット	「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	腎臓内科、腫瘍内科、薬剤部によるがん領域と腎臓領域の両面から連携したチーム医療	
三重大学	口腔ケアチーム	「緩和ケア」	がん治療前の口腔ケア	
三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	がん患者のトータルな緩和医療 麻酔科医、鍼灸師も加わった多職種による緩和医療	
三重大学	栄養サポートチーム	「その他」	がん患者の栄養管理	
三重大学	褥瘡チーム	「その他」	がん患者の褥瘡管理	
三重大学	乳癌治療検討会	「放射線療法」 「化学療法」	1回/2週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討	
三重大学	乳腺疾患術後検討会	「その他」	1回/2週、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討	
三重大学	乳房MRI検討会	「その他」	1回/週、乳房MRIの画像診断を放射線科、乳腺外科で検討	
三重大学	乳腺疾患検討会	「その他」	1回/月、放射線科、病理、乳腺外科で術後症例の画像・病理について勉強	
三重大学	膵がん教室	「化学療法」	医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士による膵がん教室を月2回実施	
三重大学	内科小児科合同移植カンファレンス	「化学療法」	血液内科医、小児科医、輸血部医、薬剤師、看護師による、治療、移植等ミーティング1回/月実施	
滋賀医科大学	化学療法チーム	「化学療法」	医師6名、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
滋賀医科大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
大阪医科大学	緩和ケア室	「放射線療法」	がん患者の痛みや心のケアに関するチーム医療	
大阪医科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療	

資料 8

キャンサーボードの体制（平成30年度）

【京都大学】

区分	キャンサーボード名	がん種	主な診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科 放射線治療科	◎脳神経外科医　放射線治療医　小児科医　看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
2	前立腺がんユニットカンファレンス	前立腺がん	泌尿器科 放射線治療科	◎泌尿器科医、放射線治療科医、画像診断科、病理部門、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	肺がんユニットカンファレンス	肺がん 悪性中皮腫 縦隔腫瘍	呼吸器内科 呼吸器外科 放射線治療科	◎呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線治療科医、放射線診断医	集学的治療を要する患者の治療方針検討、他科への治療依頼、治療難渋例についてのディスカッション	25%未満実施
4	乳がんユニットカンファレンス	乳がん	乳腺外科 放射線治療科	◎乳腺外科医、腫瘍内科医、放射線治療科医、放射線診断科医、病理診断科医、整形外科医、形成外科医、遺伝子診療部	新規、継続治療患者のの治療並びに診断の標準化を行う。	全例実施
5	食道がんユニットカンファレンス	食道がん	消化管外科 消化器内科 放射線治療科	◎消化管外科医、消化器内科医、放射線治療科医、耳鼻科・頭頚部外科医、腫瘍内科医、理学療法士	新規治療開始患者および再発患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
6	膵臓がんユニットカンファレンス	膵がん	肝胆膵・移植外科 消化器内科	◎肝胆膵・移植外科医、腫瘍内科医、放射線治療科医、放射線診断科医、消化器内科医、精神科医、看護師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	血液腫瘍ユニットカンファレンス	造血器腫瘍	血液内科 放射線治療科	◎血液内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
8	緩和ケアチームユニットカンファレンス	全種	緩和医療科 精神科 腫瘍内科	◎緩和ケア医、精神科医、腫瘍内科医、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
9	頭頚部がんユニットカンファレンス	頭頸部がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 放射線治療科 歯科口腔外科	◎耳鼻咽喉科・頭頸部外科医、放射線治療医、腫瘍内科医	新規患者の検討をする。	全例実施
10	胃がん・GISTユニットカンファレンス	胃がん 消化管間質腫瘍（GIST）	消化器内科 消化管外科 放射線治療科 腫瘍内科	◎腫瘍内科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
11	小児がんユニットカンファレンス	小児がん全般	小児科 小児外科 脳神経外科	◎小児科医、小児外科医、整形外科医、耳鼻咽頭科医、泌尿器科医、眼科医、放射線治療科医、病理診断科医、呼吸器外科医、整形外科医	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
12	大腸がんユニットカンファレンス	大腸がん	腫瘍内科 消化器内科 消化管外科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化器内科医、消化管外科医、肝胆膵移植外科医、放射線治療科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
13	原発不明がん・希少がんユニットカンファレンス	原発不明がん 希少がん	腫瘍内科 病理診断科 遺伝子診療部	◎腫瘍内科医、消化器内科医、病理診断科医、小児科医、呼吸器内科医、婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、肝胆膵移植外科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
14	骨転移ユニットカンファレンス	転移性骨腫瘍	整形外科 乳腺外科 放射線治療科 泌尿器科 リハビリテーション科	◎整形外科医、乳腺外科医、放射線治療医、泌尿器科医	新規対象患者の診断、治療方針の決定、治療中患者の方針の検討および経過報告をする。	50%以上75%未満

15	家族性腫瘍ユニットカンファレンス	家族性腫瘍	遺伝子診療部 産科・婦人科 乳腺外科 泌尿器科	◎遺伝子診療部、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
16	婦人科腫瘍ユニットカンファレンス	子宮がん 卵巣がん 外陰がん	産科婦人科	◎婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
17	NET（神経内分泌腫瘍）ユニットカンファレンス	神経内分泌腫瘍	肝胆膵・移植外科 腫瘍内科 糖尿病・内分泌・栄養内科 消化器内科	◎肝胆膵移植外科医、腫瘍内科医、消化器内科医、内分泌代謝内科医、放射線診断科医、呼吸器外科医、消化管外科医、放射線治療医、病理医	新規依頼患者および継続診察患者の診断治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
18	メラノーマユニットカンファレンス	悪性黒色腫	皮膚科	◎皮膚科医、腫瘍内科医、耳鼻科医、産婦人科医、薬剤師	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
19	オンコネフロロジーユニットカンファレンス	血液透析患者に合併したがん	腎臓内科	◎腎臓内科医、腫瘍内科医、薬剤部	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
20	クリニカルシーケンスユニットカンファレンス	原発不明がん 希少がん 標準治療が終了もしくは収量が見込まれる固形がん	腫瘍内科 病理診断科 遺伝子診療部	◎腫瘍内科医、肝胆膵移植外科医、泌尿器科医、婦人科医、放射線治療医、消化器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外科、放射線診断医、臨床遺伝専門医、病理医、バイオインフォマティシャン、ゲノム基礎研究者、認定遺伝カウンセラー、ゲノム医療コーディネーター	クリニカルシーケンス(OncoPrime)を受けた患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
21	胆道がんユニットカンファレンス	胆管がん 胆嚢がん 十二指腸乳頭部がん	肝胆膵・移植外科 消化器内科	◎肝胆膵移植外科医、消化器内科医、腫瘍内科医、放射線診断科医、放射線治療科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施

【三重大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	乳癌治療検討会	乳癌	放射線科　腫瘍内科 乳腺外科	◎乳腺外科医　腫瘍内科医　放射線治療医　薬剤師　看護師	1回/2週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討	全例実施
2	乳腺疾患術後検討会	乳癌	病理　乳腺外科	◎乳腺外科医　病理医	1回/月、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討	全例実施
3	乳房再建検討会	乳癌	形成外科　乳腺外科	◎乳腺外科医　形成外科医	1回/月、形成外科、乳腺外科で乳房再建予定症例について検討	全例実施
4	乳腺疾患カンファレンス	乳癌	乳腺外科　放射線科 病理	◎乳腺外科医　放射線診断医　病理医 放射線技師　臨床検査技師	1回／2ヶ月、乳腺疾患の画像と病理を対して検討	毎回2～3例
5	がんゲノム医療エキスパートパネル	特定なし	検査部、遺伝子診療科、病理部、腫瘍内科、耳鼻科、消化器内科、消化管外科、産婦人科、看護部	◎医師、看護師、遺伝カウンセラー、	がんパネル検査のデータのディスカッション	
6	Tumor Board	特定なし	放射線診断科、放射線治療科、IVR科、病理部、腫瘍内科、整形外科、緩和ケア科、その他関連する診療科すべて	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、ケースワーカー	1回/月、診断困難例、治療難渋例についての検討	
7	骨転移合同カンファレンス	特定なし	放射線診断科、放射線治療科、IVR科、腫瘍内科、整形外科、緩和ケア科、その他関連する診療科すべて	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師	1回/月、骨転移例についての検討	
8	血液腫瘍内科全体症例検討会	造血器腫瘍 固形腫瘍	血液内科、腫瘍内科	◎血液内科医、腫瘍内科医、乳腺外科医	1回/週、造血器腫瘍患者、固形腫瘍患者の治療方針を検討	全例実施
9	血液内科検討会	造血器腫瘍	血液内科	◎血液内科医、臨床検査技師	1回/週、造血器腫瘍患者の治療方針を検討	全例実施

【滋賀医科大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	腫瘍薬物療法カンファレンス	全固形腫瘍	腫瘍内科　消化器内科　消化器外科　乳腺外科	◎腫瘍センター副センター長、腫瘍内科医、消化器内科医、乳腺外科医、呼吸器内科医、消化器外科医、薬剤師、看護師	新規の入院患者対診、外来初診患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
2	肺癌放射線治療カンファレンス	肺癌	放射線科　呼吸器外科　呼吸器内科	◎放射線科科長、放射線科医、呼吸器外科医、呼吸器内科医	新規入院患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	骨髄移植カンファレンス	白血病　リンパ腫	血液内科　小児科	◎血液内科医、血液内科ローテーター、小児科医	移植予定者について前処置薬の検討および移植後患者についての経過報告をする。	全例実施
4	血液疾患カンファレンス	血液全疾患	血液内科　薬剤部　検査部　輸血部	◎血液内科医、病棟看護師、薬剤師、血液検査技師、薬剤部検査技師	全ての入院症例の経過報告と問題点を検討する。	全例実施
5	婦人科癌カンファレンス	婦人科がん	母子・女性診療科　放射線科　薬剤部	◎母子・女性診療科科長、母子・女性診療科医、放射線治療医、	新規入院患者、外来初診患者の治療方針、術式の検討および経過報告をする。	全例実施
6	乳癌カンファレンス	乳癌	乳腺・一般外科	◎乳腺一般外科科長、乳腺外科医、放射線科医、病理医、研修医、学生	新規入院患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	胃癌カンファレンス	食道癌　胃癌	消化器内科　消化器外科　放射線科　病理部、光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	全例実施
8	肝胆膵がんカンファレンス	肝胆膵がん	消化器内科　消化器外科　放射線科　病理部、光学診療部	◎消化器外科医、消化器内科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	75%以上−100%未満実施
9	大腸癌カンファレンス	大腸癌	消化器内科　消化器外科　放射線科　病理部、光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	全例実施
10	乳腺カンファレンス	乳癌	乳腺一般外科、放射線科、病理部	◎乳腺一般外科科長、乳腺外科医、放射線科医、病理医、研修医、放射線治療医、近隣病院の乳腺科医、放射線科医、放射線技師	乳癌患者の診断、治療方針を検討する	50%以上−75%未満実施
11	脳腫瘍治療カンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科	◎脳神経外科医、学生	脳腫瘍にて入院の患者の治療方針、治療経過ならびに外来患者の治療方針について評価報告する	全例実施
12	泌尿器癌カンファレンス	泌尿器癌	泌尿器科	◎泌尿器科科医、学生	泌尿器癌入院患者の治療方針につき討議する。主な外来抗癌療法患者について評価する。	全例実施
13	耳鼻科放射線科合同カンファレンス	頭頸部癌	耳鼻科　　放射線科	◎耳鼻咽喉科長、耳鼻咽喉科医、放射線治療医、診療放射線技師、看護師	放射線治療を受ける頭頸部癌の治療方針や治療経過について検討、評価する。	全例実施
14	放射線治療カンファレンス	全がん腫	放射線科	◎放射線治療医、診療放射線技師、看護師	放射線治療新規患者の照射範囲・線量の確認や治療中患者の治療方針について検討する。	全例実施
15	緩和ケアカンファレンス	全悪性腫瘍	腫瘍内科　腫瘍センター　精神科　薬剤部　看護部	◎腫瘍内科長・腫瘍センター長、腫瘍内科医、精神科医、がん診療全科医、看護師、薬剤師、理学療法士、MSW	新規の介入患者対診、外来初診患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
16	緩和ケアカンファレンス	頭頸部癌	歯科口腔外科 緩和ケアチーム ソーシャルワーカー	◎歯科口腔外科医、精神科医認定看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー	高齢患者の治療後の療養施設決定のための検討、評価を行う	全例実施
17	皮膚悪性腫瘍カンファレンス	皮膚癌、皮膚原発悪性リンパ腫	皮膚科	◎皮膚科医	入院患者および外来手術患者の治療方針を決定する。	全例実施
18	骨転移カンファレンス	転移性骨腫瘍	整形外科 放射線科	◎整形外科医、放射線科医、乳腺一般外科医、消化器外科医、血液内科医、呼吸器内科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、母子女性科医、耳鼻咽喉科医、	骨転移患者の治療方針を決定する	50%以上−75%未満実施

19	小児血液腫瘍多職種カンfワレンス	小児血液腫瘍	小児科　看護部　薬剤部　栄養治療部　リハビリテーション部	◎小児科医、整形外科医、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士	小児血液腫瘍患者の新規入院症例と問題の多い症例を多職種で検討する	全例実施
20	キャンサーボード	原発不明癌	腫瘍センター、呼吸器外科、泌尿器科、消化器外科、消化器内科、放射線科、整形外科、腫瘍内科、病理部、看護部	◎消化器外科医、消化器内科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、放射線科医、整形外科医、腫瘍内科医、病理医、医学生、研修医、看護師	大腸癌術後、多発肺腫瘍、多発リンパ節腫瘍のある原発不明の淡明細胞癌症例に対する、分子標的薬治療の妥当性について	25%未満実施

【大阪医科大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	がんセンター	乳房外バジェット再発、右鼠径リンパ節転移	皮膚科、消化器内科、病理部、放射線治療科、化学療法センター	◎皮膚科、消化器内科、病理部、化学療法センター、放射線治療科の医師、看護師、薬剤師	症例検討	6月7日
2	がんセンター	Solid Pseudopapillary Neoplasm (SPN) 再発	小児科、小児外科、化学療法、病理、緩和、消化器内科、放射線診断科、放射線部、放射線治療科	◎小児科、小児外科、化学療法、病理、緩和、消化器内科、放射線診断科、放射線部、放射線治療科の医師、看護師、薬剤師、診療情報管理士	膵solidpseudopspillaryneoplasm	11月5日
3	がんセンター	膵腫瘍・肝転移	消化器内科、化学療法センター、病理部、泌尿器科、呼吸器腫瘍内科、緩和、放射線治療科	◎消化器内科、化学療法センター、病理部、泌尿器科、呼吸器腫瘍内科、緩和、放射線治療科の医師、薬剤師、診療情報管理士	上下内視鏡やPET－CT検査で他の原発を否定し、腎がんの治療の検討	1月10日
4	がんセンター	肺細胞腫瘍	呼吸器腫瘍内科、消化器内科、化学療法センター、病理部、皮膚科、緩和、放射線診断科、放射線治療科	◎呼吸器腫瘍内科、消化器内科、化学療法センター、病理部、皮膚科、緩和、放射線診断科、放射線治療科の医師、看護師、診療情報管理士	症例検討	2月20日
5	転移性骨腫瘍	S字結腸癌多発骨転移他	化学療法、整形外科、緩和、放射線診断科、放射線治療科	◎化学療法、整形外科、緩和、放射線診断科、放射線治療科の医師、看護師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名１５例　疑い病名３４例	4月11日
6	転移性骨腫瘍	肺がん他	化学療法、整形外科、呼吸器腫瘍内科、消化器内科、リハビリ、放射線診断、放射線診断科、放射線部	◎化学療法、整形外科、呼吸器腫瘍内科、消化器内科、リハビリ、放射線診断、放射線診断科、放射線部の医師、看護師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名7例　疑い病名35例	4月25日
7	転移性骨腫瘍	膀胱がん他	リハビリ、化学療法、整形外科、呼吸器腫瘍内科、泌尿器外科、リハビリ、放射線診断科、放射線治療科、放射線部	◎リハビリ、化学療法、整形外科、呼吸器腫瘍内科、泌尿器外科、リハビリ、放射線診断科、放射線治療科、放射線部の医師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名13例　疑い病名42例	5月9日
8	転移性骨腫瘍	肝腫瘍他	化学療法、呼吸器腫瘍内科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、放射線部、	◎化学療法、呼吸器腫瘍内科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、放射線部の医師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名13例　疑い病名18例	5月23日
9	転移性骨腫瘍	乳癌他	化学療法、整形外科、放射線治療科、診断科、放射線部	◎化学療法、整形外科、放射線治療科、診断科、放射線部の医師、看護師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名13例　疑い病名42例	6月13日
10	転移性骨腫瘍	肺がん他	化学療法、放射線診断、放射線治療、放射線部	◎化学療法、放射線診断、放射線治療、放射線部の医師、看護師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名13例　疑い病名23例	6月27日
11	転移性骨腫瘍	膀胱がん	リハビリ、化学療法、救急医療部、呼吸器腫瘍内科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科	◎リハビリ、化学療法、救急医療部、呼吸器腫瘍内科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科の医師、看護師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名17例　疑い病名41例	7月11日
12	転移性骨腫瘍	子宮頸癌	リハビリ、整形外科、化学療法、救急医療部、泌尿器科、呼吸器腫瘍内科、緩和、放射線診断科、放射線治療科	◎リハビリ、整形外科、化学療法、救急医療部、泌尿器科、呼吸器腫瘍内科、緩和、放射線診断科、放射線治療科の医師、看護師、診療情報管路士	骨転移病名検討他　転移病名15例　疑い病名18例	7月25日
13	転移性骨腫瘍	前立腺がん	整形外科、化学療法、救急医療部、緩和、放射線診断科、放射線診断科	◎整形外科、化学療法、救急医療部、緩和、放射線診断科、放射線診断科の医師、看護師、看護師、診療情報管理士	転移病名１５症例、疑い病名４５症例の検討等	8月8日

14	転移性骨腫瘍	大腸癌頸椎転移	整形外科、化学療法、救急医療部、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、放射線診断科	◎整形外科、化学療法、救急医療部、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、放射線診断科の医師、看護師	転移病名12症例、疑い病名38症例の検討等	8月22日
15	転移性骨腫瘍		整形外科、呼吸器腫瘍科、病理部、放射線診断科、放射線治療科	◎整形外科、呼吸器腫瘍科、病理部、放射線診断科、放射線治療科の医師、	転移病名12症例、疑い病名38症例の検討等	9月12日
16	転移性骨腫瘍	甲状腺癌	リハビリ、救急医療部、整形外科、化学療法、呼吸器腫瘍内科、放射線診断科、治療科	◎リハビリ、救急医療部、整形外科、化学療法、呼吸器腫瘍内科、放射線診断科、治療科の医師、	転移病名8症例、疑い病名19症例の検討等	9月26日
17	転移性骨腫瘍	膀胱がん	整形外科、救急医療部、化学療法、放射線診断科、放射線治療科	◎整形外科、救急医療部、化学療法、放射線診断科、放射線治療科	転移病名19症例、疑い病名39症例の検討等	10月10日
18	転移性骨腫瘍	膀胱がん	救急医療部、整形外科、化学療法センター、放射線診断科、放射線治療科	◎整形外科、救急医療部、化学療法、放射線診断科、放射線治療科の医師、看護師、診療情報管理士	転移病名11症例、疑い病名25症例の検討等	10月24日
19	転移性骨腫瘍	前立腺がん	リハビリ、救急医療部、整形外科、化学療法、緩和、消化器内科、放射線診断科、放射線治療科	◎リハビリ、救急医療部、整形外科、化学療法、緩和、消化器内科、放射線診断科、放射線治療科の医師、薬剤師、看護師、診療情報管理士	転移病名42症例、疑い病名60名症例の検討等	11月14日
20	転移性骨腫瘍	膵癌	リハビリ、救急医療部、整形外科、化学療法、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、治療科	◎リハビリ、救急医療部、整形外科、化学療法、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、治療科の医師、診療情報管理士	転移病名12症例、疑い病名13名症例の検討等	11月28日
21	転移性骨腫瘍	大腸癌他	リハビリ、整形外科、化学療法、消化器内科、放射線診断科、放射線治療科	◎リハビリ、整形外科、化学療法、消化器内科、放射線診断科、放射線治療科の医師、診療情報管理士	転移病名12症例、疑い病名13名症例の検討等	12月12日
22	転移性骨腫瘍	膀胱がん他	整形外科、化学療法、緩和、泌尿器科、消化器内科、放射線診断科、放射線治療科	◎整形外科、化学療法、緩和、泌尿器科、消化器内科、放射線診断科、放射線治療科の医師、診療情報管理士	転移病名28症例、疑い病名39名症例の検討等	1月9日
23	転移性骨腫瘍	肺がん他	リハビリ、化学療法、呼吸器腫瘍科、放射線治療科、診断科	◎リハビリ、化学療法、呼吸器腫瘍科、放射線治療科、診断科の医師、診療情報管理士	転移病名28症例、疑い病名39症例の検討等	2月13日
24	転移性骨腫瘍	乳癌	リハビリ、整形外科、化学療法、放射線診断科、放射線治療科	◎リハビリ、整形外科、化学療法、放射線診断科、放射線治療科の医師、診療情報管理士	転移病名11症例、疑い病名14症例の検討等	2月27日
25	転移性骨腫瘍	食道胃接合部癌	整形外科、緩和、放射線診断科、放射線治療科	◎整形外科、緩和、放射線診断科、放射線治療科の医師と診療情報管理士	転移病名20症例、疑い病名46症例の検討等	3月13日
26	転移性骨腫瘍	乳癌他	リハビリ、呼吸器腫瘍内科、化学療法、放射線診断科、放射線治療科	◎リハビリ、呼吸器腫瘍内科、化学療法、放射線診断科、放射線治療科の医師と診療情報管理士	転移病名14症例、疑い病名28症例の検討等	3月27日

資料 9

プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況

【京都大学】

NO.	プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況	所属コース	氏　名
1	「発育鶏卵モデルを用いた消化管癌および希少癌に対する薬剤応答性の探索的研究(学内)」	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
2	「消化器系がん患者由来の鶏卵癌モデルと個別化医療の開発(AMED研究開発提案書)」	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
3	「臨床血液検体を用いた抗体配列進化追跡法による新規ヒト抗がん抗体の開発(学内)」	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
4	ジャポニカアレイを用いた食道がん治療バイオマーカーの探索	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	三谷　洋介
5	消化器がんの血漿プロテオーム解析によるバイオマーカーの探索	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	三谷　洋介
6	G531(多様な臨床情報を考慮した婦人科悪性腫瘍患者のオミックス解析（全ゲノム・全トランスクリプトーム・プロテオーム・メタボローム解析）による個別化治療の探索)研究計画書の改定、情報公開文書（オプトアウト）の追加作成	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松　士朗
7	「R1926 子宮頸部疾患における子宮・膣マイクロバイオータの解明」「実施計画書」、「説明同意文書」	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
8	「JGOG1082（第3相試験）」	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田 真沙世
9	R1934-1 同種造血幹細胞移植後に発生する感染性・非感染性肺臓炎に対して、全身放射線照射の線量率が与える影響の検討	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
10	C1299『乳房温存療法における放射線治療での体表マーカーレス化に向けた治療の高精度化に関する研究』	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
11	「臨床血液検体を用いた抗体配列進化追跡法による新規ヒト抗がん抗体の開発」	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	藤井　康太
12	「乳がん微小環境形成に関わる分子生物学機序の生体試料を用いた探索研究へのご協力のお願い」	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	波々伯部 絵理
13	MRI画像データに基づく直腸癌に対する術前評価および予後予測の検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	喜安　佳之
14	「大腸癌肝転移治癒切除後の患者に対する術後補助化学療法として，L-OHPベース化学療法にUFT/LV療法の逐次療法を行うことの安全性と有用性の検討」(LOFT試験)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
15	進化する医療光学技術に対応し得る消化器解剖図の作成	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	中村　達郎
16	「大腸がん手術後の就労に関する研究」	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
17	C1327: PSMAを標識とするPETプローブ 18F FSU-880の初期臨床研究:安全性、体内動態、被曝線量、前立腺癌病巣への集積性の検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	渡部　正雄
18	R1871: 腹膜播種を伴う進行卵巣癌、卵管癌、腹膜癌のinterval debulking surgery (IDS)症例において、術前化学療法(NAC)の前後でのFDG PET/CT定量解析の予後予測への応用についての検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	渡部　正雄
19	改良型術野投影機器が示す近赤外蛍光画像をガイドとして行う肝切除における切離ライン精度の検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
20	腹腔鏡肝切除における蛍光ナビゲーション手術の有用性の検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
21	大腸癌肝転移治癒切除後の患者に対する術後補助化学療法として，L-OHPベース化学療法にUFT/LV療法の逐次療法を行うことの安全性と有用性の検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
22	胆嚢癌に対する分子標的治療を目的とした分子・免疫機構の解明	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
23	研究計画「がんサバイバーにおける脳機能、姿勢、バランス、味覚とQOLの実態調査：倫理委員会承認番号R1731」の作成	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	小橋　美月
24	研究計画「がんサバイバーにおける脳機能、姿勢、バランス、味覚とQOLの実態調査：倫理委員会承認番号R1731」の作成	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田　圭子

25	H31年3月に修士論文の研究計画書作成、倫理委員会へ提出しました。	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	宮園　めぐみ

【滋賀医科大学】

NO.	プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況	所属コース	氏　名
1	「膵頭十二指腸切除術の膵空腸吻合におけるポリグリコール酸シート被覆の有用性を検証する日本-韓国多施設無作為化比較第Ⅲ相試験」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
2	「アジア人中腸NETの臨床病理学的特性に関する多施設共同研究」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
3	「腹腔動脈合併尾側膵切除術における長期・短期成績に関する多施設共同後ろ向き研究」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
4	「膵癌切除後肺転移の臨床病理組織学的特徴に関する後ろ向き観察研究」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充

【大阪医科大学】

NO.	プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況	所属コース	氏　名
1	「切除不能進行胃癌に対するTS-1+オキサリプラチン（L-OHP）+イリノテカン（CPT-11）（TIROX）併用療法　第I相臨床試験」	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	由上　博喜

資料 10

国際学会、英文誌への発表一覧

【京都大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	学会等発表 「Cancer Course Colloquium 2018」「Chicken Chorioallantoic Membrane Model ― a Breakthrough in Personalized Cancer Therapy」「2018/9/23」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤 伴樹
2	学会等発表 「AACR annual meeting 2019」「Setdb1 deletion protects against formation of pancreatic ductal adenocarcinoma of pancreatic ductal adenocarcinoma through inducing apoptosis and upregulating p53 expression」「2019/3/31」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川 智
3	学会等発表 「Annual Global Academic Programs Conference 2018.」「Precision cancer treatment targeting VUS: A case of a rare HER2 mutation in colorectal cancer. 」「2018/5」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	三谷 洋介
4	学会等発表 「アメリカ癌学会」「Targeted Sequencing of Colorectal Cancer in search for prognostic biomarkers」「2018/4/16 」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	井上 善景
5	学会等発表 「The 17th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society(IGCS2018)」「Establishment of an immunocompetent mouse endometrial cancer model of Uterin a Serous Carcinoma(USC)」「2018/9/14-16」(共著発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	三瀬 有香
6	学会等発表 「AACR annual meeting 2018」「Clinical Significance of Tertiary Lymphoid Structures (TLS) and Tumor Infiltrating Plasma Cells in Ovarian Cancer 」「2018年4月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田 真沙世
7	学会等発表 「IGCS 2018」「CXCL13 Indicates Better Prognosis in Ovarian Cancer Patients via Tertiary Lymphoid Structures (TLS) formation and Tumor Infiltrating Lymphocytes (TIL) homing」「2018年9月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田 真沙世
8	学会等発表 「The 60th ASH Annual Meeting & Exposition」「PiggyBac CD19 CAR T Cells Eradicate CNS Leukemia by Direct Delivery into Cerebral Ventricle of Xenograft Mice Model」「2018/12/3」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中 邦昭
9	学会等発表 「Prognostic value of hematological inflammatory markers in patients with non-small cell lung cancer. Kishi Noriko, Ogura Masakazu e-Poster ESTRO 37th 2018.4.20-24」「 Barcelona, Spain」(共著発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
10	学会等発表 「3rd FAROmeeting(Federation of Asian Organizations for Radiation Oncology) 」「The impact of age on the risk of ipsilateral breast tumor recurrence after breast-conserving the･rapy in early breast cancer patients with negative surgical margin treated without boost irradiation」「2018/9/6」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野 幸果
11	学会等発表 「SAN ANTONIO BREAST CANCER SYMPOSIUM」「A peptide having the conserved amino acid residue of integrin α6 inhibits metastasis through interruption of complex formation in breast cancer cells.」「2018/12 」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中 直
12	学会等発表 「ISMRM (国際磁気共鳴医学会総会) 2018」「Optimal combinations of b-values in computed DWI for pancreatic cancer detection. 」「2018/6」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
13	学会等発表 「ISMRM (国際磁気共鳴医学会総会) 2018」「Case report: Three-dimensional visualization of the normal human perirectal muscle with diffusion tensor imaging (DTI). 」「2018/6」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
14	学会等発表 「ISMRM (国際磁気共鳴医学会総会) 2018」「In vivo 31P magnetic resonance spectroscopy of human parotid gland. 」「2018/6」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
15	学会等発表 「CIRSE (欧州IVR学会総会) 2018」「 fficiency of endovascular treatment for portal venous thrombosis after living donor liver transplantation and its relationship with thrombus property.」「2018/9」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
16	学会等発表 「RSNA (北米放射線学会総会) 2018」「Clinical Utility of Contrast Enhanced MRI in Diagnosis of Ectopic Pregnancy. 」「2018/11」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
17	学会等発表 「8th International Forum of Liver Surgery Japanese-German Society for the Study of Liver Surgery」「Role of laparoscopic liver resection in multidisciplinary treatment for resectable colorectal liver metastases 」「2018/5/26」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田 怜
18	学会等発表 「The 30th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery」「The treatment strategy for resectable synchronous colorectal liver metastases」「2018/6/8」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田 怜

19	学会等発表 「The international society for diseases of the Esophagus」 「Revisiting the Esophagogastric Junction Anatomy: Where Is the Infracardiac Bursa?」「2018/9」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	中村　達郎
20	学会等発表 「SNMMI 2018 Annual Meeting (oral)Pennsylvania Convention Center, Philadelphia, PA, USA」「Analysis of PET images obtained by a mewly-developed mobile PET scanner according to three different layouts of detectors: reconstruction using NLM method」「2018/6/23-26」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	渡部　正雄
21	学会等発表 「Surgery of the Foregut Symposium」、「Precise anatonic liver resection using ICG fluorescence and projection mapping」、「2019/2」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
22	学会等発表 「日本薬物動態学会第33回年会/MDO国際合同学会」「Physiologically based pharmacokinetic model for tacrolimus in living-donor liver transplantation considering liver regeneration and CYP3A5 genotype」「2018年10月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	糸原　光太郎
23	学会等発表 「American Association of Physicists in Medicine (AAPM) 60th Annual Meeting and Exhibition 2018」,「Geometric and Dosimetric Accuracy for Non-Coplanar VMAT with Continuous Couch Rotation Using L-Shaped Treatment Machine」, 「2018/7/30」(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島　英明
24	論文発表 「Technology in Cancer Research & Treatment」「Salvage Pulmonary Operations Following Stereotactic Body Radiotherapy for Small Primary and Metastatic Lung Tumors: Evaluation of the Operative Procedures」「2018/11/11」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
25	論文発表 「Journal of Gastroenterology」「Combination treatment with highly bioavailable curcumin and NQO1 inhibitor exhibits potent antitumor effects on esophageal squamous cell carcinoma」「2019/2/7」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
26	論文発表 「Gut」「Nardilysin inhibits pancreatitis and suppresses pancreatic ductal adenocarcinoma initiation in mice. 」「2018/5」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
27	論文発表 「J Clin Invest.」「The BRG1/SOX9 axis is critical for acinar cell-derived pancreatic tumorigenesis.」「2018/8」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
28	論文発表 「Proc Natl Acad Sci U S A. 」「Arid1a is essential for intestinal stem cells through Sox9 regulation.」「2019/1」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
29	論文発表 「J Pathol.」「Bmi1 marks gastric stem cells located in the isthmus in mice.」「2019/1」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
30	論文発表 BMJ Open. Change of access to emergency care in a repopulated village after the 2011 Fukushima nuclear disaster: a retrospective observational study. 2019 Feb 9;9(2):e023836. (筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川　佳孝
31	論文発表 J Clin Endocrinol Metab. Stable Iodine Distribution Among Children After the 2011 Fukushima Nuclear Disaster in Japan: An Observational Study. 2019 May 1;104(5):1658-1666.(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川　佳孝
32	論文発表 Clin Case Rep.Successful institutional care for behavioral and psychological symptoms of dementia in a repopulated area after the 2011 Fukushima disaster: A case report. 2018 Oct 17;6(11):2266-2270. (筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川　佳孝
33	論文発表 Disaster Med Public Health Prep. Successful Renovation of a Closed School Into a Long-Term Care Facility in the Affected Area After the 2011 Fukushima Disaster. Epub 2018 Oct 11(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川　佳孝
34	論文発表 Oxf Med Case Reports.Long-term vulnerability of access to hemodialysis facilities in repopulated areas after the Fukushima Nuclear Disaster: a case report. 2018 Jul 19(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川　佳孝
35	論文発表 Nature. Age-related remodelling of oesophageal epithelia by mutated cancer drivers. 2019 Jan;565(7739):312-317. (共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川　佳孝
36	論文発表 J Med Case Rep. Secondary aortoenteric fistula possibly associated with continuous physical stimulation: a case report and review of the literature. 2019 Mar 15;13(1):61. (共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川　佳孝
37	論文発表 PLoS One.Twitter use in scientific communication revealed by visualization of information spreading by influencers within half a year after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident. 2018 Sep 7;13(9):e0203594.(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川　佳孝
38	論文発表 Medicine (Baltimore). A model-based estimation of inter-prefectural migration of physicians within Japan and associated factors: A 20-year retrospective study. 2018 Jun;97(22):e10878. (共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川　佳孝

39	論文発表 J Radiat Res. The Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident and school bullying of affected children and adolescents: the need for continuous radiation education. 2018 May 1（共著発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川 佳孝
40	論文発表 QJM. Lanthanum deposition in the gastric mucosa in a patient undergoing hemodialysis. 2018 May 1（共著発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川 佳孝
41	論文発表 「Intern Med.」「 Readministration of Nivolumab after Persistent Immune-related Colitis in a Patient with Recurrent Melanoma.」「 2018/4/15」（共著発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川 佳孝
42	論文発表 「Molecular and Clinical Oncology」「Malignant psoas syndrome associated with gynecological malignancy: three case reports and a review of the literature」「2018/6/1」	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松 士朗
43	論文発表 「Molecular and clinical oncology」「Invasive Paget disease of the vulva treated with combination therapy of surgery and concurrent chemo-radiotherapy: a case report」「2018/9」（共著発表）	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
44	論文発表 Mikami T,Kato I,Umeda K Kamitori T,Tasaka K,Ogata H,Hiramatsu H,Adachi S.Sudden spinal hemorrhage in a pediatric case with total body irradiation-induced cavernous hemangioma.Pediatr Blood Cancer. 65(10):e27250.2018.（共著発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
45	論文発表 Umeda K,Kato I,Kawaguchi K,Tasaka K,Kamitori T,Ogata H,Mikami T,Hiramatsu H,Adachi S.High incidence of BK virus-associated hemorrhagic cystitis in children after second or third allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.Pediatr Transplant.22(4):e13183.2018.（共著発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
46	論文発表 Kamitori T,Umeda K,Tasaka K,Ogata H,Mikami T,Kato I,Hiramatsu H,Adachi S.Chronic myeloid leukemia following treatment for bilateral retinoblastoma.Pediatr Blood Cancer.65(9):e27107.2018.	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
47	論文発表 「Radiation Oncology」「The impact of age on the risk of ipsilateral breast tumor recurrence after breast-conserving the･rapy in early breast cancer patients with negative surgical margin treated without boost irradiation」「現在Minor Revise中」（筆頭発表）	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野 幸果
48	論文発表 Cancer Management and Research, "Long-term outcome of definitive radiotherapy for cervical esophageal squamous cell carcinoma."「2019/4」（共著発表）	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	藤井 康太
49	論文発表 Surg Case Rep, Portal vein aneurysm associated with arterioportal fistula after hepatic anterior segmentectomy: Thought-provoking complication after hepatectomy. 2018 Jun 15;4(1):57（筆頭発表）	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	木村 有佑
50	論文発表 Surg Case Rep Acute appendicitis caused by metastatic adenocarcinoma from the lung: a case report. 2018 Jun 15;4(1):59（筆頭発表）	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	木村 有佑
51	論文発表 「Cancer Medicine」「A multicenter phase II trial of neoadjuvant letrozole plus low-dose cyclophosphamide in postmenopausal patients with estrogen receptor-positive breast cancer (JBCRG-07): therapeutic efficacy and clinical implications of circulating endothelial cells」「2018/4」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中 直
52	論文発表 「Abdominal Radiology.」「 Duodenal obstruction induced by retroperitoneal progression of bladder cancer: a report of two cases.」「2019/1」（筆頭発表）	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
53	論文発表 「International Cancer Conference Journal」「A cadaveric demonstration of visualization of the urethra using a lighted stent during transanal intersphincteric resection」「2018」（共著発表）	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	中村 達郎
54	論文発表 「Cochrane Database of Systematic Reviews.」「 Roux-en-Y versus Billroth-I reconstruction after distal gastrectomy for gastric cancer. 」「2018/4」（筆頭発表）	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎 大輔
55	論文発表 「Complementary Therapies in Medicine. 」「Rikkunshito for upper gastrointestinal symptoms: A systematic review and meta-analysis. 」「2019/2」（共著発表）	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎 大輔
56	論文発表 「The American Surgeon」「Clinical practice of postoperative adjuvant chemotherapy in patients with colorectal liver metastases: impact of the completion for six months」「2019/2」（筆頭発表）	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野 裕人
57	論文発表 「Radiation Oncology」「Quality assurance of non-coplanar,volumetric-modulated arc therapy employing a C-arm linear accelerator,featuring continuous patient couch rotation」「2019/3/26」(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島 英明

【三重大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	[PD-L1] Breast cancer, locally advanced「expression on circulating monocytes in patients with breast cancer」ESMO Asia Congress (2018.11.23-25 Singapore)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
2	Laparoscopic para-aortic lymph node dissection through a retroperitoneal approach in a patient with recurrent cervical cancer 17th IGCS	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	吉田　健太

【滋賀医科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	平成30年4月　Identification of URST1 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for various subtypes of breast cancer. AACR Annual Meetings　2018 シカゴ、IL、USA　筆頭	先進的がん医療開発と 個別化医療を担う 医療従事者養成コース	青田　正子
2	ESMO 2018 Congress, October 20, 2018 (Munich, Germany) Satoshi Dote, Kaori Ito, Shoji Itakura, Takeo Yasu, Daiki Hira, Satoshi Noda, Shigeki Yamada, Yuka Kobayashi, Tomohiro Terada; Impact of prior bortezomib therapy on the incidence of lenalidomide-induced skin rash in multiple myeloma: A propensity score-matched multi-institutional cohort study. (筆頭著者)	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース	土手　賢史
3	Impact of prior bortezomib therapy on the incidence of lenalidomide-induced skin rash in multiple myeloma: a propensity score-matched multi-institutional cohort study. Dote S, Ito K, Itakura S, Yasu T, Hira D, Noda S, Yamada S, Kobayashi Y, Terada T. Leuk Lymphoma. 2019 May 3:1-7. (筆頭著者)	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース	土手　賢史
4	Oral mucositis associated with anti-EGFR therapy in colorectal cancer: single institutional retrospective cohort study.　Dote S, Itakura S, Kamei K, Hira D, Noda S, Kobayashi Y, Terada T.　BMC Cancer. 2018 Oct 5;18(1):957.(筆頭著者)	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース	土手　賢史
5	IHPBA、CT attenuation ratio of pancreatic parenchyma predict postoperative pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy、2018.9 Kansai-Yeungnam HBP Surgeons Joint Meeting、Diversities and clinical roles of cancer-associated fibroblasts in the stroma of pancreatic ductal adenocarcinoma、2019.3	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う 医療従事者養成コース	前平　博充
6	Pancreas、Computed tomography enhancement pattern of the pancreatic parenchyma predicts postoperative pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy、2019;48:209-215	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う 医療従事者養成コース	前平　博充
7	・American Jornal of Case Reports, Which Therapeutic Option Is Optimal for Surgery-Related Perineal Hernia After Abdominoperineal Excision in Patients with Advanced Rectal Cancer? A Report of 3 Thought-Provoking Cases. 2018年6月, 筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う 医療従事者養成コース	安川　大貴
8	American Jornal of Case Reports, Internal Hernia Associated with Colostomy After Laparoscopic Surgery for Rectal Malignancy: A Report of 3 Thought-Provoking Cases. 2018年12月, 筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う 医療従事者養成コース	安川　大貴
9	Asian Journal Of Endoscopic Surgery, Safety and feasibility of laparoscopic gastrectomy accompanied by D1+ lymph node dissection for early gastric cancer in elderly patients. 2019, 1月, 筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う 医療従事者養成コース	安川　大貴
10	Surgical Endoscopy, Trans-perineal minimally invasive surgery during laparoscopic abdominoperineal resection for low rectal cancer.2019年2月,筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う 医療従事者養成コース	安川　大貴
11	Iida H, Shimizu T, Maehira H, Kitamura N, **Mori H**, Miyake T, Kaida S, Tani M. A pilot study: The association between physical activity level using by accelerometer and postoperative complications after hepatic resection.　Exp Ther Med　2018.12	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う 医療従事者養成コース	森　治樹
12	Mori H, Iida H, Maehira H, Tani M. Aberrant Right Posterior Hepatic Duct. Intern Med. 2018 Oct	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う 医療従事者養成コース	森　治樹
13	[Primary Author] Annals nutrition and metabolism, Low body mass index and myeloablative conditioning regimen prolong the duration of parenteral nutrition during hematopoietic stem cell transplantation.(2019.1).	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース	神谷　貴樹

【大阪医科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	「2018 Gastrointestinal Cancers Symposium (ASCO-GI)(January 17-19, 2019):A dose-finding study for irinotecan, cisplatin, and S-1 (IPS) in patients with advanced gastric cancer (OGSG 1106):2019.1.17～1.19:筆頭発表」	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	由上　博喜
2	「Asia Pac J Clin Oncol.:Impact of modified FOLFOX-6 for patients with gastric cancer and a gastrointestinal obstruction. 2018 Dec 13」	ライフスエージに応じた化学療法専門医養成コース	由上　博喜

3	1. Maeda K,Terai Y, Terada S, Maruoka H, Kogata Y, Ashihara K, Tanaka Y, Tanaka T,Sasaki H,Tsunetoh S,Yamada T,Ohmichi M.A case of ovarian clear cell carcinoma arising from ovarian mature cystic teratoma.J ovarian Res.2018;11:74	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医従事者養成コース	丸岡　寛
4	ESUR2018、The diagnostic value of MR imaging in predicting muscle invasion of bladder cancer: 3D-FRFSE with oblique-plane versus conventional T2WI three-plane sequence、2018年9月16日	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	東山　央
5	Meckel's and its mimics:CT　images revised　: European Society of Gastrointestinal and Abdomonal Radiology（ESGAR 2018）	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	田中　義和
6	ASCO-GI 2019年1月　筆頭　ポスター The hyperprogressive disease during nivolumab treatment or irinotecan treatment in patients with advanced gastric cancer	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	青木雅彦
7	Digestive Disease Week　(Washington DC)2018.6/5　Clinical impact of　recombinant soluble thrombomodulin for disseminated intravascular coagulation associated with severe acute cholangitis	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田篤
8	Gut and Liver , 2018.7 , 筆頭発表, Clinical Impact of Recombinant Soluble Thrombomodulin for Disseminated Intravascular Coagulation Associated with Severe Acute Cholangitis	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田篤
9	Annals of Nuclear Medicine、Detectability of residual invasive bladder cancer in delayed 18F-FDG PET imaging with oral hydration using 500 mL of water and voiding-refilling、32(8):　561-567, 2018 Oct、Akira Higashiyama, Tsuyoshi Komori, Hiroshi Juri, Yuki Inada, Haruhito Azuma, Yoshifumi Narumi	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	東山　央

【京都薬科大学】

NO.	取　組　状　況　等	所属コース	氏名
1	学会等発表 Irradiation increased mRNA transcripts of hematopoiesis-related molecules in bone marrow-derived mesenchymal stem cells. The 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology, (Kyoto, Japan), 2018.7.1-6.（筆頭発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利　圭悟
2	学会等発表 The expression levels of PD-L1 in cancer cells affect γδT cell cytotoxicity. The 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology. (Kyoto, Japan), 2018.7.1-6.　（共著発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利　圭悟
3	学会等発表 The 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology, The expression levels of PD-L1 in cancer cells affect γδT cell cytotoxicity., 2018.7.1-6.（筆頭発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
4	学会等発表 The 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology, Irradiation increased mRNA transcripts of hematopoiesis-related molecules in bone marrow-derived mesenchymal stem cells., 2018.7.1-6.（共著発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
5	学会等発表 121th American Urological Association Annual Meeting, Development of intravesical human γδT cell based chemo-immunotherapy against urinary bladder cancer cells in an orthotopic xenograft model.2018.5.18-21（共著発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
6	学会等発表 American Association for Cancer Research Annual Meeting 2019,　Low dose gemcitabine increases the sensitivity of human Vgamma9Vdelta2T cell mediated cytotoxicity through NKG2D-NKG2D ligands axis in bladder cancer cells., 2019.3.29-4.3（共著発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光

資料 11

国内学会、雑誌等への発表一覧

【京都大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	学会等発表 「京都府生命のがん教育プロジェクト」「生命のがん教育授業」「2018年11月1日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
2	学会等発表 「大鵬薬品工業株式会社SRP研究成果報告会」「発育鶏卵を用いた新規in vivo薬剤評価系モデルの開発」「2018年11月7日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
3	学会等発表 「第77回日本癌学会学術総会」「膵再生と膵発癌におけるEsetの役割(The functional role of Eset in exocrine pancreatic regeneration and pancreatic cancer initiation)」「2018年9月28日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
4	学会等発表 「第77回日本癌学会学術総会」「Functional analysis of a rare HER2 variant (G776S) identified by clinical NGS in a colorectal cancer patient.」「2018年5月」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	三谷　洋介
5	学会等発表 「第77回日本癌学会学術総会」「Prognostic impact of POLE mutation in colorectal cancer」「2018年9月27日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	井上　善景
6	学会等発表 「第70回日本産婦人科学会」「Clinical Features of High-grade Neuroendcrine Carcinoma of the Uterine Cervix: a single institute retrospective review」「2018年5月11日」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子
7	学会等発表 「第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会」「高度な肥満を合併した子宮体癌患者に対する周術期リスク低減を目的とした術前減量入院の有効性の検討」「2018年8月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
8	学会等発表 「第37回京都がん研究会」「卵巣癌のB7-H3発現は骨髄由来免疫抑制細胞の腫瘍浸潤を促進する」、「2019年3月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
9	学会等発表 「第70回　日本産科婦人科学会学術講演会」「CD141+ Dendritic cells in ovarian cancer microenvironment」「2018年5月10～12日」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	水野　林
10	学会等発表 「日本癌学会学術集会」「Establishment of an immunocompetent mouse endometrial canccer model of Uterin a Serous Carcinoma(USC)」「2018年9月27日～29日」(共著発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	三瀬　有香
11	学会等発表 「第70回日本産科婦人科学会　学術講演会」「The malicious role of immuse-reaction in Uterine Serous carcinoma」「2018年5月10～13日」(共著発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	三瀬　有香
12	学会等発表 「第70回日本産婦人科学会」「The clinical significance of tertiary lymphoid structures (TLS) and tumor infiltrating B cells in ovarian cancer」「2018年5月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田 真沙世
13	学会等発表 「第45回内藤コンファレンス」「Chimeric antigen receptor T (CAR-T) cell therapy with intrinsic PD-1 blocking for ovarian cancer」「2018年6月」(筆頭演者)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田 真沙世
14	学会等発表 「第77回日本癌学会」「Chimeric antigen receptor T (CAR-T) cell therapy with intrinsic PD-1 blocking for ovarian cancer 」「2018年9月」(筆頭演者)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田 真沙世
15	学会等発表 「第4回産科婦人科遺伝診療学会」「婦人科腫瘍における網羅的遺伝子変異解析検査(OncoPrime)の運用の実績」「2018年12月」(筆頭演者)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田 真沙世
16	学会等発表 「第121回日本小児科学会学術集会」「血小板増多症を併発した一過性骨髄増殖症の新生児の一例」「2018年4月」(共著発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
17	学会等発表 「第66回同種移植問題症例を考える会」、「CBT後生着不全に対しハプロ移植を施行後，肝慢性GVHDのコントロールに難渋しているCAEBVの一例」、「2018年4月27日」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉

18	学会等発表 「第15回BLOOD MASTER」、「FLT3-ITDおよびt(6;9)(p22;q34)を伴う小児AMLの一例」、「2018年8月4日」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
19	学会等発表 「第41回近畿小児血液・がん研究会」、「生着不全に対するHLA半合致骨髄移植後に重症遅発型急性GVHDを発症した慢性活動性EBウイルス感染症の一例」、「2019年2月16日」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
20	学会等発表 「第60回　小児血液がん学会学術集会」「著明な髄腔内脂肪蓄積を合併した 頭蓋内growing teratoma syndromeの1例」「2018年11月14日」	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田坂　佳資
21	学会等発表 「第41回　造血細胞移植学会」「TKI併用化学療法中に再発し 骨髄移植を施行したPh+ALL 2症例」「2019年3月8日」	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田坂　佳資
22	学会等発表 「第24回日本遺伝子細胞治療学会学術集会」「 PiggyBac CD19 CAR T cells eradicate CNS leukemia by direct delivery into cerebral ventricle of xenograft mice model.」「2018年7月26日」 (筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中　邦昭
23	学会等発表 「第60回日本小児血液・がん学会学術集会」「iggyBac CD19 CAR-T cells eradicate CNS-ALL by direct delivery into cerebral ventricle of xenograft mice model without sever neurotoxic complications.」「2018年11月16日」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中　邦昭
24	学会等発表 「第32回日本放射線腫瘍学会高精度外部照射学術大会」「多発脳転移に対するKnowledge-based planningの臨床的有用性」「2019年3月2日」(共著発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
25	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会 第31回学術大会」「再発神経膠腫に対する救済定位放射線治療の予後因子解析」「2018年10月11日」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	竹花　恵一
26	学会等発表 「第26回日本乳癌学会学術総会」「乳房温存手術後断端陰性例に対する腫瘍床ブースト照射の必要な症例について」「2018年5月16日」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
27	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第31回学術大会」「胸部食道扁平上皮癌に対する放射線治療が胸椎骨折発生に与える影響」「2018年10月」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	藤井　康太
28	学会等発表 「第25回日本乳癌学会各術総会」 「ホルモン補充療法中のTurner症候群に発症した乳癌の一例」 「2018年5月18日」	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	波々伯部 絵理
29	学会等発表 日本乳癌学会総会口演筆頭発表、地方会口演筆頭発表	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子
30	学会等発表 「第22回日本がん分子標的治療学会」「トリプルネガティブ乳癌細胞で微小管重合阻害剤Eribulinに発現誘導されるEpCAMによる薬剤耐性」「2018年5月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中　直
31	学会等発表 「第77回日本癌学会学術総会」「インテグリンα6保存残基を含むペプチドによる乳癌細胞の転移阻害」「2018年9月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中　直
32	学会等発表 「腹部放射線学会」「Duodenal obstruction induced by retroperitoneal progression of the bladder cancer: report of two cases」「2018年5月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
33	学会等発表 「腹部放射線学会」「出血性肝嚢胞に伴って認められた濃染壁在結節の検討」「2018年5月」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
34	学会等発表 「腹部放射線学会」「膵放線菌症の1例」「2018年5月」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
35	学会等発表 「第118回日本外科学会学術集会」「H2、H3大腸癌肝転移症例に対する化学療法後の根治的肝切除の意義」「2018年4月7日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
36	学会等発表 「日本質量分析学会・日本プロテオーム学会2018年合同大会」「オキサリプラチン誘導性肝障害ブタモデルを使用した肝組織における金属元素の質量分析イメージング」「2018年5月16日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜

37	学会等発表 「第54回日本肝臓学会総会」「切除不能大腸癌肝転移に対するセツキシマブまたはベバシズマブ併用mFOLFOX6療法の検討（BECK試験）におけるconversion症例の長期予後」「2018年6月14日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
38	学会等発表 「第73回日本消化器外科学会総会」「Role of laparoscopic liver resection in multidisciplinary treatment for resectable colorectal liver metastases」「2018年7月13日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
39	学会等発表 「第12回肝臓内視鏡外科研究会」「大腸癌肝転移に対する腹腔鏡下肝部分切除術の有用性について」「2018年11月21日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
40	学会等発表 「第31回日本内視鏡外科学会総会」「大腸癌肝転移に対する 腹腔鏡下肝切除の切除margin および予後への影響の検討」「2018年12月8日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
41	学会等発表 「第118回日本外科学会総会」「術前MRI所見に基づく直腸癌治療への提言 -1500例の下部進行直腸癌コホートから-」「2018年4月6日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
42	学会等発表 「第118回日本外科学会総会」「医師支援制度のあり方について　一人の外科医、そして母親として」「2018年4月6日」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
43	学会等発表 「第89回大腸癌研究会」「T1直腸癌に対する局所切除後の追加治療を最適化するために」「2018年7月6日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
44	学会等発表 「第73回日本消化器外科学会総会」「下部直腸癌に対する最適なアプローチ法 下部進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術の有用性　多施設共同1500例の報告から」「2018年7月」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
45	学会等発表 「第56回日本癌治療学会総会」「下部進行直腸癌に対する腹腔鏡手術と開腹手術　長期予後の分析」「2018年10月」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
46	学会等発表 「第31回日本内視鏡外科学会総会」「下部進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術　長期予後」「2018年12月」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
47	学会等発表 「第90回大腸癌研究会」「局所切除後T1直腸癌の追加治療においてSM1000μm以深浸潤の重要性を再考する」「2019年1月25日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
48	学会等発表 「第77回日本医学放射線学会総会」「Quantitative analysis of a newly-developed mobile PET scanner according to three different layouts of detectors.」「2018年4月12日～2018年4月15日」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	渡部　正雄
49	学会等発表 「第58回日本核医学会学術総会」「Non Local Means (NLM) 再構成法による可搬型PET装置の病変検出率および定量値の検討 (Detectability and quantitative values in a mobile PET scanner using NLM algorithm)」「2018年11月15日～2018年11月17日」	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	渡部　正雄
50	学会等発表 「日本外科学会」「インドシアニングリーン蛍光画像のプロジェクションマッピングによるリアルタイムナビゲーション肝切除術 ーMedical Imaging Projection Systemの開発ー」「2018年4月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
51	学会等発表 「日本消化器外科学会」「ICG蛍光法によるリアルタイムナビゲーション肝切除 ～開腹手術と腹腔鏡手術の相乗効果を目指して～」「2018年7月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
52	学会等発表 「JDDW2018」「生体内蛍光イメージングをプロジェクションマッピングする新規医療機器で実現するリアルタイムナビゲーション肝切除」「2018年11月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
53	学会等発表 「第47回京都放射線腫瘍研究会」「肺SBRT施行前の診断用CTから抽出された画像特徴量に基づく予後予測：後方視的単施設研究」「2019年3月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野　涼
54	学会等発表 「第37回京都がん研究会」「肺SBRT施行前の診断用CTから抽出された画像特徴量に基づく予後予測：後方視的単施設研究」「2019年3月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野　涼
55	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第31回学術大会」「カウチ同時駆動型回転照射の精度検証」「2018/10/12」(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島　英明

56	学会等発表 「第115回医学物理学会学術大会」,「Realization of non-coplanar VMAT with continuous couch rotation on L-shaped treatment machines」,「2018/4/14」(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島 英明
57	論文発表 「日本産科婦人科内視鏡学会雑誌」「肥満合併子宮体癌患者に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の後方視的検討」「2018年12月」、共著発表	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
58	論文発表 「日本小児血液・がん学会雑誌.55(3)329-332.2018.」「無症候性の膝窩静脈内腫瘍塞栓を認めた左脛骨原発骨肉腫の一例」(共著発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
59	論文発表 「日本小児血液・がん学会雑誌」「小児固形腫瘍生存者の内分泌障害に影響する因子についての検討」「2018年7月31日.」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中 邦昭
60	論文発表 「日本小児血液・がん学会雑誌」「少量doxorubicin 投与後に重度心不全を発症した腎芽腫の1 女児例.」「2018年10月27日」(共著発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中 邦昭
61	論文発表 「臨床雑誌 外科」「The infracardiac bursa(心臓下包)-取り残された網嚢腔」「2018年4月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	中村 達郎

【三重大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	学会発表 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2018 「ナルデメジン投与後の下痢発現に対する危険因子探索に関するコホート研究」 2018年11月4日 (筆頭演者)	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本 明大
2	学会発表 第80回日本血液学会学術集会 先天性第X因子欠乏症のPPSB-HTによる長期止血管理症例 2018年10月13日 (筆頭発表)	ライフステージに応じた 集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	片山 春奈
3	学会発表 第80回日本血液学会学術集会 骨髄系異形成を伴ったLGL白血病 2018年10月13日 (筆頭発表)	ライフステージに応じた 集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	永春 圭規
4	学会発表 第80回日本血液学会学術集会 2回目の同種臍帯血移植後再発MDS症例におけるNGSを用いたHLAキメリズム解析 2018年10月14日 (共著発表)	ライフステージに応じた 集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	永春 圭規
5	学会発表 第80回日本血液学会学術集会 MPNにおける遺伝子異常予測についてNAPスコアの臨床的有用性について 2018年10月12日 (共著発表)	ライフステージに応じた 集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	永春 圭規
6	学会発表 第80回日本血液学会学術集会 消化管間質腫瘍に対しイマチニブ投与中に発症したMLL-ENL有する急性リンパ芽球性白血病の一例 2018年10月12日 (共著発表)	ライフステージに応じた 集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	山口 貴則
7	学会発表 第80回日本血液学会学術集会 骨髄異形成症候群の診断後に同クローン由来のPhiladelphia染色体陽性白血病を発症した一例 2018年10月13日 (共著発表)	ライフステージに応じた 集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	山口 貴則
8	学会発表 第80回日本血液学会学術集会 胃原発monomorphic epitheliotropic intestinal T－cell lymphomaの剖検例 2018年10月13日 (共著発表)	ライフステージに応じた 集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	蜂矢 健介
9	論文発表 臨床血液 2018年8月 セフメタゾールが原因と特定できた薬剤性溶血性貧血 (共著発表)	ライフステージに応じた 集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	片山 春奈
10	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「原発性乳癌の性質および進行度と腫瘍浸潤リンパ球(TIL)の関係の検討」 2018年5月16-18日 (筆頭演者)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野 真由子
11	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「乳腺外科医がbreast inmplant入れ替えに関わって見えてきたtissue expander挿入時の留意点」 2018年5月16-18日 (共同演者)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野 真由子
12	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「乳房温存手術における断端陽性時の局所治療の選択」 2018年5月16-18日 (共同演者)	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野 真由子

13	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「浸潤性小葉癌における術前診断の正確性とセンチネルリンパ節転移陽性で郭清省略を行う妥当性の検討」 2018年5月16-18日 （共同演者）	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
14	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「Pertuzumab、Trastuzumabを用いたHER2妖精乳癌の術前治療における腫瘍浸潤リンパ球(TILs)の有用性の検討」 2018年5月16-18日 （共同演者）	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
15	学会等発表 日本乳癌学会学術総会 「Pertuzumab、Trastuzumabを用いたHER2妖精乳癌の術前治療における腫瘍浸潤リンパ球(TILs)の有用性の検討」 2018年5月16-18日 （共同演者）	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
16	学会等発表 三重外科集談会 「2nd look USで両側同時乳癌と診断し、対称性を考慮した両側乳房温存療法で良好な整容性を得られた一例」 2018年6月17日 （共同演者）	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
17	学会等発表 日本乳癌学会中部地方会 「2回の手術を有効に利用し、良好な整容性が得られた人工物による一次二期乳房再建の1例」 2018年9月8-9日 （共同演者）	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
18	学会等発表 日本乳癌学会中部地方会 「術前検査では診断困難であった広範なリンパ節転移を伴う浸潤性小葉癌の一例」 2018年9月8-9日 （共同演者）	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
19	学会等発表 日本乳癌学会中部地方会 「多職種連携によって、妊孕性温存や患者の治療意欲向上へつなげることができた若年性StageIIIA乳癌の1例」 2018年9月8-9日 （共同演者）	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
20	学会等発表 東海外科学会 「胸骨筋の存在により切除が容易となった乳癌の一例」 2018年10月14日 （共同演者）	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
21	学会等発表 三重外科集談会 「Modified round block techniqueを用いて乳房形成を行った若年良性葉状腫瘍の1例」 2018年12月15日 （共同演者）	ライフステージに応じた 乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
22	学会等発表 第70回日本産科婦人科学会 腫瘍径10cmの子宮頸癌合併妊娠にCCRTを施行した1例　2018年5月13日	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	吉田　健太
23	学会発表 第31回日本放射線腫瘍学会 下咽頭癌の予後予測における放射線治療中のFDG PET/CTの有用性の検討　2018年10月12日	ライフステージに応じた 放射線治療・集学的診療を 実践する人材養成コース	間瀬　貴充
24	学会等発表 急性心不全で発症したが内科的治療で症状軽減した僧帽弁腱索断裂疑いの乳児例；第125回東海小児循環器談話会　2018年4月7日（共著発表）	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋
25	学会等発表 先天性表皮水疱症の一例；第398回中勢地区小児臨床懇話会　2018年5月24日（筆頭発表）	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋
26	学会等発表 新規の心雑音、急性心不全で発見され、経過中に手術適応から外れた乳児特発性僧帽弁腱索断裂の一例；第56回三重小児循環器談話会　2018年6月7日（筆頭発表）	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋
27	学会等発表 皮疹、血小板減少を認め、myeloid sarcomaが疑われた乳児の1例；第76回東海小児血液懇話会 2018年6月12日（筆頭発表）	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	学会発表 「日本内視鏡外科学会」、「高齢大腸癌患者に対する腹腔鏡手術の有用性に関する検討」、「2018年12月7日」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	安川　大貴
2	学会発表 「日本静脈栄養学会」、「膵頭十二指腸切除術前の胆道ドレナージによる栄養状態の変化と術後感染性合併症の検討」、「2019年2月14日」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	安川　大貴
3	学会発表 [共著発表]「第40回日本疼痛学会」,「薬物代謝酵素の遺伝子多型測定に基づくトラマドールの個別化投与設計」,「2018.6」	ゲノム情報に基づく 個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース	神谷　貴樹

4	学会発表 「第35回滋賀医科大学シンポジウム」「乳がんの新規予後バイオマーカーおよび治療標的分子としてのURST1の機能解析」「平成30年12月10日」筆頭	先進的がん医療開発と 個別化医療を担う 医療従事者養成コース	青田　正子
5	学会発表 「第16回日本臨床腫瘍学会」「Identification of URST1 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for various subtypes of cancer」「平成30年7月」　筆頭	先進的がん医療開発と 個別化医療を担う 医療従事者養成コース	青田　正子
6	学会発表 「京滋NET academy」、「早期にリンパ節再発をきたした膵神経内分泌腫瘍の1例」、「2018.6」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
7	学会発表 「日本外科学会学術集会」、「膵実質造影パターンの定量化による膵頭十二指腸切除術後膵液瘻予測の可能性」、「2018.4」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
8	学会発表 「日本肝胆膵外科学会学術集会」、「The relationship of the staple cartridge for pancreatic dissection and postoperative pancreatic fistula after distal pancreatectomy」、「2018.6」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
9	学会発表 「日本癌治療学会学術集会」、「Clinical significance of αSMA expression of the tumor stroma in pancreatic cancer」、「2018.10」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
10	学会発表 「日本消化器外科学会学術集会」、「膵実質CT値比率と膵頭十二指腸切除術後膵液瘻との関連性の検討」、「2018.7」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
11	学会発表 滋賀肝胆膵勉強会、膵嚢胞性病変の1例、2019.2	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
12	学会発表 「滋賀消化器病研究会」、「当科におけるBR-AおよびUR膵癌切除例の現状」、「2019.2」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
13	学会発表 「日本膵切研究会」、「膵体尾部切除における至適ステープラカートリッジの選択」、「2018.8」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
14	学会発表 「日本膵臓学会学術集会」、「膵体尾部切除におけるステープル高と術後膵液瘻との関連性」、「2018.7」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
15	学会発表 「日本内視鏡外科学会学術集会」、「高度肥満症例に対して腹腔鏡下脾温存膵尾側切除（Warshaw手術）を施行した膵神経内分泌腫瘍の1例」、「2018.12」	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
16	平成30年10月第63回日本人類遺伝学会　横浜市　Characterization of URST1 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancer　.筆頭	先進的がん医療開発と 個別化医療を担う 医療従事者養成コース	青田　正子
17	平成30年9月　URST1 is a novel prognostic biomarker and therapeutic target for breast cancers.第77回日本癌学会　大阪市　.筆頭　インターナショナルセッション	先進的がん医療開発と 個別化医療を担う 医療従事者養成コース	青田　正子

【大阪医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	産婦人科の進歩 卵巣境界悪性腫瘍合併妊娠に対し腹腔鏡併用下に手術を施行した2例 寺田 信一 恒遠 啓示, 宮本 瞬輔, 古形 祐平, 田中 良道, 田中 智人, 寺井 義人, 大道 正英	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
2	丸岡 寛, 佐々木 浩, 大瀧 瑠璃, 田中 サキ, 多賀 紗也香,古形　祐平, 藤原 聡枝, 田中 智人, 田中 良道,恒遠 啓示,寺井 義人,大道 正英.内臓脂肪と子宮体癌の臨床病理学的特徴の関係. 第33回日本女性医学学会学術集会（岐阜：2018年11月）	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
3	丸岡 寛, 田中 良道, 寺田 信一, 古形 信一, 藤原 聡枝, 田中 智人, 恒遠 啓示,佐々木 浩, 寺井 義人, 大道 正英. 当院におけるHBOC診療体制の現況. 第139回近畿産科婦人科学会学術集会 第104回腫瘍研究部会（大阪：2018年10月）	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
4	丸岡 寛, 田中 良道, 宮本 瞬輔, 寺田 信一, 古形 祐平, 藤原 聡枝, 田中 智人, 佐々木 浩, 恒遠 啓示, 寺井 義人, 大道 正英.化学療法無効の子宮内膜間質肉腫（high grade）に対してパゾパニブが効果を示した1例. 第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会（京都：2018年9月）	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛

5	丸岡 寛, 上田 尚子, 宮本 瞬輔, 小西 博巳, 村山 結美, 多賀 紗也香, 古形 祐平, 藤原 聡枝, 田中智人, 佐々木 浩, 恒遠 啓示, 寺井 義人, 大道 正英. 腹腔鏡下手術で診断された卵巣原発偽粘液腫の1例. 第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術(島根:2018年8月)	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
6	丸岡 寛, 藤原 聡枝, 寺田 信一, 中村 奈津穂, 古形 祐平, 前田 和也, 田中 良道, 田中 智人, 佐々木 浩, 恒遠 啓示, 寺井 義人, 大道 正英.70歳以上の高齢者における腹腔鏡下手術の安全性の検討.第70回日本産科婦人科学会学術講演会(広島:2018年5月)	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
7	「第15回日本臨床腫瘍学会学術集会:Combination chemotherapy of S-1, oxaliplatin and irinotecan (TIROX) for unresectable gastric cancer; a phase I study:2018/7/19:筆頭発表」	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	由上　博喜
8	「日本高齢消化器病学会:切除不能進行・再発胃癌に対してmFOLFOX6療法を施行した12例についての検討:2018/8/4:筆頭発表」	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	由上　博喜
9	胃癌学会3月　筆頭　口頭 胃癌に対するニボルマブおよびイリノテカン療法におけるHyperprogressive diseaseの比較	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	青木雅彦
10	第95回日本消化器内視鏡学会総会　2018.5.11 Electrohydraulic lithotripsy for difficult bile duct stones under single-operator cholangioscope guidance	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤

【京都薬科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	学会等発表 骨髄破壊的な前処置は間葉系幹細胞において造血関連分子の発現を増加させる. 第80回日本血液学会学術集会. (大阪), 2018.10.12-14. (筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利　圭悟
2	学会等発表 第80回日本血液学会学術集会, 骨髄破壊的な前処置は間葉系幹細胞において造血関連分子の発現を増加させる., 2018.10.12-14 (共著発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
3	学会等発表 The 77th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Development of Vγ9Vδ2T cell based chemo-immunotherapy in bladder cancer., 2018.9.27-29. (共著発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
4	学会等発表 第22回日本がん免疫学会総会, Development of intravesical human γδT based chemo-immunotherapy against urinary bladder cancer in vitro and in vivo., 2018.8.1-3. (共著発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
5	学会等発表 第106回日本泌尿器科学会総会, Combined use of standard anticancer agents increases the cytotoxicity of human γδT cell in in vitro and in vivo in bladder cancer., 2018.4.19-22. (共著発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
6	学会等発表 第2回国際がん研究シンポジウム, The relationship between anti-tumor activity of γδT cells and PD-1/PD-L1 axis for γδT cell immunotherapy., 2019.2.2-3. (筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光

資料 12

海外学会･シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	海外学会･シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	30年9月4日～30年9月7日、第5回国際組織工学･再生医療学会世界会議参加、京都市	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
2	31年3月31日～31年4月4日、AACR annual meeting 2019参加、アメリカ合衆国ジョージア州アトランタ	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
3	30年5月15日～30年5月17日、Annual Global Academic Programs Conference 2018参加、Stockholm, Sweden	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	三谷　洋介
4	30年4月14日～30年4月19日、アメリカ癌学会参加、アメリカ合衆国ワシントンDC	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	井上　善景
5	30年9月14日～30年9月16日、17th International Gynecologic Cancer Society参加、京都市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子
6	30年9月14～16日、17th BIENNIAL MEETING OF THE INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY 参加、京都市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	水野　林
7	30年9月14～16日、17th BIENNIAL MEETING OF THE INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY 参加、京都市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	水野　林
8	30年4月14～18日、AACR annual meeting 2018参加、米国　シカゴ	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
9	30年9月14日～16日、17th International Gynecologic Cancer Society参加、京都市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
10	30年11月16日、SIOP 2018参加、日本、京都市	小児とAYA世代のがんの新規診断･治療法開発を目指す医療人養成コース	三上　貴司
11	30年11月30日～12月4日、The 60th ASH Annual Meeting & Exposition参加、アメリカ合衆国、サンディエゴ市	小児とAYA世代のがんの新規診断･治療法開発を目指す医療人養成コース	田坂　佳資
12	30年4月20日～24日　ESTRO 37th meeting参加、バルセロナ、スペイン	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
13	30年10月29日～11月1日、International Congress on Neutron Capture Therapy 2018 参加、台湾台北	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	武野　慧
14	30年9月6日～30年9月8日、3rd FARO meeting参加、インドネシア国バリ	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
15	30年12月6日～30年12月10日　ESTRO meets Asia 2018参加、シンガポール国	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
16	31年3月19日～31年3月25日、St Gallen International Breast cancer conference参加、オーストリア　ウィーン	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
17	31年3月22日～29日、Predictive models in external beam radiation therapy 4th edition 研究会参加, イタリア･ナポリ	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	藤井　康太
18	30年5月18日～19日、Kyoto Breast Cnacer Consensus Conference 2018参加、京都府京都市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	波々伯部 絵理

19	30年12月3日～31年12月10日、SAN ANTONIO BREAST CANCER SYMPOSIUM 参加、米国テキサス	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中　直
20	30年6月16～21日、ISMRM（国際磁気共鳴医学会）2018参加、フランス国パリ市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
21	30年9月22～25日、CIRSE（欧州IVR学会）2018参加、ポルトガル国リスボン市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
22	30年5月26日～30年5月27日、8th International Forum of Liver Surgery Japanese-German Society for the Study of Liver Surgery 参加、Graz（Austria）	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
23	30年6月7日～30年6月9日、The 30th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery、The treatment strategy for resectable synchronous colorectal liver metastases、神奈川県横浜市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
24	30年9月15日～30年9月18日、コクランコロキウム参加、英国エジンバラ市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
25	31年2月16日～31年2月20日、Surgery of the Foregut Symposium参加、米国フォートローダーデール市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
26	30年10月2日～4日、日本薬物動態学会第33回年会/MDO国際合同学会参加、石川県金沢市	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	糸原　光太郎
27	30年7月30日～30年8月2日、60th AAPM 2018参加、アメリカ　ナッシュビル	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島　英明
28	30年10月20日～30年10月24日、60th ASTRO参加、アメリカ　サンアントニオ	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島　英明
29	30年12月7日～30年12月～9日、ESTRO-ASIA参加、シンガポール	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島　英明

【三重大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	ESMO Asia Congress (2018.11.23-25 Singapore)	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子

【滋賀医科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	13th IHPBA World Congress（2018/9/4～9/7）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹
2	平成30年4月　AACR Annual Meetings　2018　シカゴ、IL、USA	先進的がん医療開発と個別化医療を担う医療従事者養成コース	青田　正子
3	30年9月、IHPBA、スイス国ジュネーブ市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充

【大阪医科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	2018 Gastrointestinal Cancers Symposium (ASCO-GI)(January 17-19, 2019)	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	由上　博喜
2	European Society of Gastrointestinal and Abdomonal Radiology（ESGAR 2018）	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	田中　義和
3	30年9月12日～17日、ESUR2018、スペイン　バルセロナ市	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	東山　央

4	平成30年度　5大学連携海外合同教育セミナー（2018/5/13-2018/5/18）スウェーデン王国ストックホルム カロリンスカ研究所「GAP Conferrence 2018」	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	青木　雅彦
5	2019年1月ASCO-GI サンフランシスコ	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	青木　雅彦
6	2018.6 Digestive Disease Week in Washington	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田　篤

【京都薬科大学】

NO.	海外学会･シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	30年5月15日～5月17日　GAP スウェーデン　ストックホルム	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	若林　亮介
2	30年7月1日～6日、The 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology参加　（京都）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利　圭悟
3	30年7月1日～7月6日、The 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology参加、京都市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光

資料 13

国内学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	30年7月6日～30年7月8日、第4回クリニカルバイオバンク学会参加、京都府京都市	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
2	30年7月15日、第8回亀田総合病院腫瘍内科セミナー参加、東京都千代田区	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
3	30年9月1日～30年9月2日、AMED「がんゲノム個別化医療の実現に向けた遺伝子診断共通カリキュラム構築と教育・研修プログラムの実証的開発研究」班 講習会参加、東京都千代田区	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
4	30年9月27日～29日、第77回日本癌学会学術総会参加、大阪府大阪市	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
5	30年11月1日～4日、JDDW2018参加、兵庫県神戸市	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
6	30年9月27日～9月29日　第77回日本癌学会学術総会　大阪	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	三谷　洋介
7	30年9月27日、第77回日本癌学会学術総会参加、大阪府大阪市	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	井上　善景
8	30年5月11日～30年5月13日　第70回日本産婦人科学会学術講演会参加、宮城県仙台市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子
9	30年9月14日～30年9月16日　第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会参加、京都市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子
10	30年9月27日～30年9月28日　第71回日本癌学会学術講演会参加、大阪市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子
11	30年9月27日～29日、第77回日本癌学会学術総会参加、大阪府大阪市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松　士朗
12	30年10月10日～12日、日本人類遺伝学会第63回大会参加、神奈川県横浜市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松　士朗
13	30年10月18日～20日、第56回日本癌治療学会学術集会参加、神奈川県横浜市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	高松　士朗
14	30年9月27日～30年9月29日、第77回日本癌学会学術総会、大阪府大阪市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
15	30年5月10～13日、第70回日本産科婦人科学会学術講演会参加、仙台市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	水野　林
16	30年9月14～16日、第60回日本婦科腫瘍学会学術講演会参加、京都市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	水野　林
17	30年9月27～29日、第77回日本癌学会学術総会参加、大阪市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	水野　林
18	30年5月11～13日、第70回日本産婦人科学会学術講演会参加、宮城県仙台市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
19	30年6月26～29日、第45回内藤コンファレンス参加、北海道札幌市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
20	30年9月14～16日、第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会参加、京都市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
21	30年9月27～28日、第71回日本癌学会学術講演会参加、大阪市	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
22	30年12月14～15日、第4回産科婦人科遺伝診療学会参加、東京都品川区	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
23	30年11月14日～30年11月16日、日本小児血液・がん学会参加、京都府京都市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
24	30年4月20日～4月22日、第121回日本小児科学会学術集会参加、福岡県福岡市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司

25	30年8月1日～8月3日、第22回　日本がん免疫学会総会参加、岡山県岡山市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
26	30年11月14日～11月16日、第60回日本小児血液・がん学会学術集会参加、京都府京都市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
27	30年11月14日～16日、第60回小児血液がん学会学術集会参加、京都府京都市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田坂　佳資
28	31年3月7日～9日、第41回造血細胞移植学会参加、大阪府大阪市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田坂　佳資
29	30年7月26日～7月28日、第24回日本遺伝子細胞治療学会学術集会参加、東京都港区	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田坂佳資
30	30年8月1日～8月3日、第22回日本がん免疫学会総会参加、岡山県岡山市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中　邦昭
31	30年10月12日～10月14日、第80回日本血液学会学術集会参加、大阪府大阪市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中　邦昭
32	31年3月7日～3月9日、第41回造血幹細胞移植学会総会参加、大阪府大阪市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中　邦昭
33	30年9月1日～2日、第15回日本中性子捕捉療法学会学術大会参加、北海道札幌市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	武野　慧
34	30年10月11日～13日、日本放射線腫瘍学会 第31回 学術大会参加、京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	武野　慧
35	30年10月11日～30年10月13日、日本放射線腫瘍学会第31回学術大会参加、京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	植木 一仁
36	30年4月14日、第77回日本医学放射線学会総会参加、神奈川県横浜市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
37	30年10月13日、日本放射線腫瘍学会学術大会第31回学術大会参加、京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
38	31年3月2日、第32回日本放射線腫瘍学会高精度外部照射学術大会参加、東京都港区	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
39	31年1月27日、第1回日本メディカルAI学会学術集会参加、東京都港区	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
40	30年5月11日～30年5月13日、ESTRO/JASTRO共催2018　ESTROschool参加、大阪府吹田市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
41	30年5月16日～30年5月19日、第26回日本乳癌学会学術総会参加、京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
42	30年8月4日～30年8月5日、第20回放射線腫瘍学夏季セミナー参加、埼玉県川越市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
43	30年10月11日～30年10月13日、日本放射線腫瘍学会第31回学術大会参加、京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
44	31年2月16日、第9回放射線生物学セミナー参加、京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
45	30年7月11日～30年7月13日、第73回日本消化器外科学会参加、鹿児島鹿児島市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	木村　有佑
46	30年5月18日、第25回日本乳癌学会各術総会参加、京都府京都市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	波々伯部 絵理
47	30年4月5日～7日、第118回日本外科学会総会参加、東京都千代田区	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子
48	30年5月17日～19日、第26回日本乳癌学会学術集会参加、京都府京都市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子
49	30年7月19日～21日、第16回　日本臨床腫瘍学会学術集会参加、神戸市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子
50	30年10月10日～12日、日本人類遺伝学会第63回大会参加、神奈川県横浜市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子

51	30年7月6日、第89回大腸癌研究会参加、新潟県新潟市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	喜安　佳之
52	30年5月16日、第22回日本がん分子標的治療学会学術集会参加、東京都千代田区	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中　直
53	30年5月17日～19日、第26回日本乳癌学会学術集会参加、京都府京都市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中　直
54	30年9月27日～30年9月29日、第77回日本癌学会学術総会参加、大阪府大阪市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中　直
55	30年4月14日、日本医学放射線学会総会参加、神奈川県横浜市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
56	30年5月25～26日、日本腹部放射線学会参加、神奈川県鎌倉市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
57	30年9月8日、日本磁気共鳴医学会総会参加、石川県金沢市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
58	30年10月6～7日、日本医学放射線学会秋季大会参加、福岡県福岡市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
59	30年11月10日、日本医学放射線学会関西地方会参加、大阪府大阪市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
60	30年4月5日～7日、第118回日本外科学会学術集会参加、東京都千代田区	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
61	30年5月15日～18日、日本質量分析学会・日本プロテオーム学会2018年合同大会参加、大阪府吹田市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
62	30年6月14日～15日、第54回日本肝臓学会総会参加、大阪府大阪市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
63	30年7月11日～13日、第73回日本消化器外科学会総会参加、鹿児島鹿児島市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
64	30年11月21日、第12回肝臓内視鏡外科研究会参加、東京都港区	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
65	30年12月6日～8日、第31回日本内視鏡外科学会総会参加、福岡県福岡市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
66	30年4月5日～7日、第118回日本外科学会総会参加、東京都千代田区	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
67	30年7月6日、第89回大腸癌研究会参加、新潟県新潟市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
68	30年11月30日、がんプロ5大学連携医療フォーラム参加、三重県津市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
69	31年1月25日、第90回大腸癌研究会参加、京都府京都市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎　大輔
70	30年4月4日～30年4月6日、第118回日本外科学会学術集会参加、東京都千代田区	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
71	30年7月11日～30年7月13日、第73回日本消化器外科学会参加、鹿児島県鹿児島市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
72	30年11月1日～30年11月4日、JDDW2018参加 、兵庫県神戸市	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西野　裕人
73	30年9月7日～9月9日、第73回日本体力医学会参加、福井県福井市	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田　圭子
74	31年2月11日、AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会参加、愛知県名古屋市	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田　圭子
75	30年5月26日～27日、第35回日本TDM学会・学術大会参加、福岡県福岡市	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	糸原　光太郎
76	30年11月23日～24日、第28回日本医療薬学会年会参加、兵庫県神戸市	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	糸原　光太郎

77	31年1月19日～20日、第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会参加、奈良県奈良市	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	糸原　光太郎
78	30年7月14日～15日、第12回日本慢性看護学学会学術集会参加、東京都品川区	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	森西　可菜子
79	30年10月6日～7日、第33回日本糖尿病医療学学会参加、京都府京都市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	森西　可菜子
80	30年6月15日～17日、第23回日本緩和医療学会参加、兵庫県神戸市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	宮園　めぐみ
81	31年2月23日～24日、第33回日本がん看護学会参加、福岡県福岡市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	宮園　めぐみ
82	31年2月11日、がん看護分野セミナー「倫理的がん患者の意思決定支援　～法的・倫理的視点を意識して～」参加、京都府京都市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	宮園　めぐみ
83	30年10月11日～30年10月13日、日本放射線腫瘍学会第31回学術大会参加　、京都府京都市	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野　涼
84	30年10月11日～30年10月13日、日本放射線腫瘍学会第31回学術大会参加、京都府京都市	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	北村　彩香
85	30年9月25日～30年9月28日、Geant4講習会参加、北海道札幌市	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	北村　彩香
86	30年4月12日～30年4月15日、第115回医学物理学会学術大会参加、 神奈川県横浜市	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島　英明
87	30年9月15日～30年9月16日、第116回医学物理学会学術大会参加、岩手県盛岡市	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島　英明
88	30年10月11日～30年10月13日、日本放射線腫瘍学会第31回学術大会参加、京都府京都市	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島　英明
89	31年1月26日31年1月27日、メディカルAI学会参加、東京都	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	平島　英明

【三重大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	第12回日本緩和医療薬学会年会、東京　2018.5.25-27	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本　明大
2	第23回日本緩和医療学会学術大会、神戸　2018.6.15-17	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本　明大
3	第31回日本サイコオンコロジー学会総会、金沢　2018.9.21-22	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本　明大
4	第28回日本医療薬学会年会、神戸　2018.11.23-25	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本　明大
5	第80回日本血液学会学術集会、大阪　2018.10.12-14	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	片山　春奈
6	第80回日本血液学会学術集会、大阪　2018.10.12-14	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	永春　圭規
7	第80回日本血液学会学術集会、大阪　2018.10.12-14	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	蜂矢　健介
8	第26回日本乳癌学会学術総会、京都　2018.5.16-18	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
9	第15回日本乳癌学会中部地方会、三重　2018.9.8-9	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	長野　真由子
10	第70回日本産科婦人科学会、仙台　2018.5.13-16	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	吉田　健太

11	第60回日本婦人科腫瘍学会、京都 2018.9.14-16	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	吉田 健太
12	17th IGCS、京都 2018.9.14-16	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	吉田 健太
13	日本放射線腫瘍学会第31回学術大会、京都 2018.10.11-13	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	渡邊 祐依
14	日本放射線腫瘍学会第31回学術大会、京都 2018.10.11-13	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	南平 結衣
15	日本放射線腫瘍学会第31回学術大会、京都 2018.10.11-13	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	間瀬 貴充
16	日本放射線腫瘍学会第31回学術大会、京都 2018.10.11-13	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	大森 千輝
17	第32回日本がん看護学会学術集会、千葉 2018.2.3-4	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	山口 久美子
18	第38回日本看護科学学会学術集会、松山 2018.12.15-16	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	山口 久美子
19	第23回日本緩和医療学会学術集会、神戸 2018.6..15-17	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	岡田 まり
20	第80回日本血液学会、大阪 2018.10.12-14	小児がん治療専門医養成コース	伊藤 卓洋
21	第60回小児血液がん学会、京都 2018.11.14-16	小児がん治療専門医養成コース	伊藤 卓洋
22	第50回 International Soiety of pediatric oncology、京都 2018.11.16	小児がん治療専門医養成コース	伊藤 卓洋
23	第47回 日本免疫学会学術集会、福岡 2018.12.10-12	小児がん治療専門医養成コース	伊藤 卓洋

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏 名
1	30年12月6日-8日 第31回 日本内視鏡外科学会総会、福岡県福岡市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	安川 大貴
2	31年2月14日、第34回 日本静脈経腸栄養学会、東京都港区	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	安川 大貴
3	30年4月5日-7日 第118回 日本外科学会定期学術集会、東京都千代田区	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森 治樹
4	30年6月7日-9日 第30回 日本肝胆膵外科学会学術集会、神奈川県横浜市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森 治樹
5	30年6月29日-30日 第49回 日本膵臓学会大会、和歌山県和歌山市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森 治樹
6	30年7月11日-13日 第73回 日本消化器外科学会総会、鹿児島県鹿児島市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森 治樹
7	30年10月3日-4日 第55回 日本胆道学会学術集会、愛知県名古屋市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森 治樹
8	30年10月18日-20日 第56回 日本癌治療学会学術集会、神奈川県横浜市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森 治樹

9	30年11月22日-24日　第80回　日本臨床外科学会総会、東京都港区	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹
10	30年12月6日-8日　　第31回　日本内視鏡外科学会総会、福岡県福岡市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹
11	31年2月14日-15日　　第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会、東京都港区	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
12	30年11月23日-25日　第28回 日本医療薬学会年会、兵庫県神戸市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
13	30年5月31日-6月2日　第21回 日本臨床救急医学会総会・学術総会、愛知県名古屋市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
14	滋賀医大シンポジウム	先進的がん医療開発と個別化医療を担う医療従事者養成コース	青田　正子
15	30年6月、京滋NET academy、京都府京都市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
16	30年4月、日本外科学会、東京都千代田区	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
17	30年6月、日本肝胆膵外科学会、神奈川県横浜市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
18	30年10月18日-20日、日本癌治療学会、神奈川県横浜市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
19	30年7月11日-13日　第73回　日本消化器外科学会総会、鹿児島県鹿児島市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
20	30年2月、びわこ膵癌フォーラム、滋賀県草津市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
21	30年8月24日-25日、第45回日本膵切研究会、北海道札幌市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
22	30年6月29日-30日　第49回　日本膵臓学会大会、和歌山県和歌山市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
23	30年12月6日-8日　　第31回　日本内視鏡外科学会総会、福岡県福岡市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
24	31年2月、滋賀肝胆膵勉強会、滋賀県草津市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
25	31年2月、滋賀消化器病研究会、滋賀県大津市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
26	31年3月、Kansai-Yeungnam HBP Surgeons Joint Meeting、兵庫県西宮市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
27	30年11月23日-25日　　第28回日本医療薬学会年会 兵庫県神戸市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	土手　賢史
28	30年10月12日-14日　第80回日本血液学会学術集会　大阪府大阪市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	土手　賢史

【大阪医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	平成30年5月10日（木）11日（金）12日（土）13日（日）、日本産婦人科学会　会場：仙台国際センター、東北大学百周年記念会館川内萩ホール	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
2	平成30年8月2～4日　日本産婦人科内視鏡学会　島根県　松江市	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
3	平成30日8月31日、9月1日　JSAWI2018　兵庫県淡路市	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
4	平成30年9月14～16日　日本婦人科腫瘍学会　京都府京都市	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
5	平成31年2月2日、3日　日本産婦人科手術学会　東京都千代田区	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
6	平成31年2月　近畿婦人科内視鏡研究会　大阪府大阪市	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
7	第70回日本産科婦人科学会学術講演会（広島：2018年5月）	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
8	第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術（島根：2018年8月）	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
9	第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会（京都：2018年9月）	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
10	第139回近畿産科婦人科学会学術集会 第104回腫瘍研究部会（大阪：2018年10月）	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
11	第33回日本女性医学学会学術集会（岐阜：2018年11月）	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
12	2019年3月胃癌学会　静岡	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	青木雅彦
13	2018.5 第95回日本消化器内視鏡学会総会	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	奥田篤
14	30年9月28日～29日、JSURT（泌尿器画像診断・治療技術研究会）、京都	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	東山　央

【京都薬科大学】

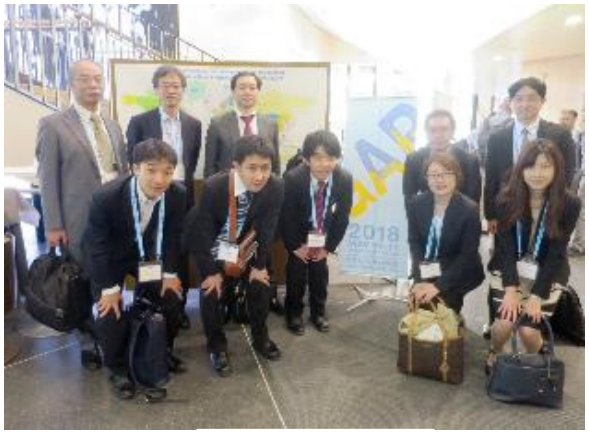
NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	30年5月12日～13日、第43回日本骨髄腫学会学術集会参加、千葉県千葉市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
2	30年7月19日～21日、第16回日本臨床腫瘍学会学術集会参加、兵庫県神戸市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
3	30年10月12日～14日、第80回日本血液学会学術集会参加、大阪府大阪市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
4	30年11月23日～25日、第28回日本医療薬学会年会参加、兵庫県神戸市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
5	30年10月12日～14日、第80回日本血液学会学術集会参加 （大阪）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利　圭悟
6	31年2月2日～3日、第2回国際がん研究シンポジウム参加 （大阪）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利　圭悟
7	30年9月27日～9月29日、The 77th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association参加、大阪府大阪市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
8	31年2月2日～2月3日、第2回国際がん研究シンポジウム参加、大阪府大阪市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
9	30年10月12日～30年10月14日　第80回日本血液学術集会　参加、大阪府大阪市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	今吉　菜月
10	30年11月23日～30年11月25日　第28回日本医療薬学会年会　参加、兵庫県神戸市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	今吉　菜月

資料 14

平成30年度「5大学連携海外合同教育セミナー」

相手機関：スウェーデン王国ストックホルム カロリンスカ研究所
「GAP Conference 2018」
訪問日：2018年5月13～19日

	大 学 名	氏　　名	所属・職名 専攻名・学年、がんプロコース名
	【教　員】		
1	京都大学	武藤　学	医学研究科　教授
2	京都大学	金井　雅史	医学研究科　特定准教授
3	京都大学	大橋　真也	医学研究科　助教
4	京都薬科大学	本橋　秀之	臨床薬学教育研究センター　講師
	【学　生】		
1	京都大学	三谷　洋介	医学研究科医学専攻 D3 プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
2	三重大学	南平　結衣	生命医科学専攻　D2 ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース
3	滋賀医科大学	前平　博充	大学院医学系研究科博士課程医学専攻 D3 ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース
4	大阪医科大学	青木　雅彦	医学研究科医学専攻　D3 ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース
5	京都薬科大学	若林　亮介	薬学研究科薬学専攻　D2 ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬学師養成コース



【GAP2018】

【GAP2018】

【workshop in Karolinska】

【workshop in Karolinska】

【molecular tutor board】

【molecular tutor board】

【the New Karolinska Hospital 見学】

【the New Karolinska Hospital 見学】

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース		

研修等の名称	平成 30 年度 海外合同教育セミナー （GAP2018）
研修等期間	平成 30 年 5 月 13 日から 5 月 19 日
研修等目的	平成 30 年度がんプロ事業として、スウェーデン王国ストックホルムにて「５大学連携海外合同教育セミナー」を実施
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in Karolinska」にて研究発表、「GAP2018」及び「molecular tutor board」に出席し、最先端のがん研究に関する情報収集、「the New Karolinska Hospital (NKS) 」での施設見学等を実施する。
セミナー開催機関	Karolinska Institutet's Aula Medica in Stockholm、及び関連施設
開催期間	平成 30 年 5 月 14 日から 5 月 17 日
発表の場合題目	Precision cancer treatment targeting VUS: A case of a rare HER2 mutation in colorectal cancer

●研修等参加による成果

この度、平成 30 年度 海外合同教育セミナーに参加し、また上記題目で GAP2018 においてポスター発表させていただきました。

5/15 に開催された Workshop in Karolinska では、Waterfront Conference Center の会議室でメンバー一人一人の研究内容の発表と指導員の先生方の講義を受けました。私は現在進めている研究に関して実験の概要や今後の予定を含めて発表し、質疑応答の中で非常に濃いディスカッションができました。セミナーの中で、他大学からの非常に興味深い発表を聞くことができ、熱の入ったディスカッションとなり少し時間をオーバーしましたが、日本でもなかなか他大学、他研究分野に触れることが少ないこともあり、貴重な研究発表の時間となりました。

翌日、5/16 より GAP2018 に参加し、ポスター発表を行い、また興味ある分野の最先端のがん研究に関して学会発表を拝聴いたしました。私のポスター発表に関しては質疑があまりなく、同様の研究をしている研究者と議論できなかったのが残念ではありましたが、これまでの自分の研究をサマライズして英文で説明でき、大変貴重な経験になったと感じております。海外の著名な研究者の発表を聞いて回って、今後のがん研究のモチベーションを高めたのと同時に今後の研究にも活かせる最先端のがん研究の情報を学ぶことが出来ました。

また、Karolinska Hospital における molecular tutor board に参加させていただき、クリニカルシークエンス検査における検査結果の意味づけや臨床経過を踏まえての治療方針の検討をみることができました。国内のクリニカルシークエンス検査のカンファレンスは何度か出席したことがありましたが、海外での臨床医とディスカッションができて日本との治療選択の違いや問題点を理解することが出来ました。

最後に現地のスタッフについていただき the New Karolinska Hospital の病棟見学を行いました。スタッフの方の説明も分かりやすく、病棟と外来の一部を見させていただきましたが、病棟は非常に衛生的で広く、全室個室で各部屋でカルテ映像などを見ながら説明できるような設備があり、非常に充実した施設と感じられました。

非常に濃い内容のセミナーが受けられ、海外でしか得られない経験(研究者とのコミュニケーション、英語での発表など)を得ることが出来ました。最後にこのような機会を与えてくださった関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏名	●●●
所属コース	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース		
研修等の名称	平成30年度 海外合同教育セミナー （GAP2018）		
研修等期間	平成30年5月 13日から5月 19 日		
研修等目的	平成30年度がんプロ事業として、スウェーデン王国ストックホルムにて「5大学連携海外合同教育セミナー」を実施		
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in Karolinska」にて研究発表、「GAP2018」及び「molecular tutor board」に出席し、最先端のがん研究に関する情報収集、「the New Karolinska Hospital (NKS) 」での施設見学等を実施する。		
セミナー開催機関	Karolinska Institutet's Aula Medica in Stockholm、及び関連施設		
開催期間	平成30年5月 14日から5月 17日		
発表の場合題目			

●研修等参加による成果

この度は、スウェーデン王国ストックホルムにて行われた5大学連携海外合同教育セミナー、Global Academic Progarams Conferrence 2018、molecular tutor board へ参加し、また the New Karolinska Hospital (NKS)を見学するという貴重な機会を頂き誠にありがとうございました。

5大学連携海外合同教育セミナーでは、おのおのの先生方の研究について拝聴致しました。私は放射線治療を主に行っており、なかなか接しない細胞レベルの実験や遺伝子変異についての研究テーマが多く、大変興味深かったです。

Global Academic Progarams Conferrence 2018 は3日間の開催されました。午前は1つの会場のみで行われ、午後は4会場へ分かれておのおのの分野の発表が行われる形式でした。1日目午前には子宮頚癌を引き起こすヒトパピローマウイルスの発見で2008年ノーベル生理学・医学賞を受賞されたHarald zur Hausen 先生の講演をはじめ、Global Health などの講演がありました。1日目午後には膵癌、乳癌のセッションに出席しました。膵癌の治療の変遷や予後因子/治療効果の予測因子について、乳癌治療によるマンモグラフィーの乳腺濃度の変化や乳房切除後の T1-2 リンパ節転移 1-3 個の患者群への PMRT の必要性についてなどの発表がありました。2日目午前には Nordic cancer registries についての講演があり、Personal identification number を用いた登録を行う事で大規模な情報集積が行えるメリットを感じました。2日目正午には molecular tutor board に出席し、実際の患者データを確認しつつ治療薬の選択について議論が行われました。2日目午後は定位放射線治療のセッションに出席しました。Stage I 期非小細胞肺癌への SBRT の最新の治療成績や治療後 6ヶ月の PET-CT で SUV>5 であれば局所再発除外のために生検が考慮されるなどの発表がありました。HCCへの SBRT と RFA を比較した後方視的研究では、SBRT は RFA と同程度の治療成績で、RFA では局所コントロール不良因子となる 2cm 以上や横隔膜下の部位でも SBRT では不良因子とはなかったとの報告がありました。3日目には「The Hallmarks of Cancer」の Douglas Hanahan 先生の講演や Liquid biopsy の講演がありました。

the New Karolinska Hospital の見学では、全室個室であることや病室設備（全部屋に補助ベット完備）、TV モニターは患者説明用のモニターとしても用いられること、各部屋に移乗用の器具が天井に備え付けられていることなど日本との違いを感じました。TV モニターでの説明は画像も大きく見やすいことから患者の理解度の向上に、移乗用設備はメディカルスタッフの負担軽減に繋がると思いました。

今回、国際学会の出席および最新の病院の見学、5大学連携海外合同教育セミナーでの研究成果の発表という貴重な機会を頂き、誠にありがとうございました。今回 Global Academic Progarams Conferrence 2018 が行われたスウェーデン・カロリンスカ大学がガンマナイフ誕生の地であるとのことで、放射線治療を専攻する私には非常に感慨深いものがありました。世界中から著名な研究者が集まり、最先端の研究や治療方法についての講演から多く知識を得ることが出来ました。今回得られた知識を元に、研究及び日々の臨床に応用していけたらと考えます。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース			

研修等の名称	平成 30 年度 海外合同教育セミナー　(GAP2018)
研修等期間	平成 30 年 5 月 13 日から 5 月 19 日
研修等目的	平成 30 年度がんプロ事業として、スウェーデン王国ストックホルムにて「5 大学連携海外合同教育セミナー」を実施
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in Karolinska」にて研究発表、「GAP2018」及び「molecular tutor board」に出席し、最先端のがん研究に関する情報収集、「the New Karolinska Hospital (NKS)」での施設見学等を実施する。
セミナー開催機関	Karolinska Institutet's Aula Medica in Stockholm、及び関連施設
開催期間	平成 30 年 5 月 14 日から 5 月 17 日
発表の場合題目	Clinical research report -Relationship between CT attenuation and POPF, and relationship between alpha-SMA expression in the tumor stroma and the prognosis for PDAC-

●研修等参加による成果

この度は、きわめて貴重な経験として、カロリンスカ大学での GAP2018 に参加させていただき、誠にありがとうございました。小生は消化器外科の中でも膵臓に関する領域を専門としており、日々膵切除術を行っております。大学院は 3 年生となりますが、臨床（手術）と並行して研究をしております。

1 日目は、癌プロ学生との交流会をさせていただきました。私は膵液瘻の予測に関する研究と膵癌の間質における線維化に関する研究を発表させていただきました。大橋先生や本橋先生よりさらなる研究のブラッシュアップ可能なご意見を頂戴でき、今後の研究に追加していきたく考えております。具体的には、パーフュージョン CT を用いることで膵実質が膵癌の血流を測定し、それと膵液瘻や膵癌間質の血管新生の程度、予後、化学療法反応性などとの相関を調べてみようと思いました。また他の先生方の発表を見させていただき、ゲノムの変異などを調べることで第 3、第 4 の治療の指標になることを勉強することができ、更なる癌に対する治療の進歩の可能性を垣間見ることができました。

2 日目からは、3 日間 GAP2018 に参加させていただき、ゲノムシークエンスなど世界の最先端で行われている研究を見学することができました。そのなかでもとくに興味をもったのが Liquid biopsy でした。今のところ予後因子として調べられているようでしたが、理想としてはそこからの術前術後化学療法のテーラーメイド化、再発時の化学療法のテーラーメイド化につなげることができるのではないかと思われました。そのほか、肝細胞癌門脈腫瘍栓に対する Radiation therapy についての発表もありました。当院でも治療方針に難渋するようなケースであり、1 つのオプションと考えられ、今後放射線科との合同研究もできるのではないかと考えました。

3 日目には、カロリンスカ大学での molecular conference に参加させていただき、海外でのカン

ファレンスの雰囲気を味わうことができました。そこでは膵癌再発症例での治療方針のカンファレンスで、FOLFIRINOX および GnP で PD となった患者様の今後の治療についてゲノム異常から治療薬を検討するというもので、最先端の内容のカンファレンスで興味深く参加できました。さらには、同日カロリンスカ大学病院の見学をさせていただきました。すべての部屋が個室で、患者さん first の環境整備がされている印象でした。小生は外科医ですので、手術場にも興味がありましたが、今回は見学できず、残念でした。

4 日目には、Hallmarks of cancer で有名な先生のご講演もあり、貴重な聴講ができました。また、小生は英語が苦手であり、少しでも外国人と英語で話すこともこの研修の一つの目標としておりました。今回、GAP2018 で数名ではありますが、海外の先生方と英語でお話しをすることができました。まだまだつたない英語であり、またリスニング力も低く何回も聞き直すことがありましたが、この研修に参加させていただいたことでさらに英語に力を入れるべきと痛感いたしました。

最後になりますが、この度は本当に貴重な研修に参加させていただき、誠にありがとうございました。非常に充実した 4 日間でした。この経験を活かし、今後の診療や研究、さらには後輩の育成に結び付けていきたい所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	がんプロフェッショナル養成コース		

研修等の名称	平成 30 年度 海外合同教育セミナー （GAP2018）
研修等期間	平成 30 年 5 月 13 日から 5 月 19 日
研修等目的	平成 30 年度がんプロ事業として、スウェーデン王国ストックホルムにて「５大学連携海外合同教育セミナー」を実施
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in Karolinska」にて研究発表、「GAP2018」及び「molecular tutor board」に出席し、最先端のがん研究に関する情報収集、「the New Karolinska Hospital (NKS) 」での施設見学等を実施する。
セミナー開催機関	Karolinska Institutet's Aula Medica in Stockholm、及び関連施設
開催期間	平成 30 年 5 月 14 日から 5 月 17 日
発表の場合題目	

●研修等参加による成果

Workshop in Karolinska にて自分の研究を発表することで、他大学の先生方から意見をいただけたことや、他大学の先生方の研究内容、成果を聞くことで今後の課題などをみつけるこができました。

普段英語を使う機会がないですが、スウェーデンにて開催された国際学会 GAP2018 に参加することで最先端の研究内容を知ることや英語を使う練習になりました。また施設見学をさせていただいたことで日本の病院と海外での違いも知ることができ、日本においても参考にできる内容でした。

今回このような機会をいただけたことで、今後の臨床、研究に役立てていきたいと考えております。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース		

研修等の名称	平成 30 年度 海外合同教育セミナー （GAP2018）
研修等期間	平成 30 年 5 月 13 日から 5 月 19 日
研修等目的	平成 30 年度がんプロ事業として、スウェーデン王国ストックホルムにて「5 大学連携海外合同教育セミナー」を実施
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in Karolinska」にて研究発表、「GAP2018」及び「molecular tutor board」に出席し、最先端のがん研究に関する情報収集、「the New Karolinska Hospital (NKS) 」での施設見学等を実施する。
セミナー開催機関	Karolinska Institutet's Aula Medica in Stockholm、及び関連施設
開催期間	平成 30 年 5 月 14 日から 5 月 17 日
発表の場合題目	Screening novel compounds inhibiting the Wnt/β-catenin pathway against colorectal cansers

●研修等参加による成果

ストックホルムに到着した翌日に行われた workshop では自分の研究について英語で発表させて頂き、皆様から質問と意見を頂くことができました。発表の仕方やスライドの見せ方でさらに分かりやすくする点をご指摘頂き参考になりました。また他大学の先生方の発表を拝見させていただき大変勉強になりました。臨床現場で医師として活躍される中で起きている問題に対してテーマを持ってトランスレーショナルな研究されており、とても興味深いものでした。各先生方の研究していることを少しでも患者さんに還元したいという思いが伝わりました。医学部の先生方とは教育のシステムも働き方も、薬学部・薬剤師とは異なる部分は多くありますが、今回のセミナーを通してそれぞれで考えていることや、悩んでいることを知ることができ、また共有しあうことができました。

5 月 15 日から 5 月 17 日までは GAP 会議に参加しがん研究の情報収集に努めました。オープニングでヒトパピローマウイルスが子宮頸がんの原因になることを発見し、ノーベル賞を受賞されたハラルド・ツア・ハウゼン先生の講演を拝聴することができ、とても感銘を受けました。このような権威ある先生が講演してくださる学会に参加できているのがとても光栄に感じました。

5 月 16 日の molecular tutor board では病院内でのカンファレンスの流れを学ばせていただくことができました。がん患者さんでファーストライン・セカンドラインで効果が見られない患者さんに対して、患者さんの遺伝子の変異を見て最適な抗がん剤を選択していました。抗がん剤のラインナップには未承認の抗がん剤が多くみられ、それをチョイスして患者さんに投与していました。また韓国の病院の先生の話では、韓国では緊急時に患者さんのために、未承認の薬を国に承認してもらうよう申請すると、三日で承認が得られる制度があると言い、日本ではなかなかそのようなフットワークの軽さはないので国によってこんなにも違うのかと驚きました。またカンファレンスの例で大腸がんの患者さんの症例があり、そのなかで自分が研究の中でポジティブコントロールとして使用している Wnt/β-catenin 経路阻害剤が出てきていました。現在その薬はアメリカ等で臨床試験が行われていますが、いまだフェーズ 2 であり未承認であります。Wnt/β-catenin 経路阻害剤で承認された薬はいまだ存在せず、その薬が実際に臨床現場で使用されることがあることを知り、驚きもありましたし、その薬よりも効果のある薬を開発したいと強く思いました。

5 月 16 日のカロリンスカ病院の見学では短い時間ではありましたが、最近新しく建てられて、入院患者さんがいまだに入っていないきれいな病棟を見ることができました。病室はすべて個室であり、個室には患者家族も泊まれるように簡易のベッドが各部屋に用意されていました。病院内は木材が各所で使われており、さらにさまざまなアートがちりばめられて少しでも患者さんが安らげるように工夫されており、患者さんファーストな病院でした。

今回 5 大学連携海外合同教育セミナーに参加させて頂き、さまざまなことを経験できました。私は海外に行くこと自体が初めての経験だったため、異国の地の文化・教育・学問を肌で感じることがとても新鮮であり、自分にとって大きな経験になりました。この経験を本学に持ち帰り後輩たちに伝え、自分の成長にも繋げたいです。また本学以外の 4 大学の先生方とも交流を深めることができたので、また共に何かできる機会があることを切に願います。

平成30年度　5大学連携学生短期研修プログラム

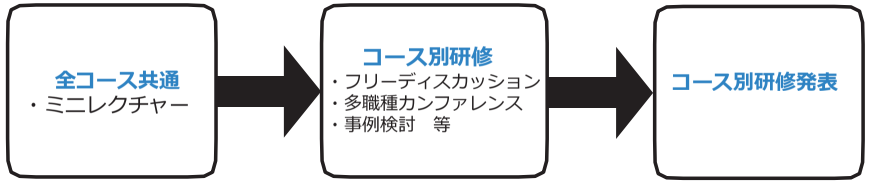
○研修日時・場所

日時：平成31年2月5日（火）13:30 ～ 2月6日（水）12:30

会場：京都大学医学部附属病院 外来棟5階会議室 B（その他関連施設）

○研修の概要

「学生短期研修プログラム」は、連携大学間での取組事業として、
５大学からがんプロ履修生を選抜し、1泊2日の合同研修に参加し、
連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図りました。



○研修生参加者：16名

（コース別内訳　ゲノム医療 ： 10名、　小児がん/AYA世代 ： 3名、　緩和ケア ： 3名）

○研修内容

<table>
<tr><th colspan="7">第1日目　平成31年2月5日（火）</th></tr>
<tr><td>13:00</td><td colspan="6">受付開始</td></tr>
<tr><td>13:30～13:45</td><td colspan="6">開講・自己紹介</td></tr>
<tr><td>13:45～15:15</td><td colspan="6">ミニレクチャー
（会場 ： 医学部附属病院 外来棟 5階　会議室B）

・『がんゲノム医療中核病院と連携病院』　医学研究科・教授　武藤　学　13:45～
・『小児がんにおけるトランスレーションゲノミクス』　医学研究科・教授　滝田 順子　14:15～
・『ライフステージに応じた緩和ケア』　医学研究科・教授　恒藤　暁　14:45～</td></tr>
<tr><td>15:15～15:30</td><td colspan="6">休憩</td></tr>
<tr><td rowspan="4">コース別研修</td><td colspan="2">①ゲノム医療コース</td><td colspan="2">②小児がん/AYA世代コース</td><td colspan="2">③緩和ケアコース</td></tr>
<tr><td>15:30～16:30</td><td>がんゲノム医療に関するフリーディスカッション</td><td>15:30～16:30</td><td>小児病棟において多職種カンファレンス</td><td>15:30～16:30</td><td>緩和ケアセンターにおいて事例検討</td></tr>
<tr><td>16:30～17:30</td><td>ケーススタディ</td><td>17:00～18:00</td><td>小児脳腫瘍ユニット見学</td><td>16:30～17:30</td><td>緩和ケアに関するフリーディスカッション</td></tr>
<tr><td>17:30～18:30</td><td>クリニカルシークエンスカンファ参加</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>19:00～21:00</td><td colspan="6">情報交換・懇話会</td></tr>
</table>

ミニレクチャー「がんゲノム医療中核病院と連携病院」
医学研究科　武藤　学　教授

ミニレクチャー「小児がんにおけるトランスレーションゲノミクス」
医学研究科　滝田　順子　教授

ミニレクチャー「ライフステージに応じた緩和ケア」
医学研究科　恒藤　暁　教授

2月5日　情報交換・懇話会

第2日目　平成31年2月6日（水）						
9:30	集　合　（場所：医学部附属病院 外来棟 5階　会議室B）				（場所：外来棟1階 緩和ケアセンター）	
コース別研修	①ゲノム医療コース		②小児がん/AYA世代コース		③緩和ケアコース	
	9:40～10:40	NGSラボ＆バイオバンク見学	9:40～11:00	小児血液長期フォローアップ外来見学	9:30～10:30	緩和ケアセンターにおいて事例検討
	10:40～11:00	休憩	11:00～11:30	まとめ	10:30～10:40	休憩
	11:00～11:30	集合した後、研修内容のまとめ			10:40～11:30	緩和ケアチーム回診
11:30～12:15	各コースごとに研修内容を発表　（1コース当たり　発表:10分、質疑応答:5分）（外来棟 5階 会議室B）					
12:15～12:30	各コースディレクターからの総評・閉講　（外来棟 5階 会議室B）					

2月6日研修会発表

○参加者一覧

大学名	氏名	専攻研究科／専攻名	入学年度	教育プログラム・コース
【①ゲノム医療コース】　10名　（京都大7名、滋賀医大2名、京都薬大1名）				
京都大学	三谷　洋介	医学研究科	H28	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
京都大学	浮田　真沙世	医学研究科	H28	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
京都大学	田中　直	医学研究科	H28	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、 集学的診療を担う医療人養成
京都大学	柿野　諒	医学研究科	H30	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う 医学物理士養成コース
京都大学	荻原　孝史	薬学研究科	H28	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および 支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
京都大学	北村　幸子	医学研究科	H27	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
京都大学	水野　林	医学研究科	H29	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
滋賀医科大学	土手　賢史	医学専攻	H27	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う 薬剤師養成コース
滋賀医科大学	長澤　芳信	医学専攻	H30	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース
京都薬科大学	甘利　圭悟	薬学研究科 薬学専攻	H30	ライフステージに応じた個別化がん治療における 全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
【②小児がん/ＡＹＡ世代コース】　3名　（京都大2名、京都薬大1名）				
京都大学	竹花　恵一	医学研究科	H29	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う 人材養成コース
京都大学	田中邦昭	医学研究科	H28	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す 医療人養成コース
京都薬科大学	今吉　菜月	薬学研究科 薬学専攻	H30	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
【③緩和ケアコース】　3名　（三重大2名、大阪医大1名）				
三重大学	大森　千輝	医学系研究科/生命医科学専攻	H30	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース
三重大学	岡本　明大	医学系研究科/生命医科学専攻	H30	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を 推進するがん専門薬剤師養成コース
大阪医科大学	児玉　紘幸	医学研究科	H30	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース

5大学連携 学生短期研修プログラム報告書

（研修コース：①ゲノム医療コース）

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース		
研修等の名称	平成 30 年度「5 大学連携 学生短期研修プログラム」		
研修等期間	平成 31 年 2 月 5 日（火）13:30 ～ 2 月 6 日（水）12:30		
研修等会場	京都大学医学部附属病院 外来棟 5 階　会議室B（その他関連施設）		
研修等目的	連携大学間での取組事業として、5 大学からがんプロ履修生を選抜し、1 泊 2 日の合同研修に参加し、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図る。		
研修等内容	がんゲノム医療に関するフリーディスカッション、クリニカルシークエンスカンファレンスの参加および次世代シーケンサー（NGS）、バイオバンクの見学		

●研修の成果と感想

ゲノム医療コースに参加させていただき、ミニレクチャーやディスカッション、カンファレンスや施設見学を通して、がんゲノム医療に関する現場、展望、問題点を深く学ぶことができました。

がんゲノム医療の問題点としてあげられるクリニカルシークエンスにおけるコストや二次的所見、アノテーションの統一性や対象の選択などに関して、学生間で深くディスカッションができ理解を深めることができ、また、実際のケースを用いた variant の解釈に関しての講義では実際に WEB 上のデータベースを自分で開いて検索し、自主的に解釈を進める方法を経験することができました。その後、クリニカルシークエンスのカンファレンスに参加させていただき、現場での治療方法の選択や二次的所見の解釈などに関するディスカッションを直に見ることができ大変貴重な経験となりました。

NGS ラボやバイオバンクの見学では、最新の次世代シークエンサーを備えた研究室で詳しく研究機器の役割、研究内容を説明いただき、またバイオバンクの体系だった品質管理や検体管理システムを見学することができました。最後に研修内容のまとめとして学生、教員方とディスカッションを行いましたが、他大学間、多職種でいろいろな視点からの意見を伺うことができ、教員方の現場での成功例や問題点を伺い、ゲノム医療の理解を深めることができました。

●「5 大学連携　学生短期研修プログラム」全体を通しての成果と感想

ゲノム医療、小児がん、緩和ケアの 3 コースに関してそれぞれ教員よりミニレクチャーを受けた後に、コースごとに分かれて研修を受けました。それぞれのコースでディスカッションや事例検討、医療現場やカンファレンスの見学を行い理解を深めた後に、それぞれコースごとに研修内容の発表と討論を行いました。盛んな意見の交換をすることができ、それぞれの疑問に関しては教員に一つ一つ答えていただき、またそれぞれの分野の抱える問題点に関して提示いただき深く議論することができました。

また、初日の研修後に情報交換・懇話会に参加し、他大学の他職種の学生達や教員方と交流できる時間をいただきました。研究内容の相談であったり、レクチャーでは聞くことのできなかった疑問であったり、盛んに意見を交換することができ大変貴重な時間を経験することができました。

このような機会を与えてくださった教員の先生方、がんプロ事務局の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

5大学連携 学生短期研修プログラム報告書

（研修コース：①ゲノム医療コース）

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース		

研修等の名称	平成 30 年度「5 大学連携 学生短期研修プログラム」
研修等期間	平成 31 年 2 月 5 日（火）13:30 ～ 2 月 6 日（水）12:30
研修等会場	京都大学医学部附属病院 外来棟 5 階　会議室B（その他関連施設）
研修等目的	連携大学間での取組事業として、5 大学からがんプロ履修生を選抜し、1 泊 2 日の合同研修に参加し、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図る。
研修等内容	がんゲノム医療に関するフリーディスカッション、クリニカルシークエンスカンファレンスの参加および次世代シーケンサー（NGS）、バイオバンクの見学

●研修等参加による成果

研修では、「がんゲノム医療」、「小児がん/AYA 世代」、「ライフステージに応じた緩和ケア」の 3 つのコースの中から 1 つ選び、3 つのコース共通のミニレクチャーを受けた後、コース別に研修を受けるという制度であり、私はがんゲノム医療を選択した。がんゲノム医療は、今まで大学の授業等でもあまり馴染みのない分野であったが、今年の 4 月から遺伝子パネル検査が保険適応になるのに加え、これからの個別医療を考える上で必要不可欠な分野であるため、興味を持ち参加した。

がんゲノムに関するフリーディスカッションでは、がんゲノム医療の問題点というテーマでディスカッションを行った。問題点として、「がんゲノム医療に携わる人材不足」、「診断および治療に対する経済的な問題」、「患者さんに対するがんゲノム医療についての情報提供不足および患者さんの理解不足」などが挙げられた。このディスカッションを通して私が感じたのは、がんゲノム医療を進めていく上で必要な制度等の整備がまだまだできていないことである。今後は医師だけではなく、薬剤師など多職種と連携を取ることで患者さんに質の良い医療を提供することが必要であり、そのためにも早い段階からのがんゲノムについての教育が必要不可欠であると感じた。また、今年の 4 月から遺伝子パネル検査が保険適応になるが、現時点で検査の対象は希少がんおよび標準治療のない進行したがんを患った患者さんが多いため、検査の結果推奨された薬剤が保険適用外であることが多く経済的な負担が大きい。また、推奨薬剤をを既に使用しており、耐性を持っている場合も考えられる。個別医療という観点で考えるならば、早期から遺伝子パネル検査を行うことにより、有効な薬剤を一番適切な時期に使用することができるのではないかと考えた。今回の研修には、普段病院でがんゲノムチームの一員として業務をしている薬剤師さんがおられ、フリーディスカッションの時にがんゲノムチームにおける薬剤師の役割について聞くことができた。遺伝子パネル検査で推奨薬剤は結果として出てくるが、その薬剤の投与量・投与期間については患者さんによって検討する事項である。また、結果によっては保険適用外の薬剤もあるため、副作用などのモニタリングも重要である。その際に、薬剤師がチームの一員として積極的にレジメンの提案や副作用のモニタリングを行えると仰っており、これからの医療を考える上で非常に重要になる業務であると感じた。

次世代シーケンサー（NGS）、バイオバンクの見学では、京都大学で実際に運用している施設を見学させていただいた。バイオバンクは、今まで個人または診療科で行っていた生体試料の採取、保管を一か所に集めたもので、生体試料の採取の効率および質の均一化の面で非常にメリットがある。また、臨床試験を行う際に患者さんから同意書を書いてもらわなければいけないが、バイオバンクを活用することによって同意書のもれがなくなることも有益な点である。バイオバンクを薬科大学などの附属病院がない大学においても利用ができれば今後の研究に大いに活用できるのではないかと感じた。

研修全体を通して、普段話す機会のあまりない医師や他の大学の薬剤師の方とディスカッションし、意見を共有できたのは非常に有意義であり、今後の薬剤師のありかたや、自分がどのような薬剤師になりたいかをイメージすることができた研修だったのではないかと感じた。また、今回の研修ではがんゲノム医療のミニレクチャーに加え、小児がん/AYA 世代や緩和ケアコースのトピックな研究成果報告のミニレクチャーも聞くことができ、それぞれのコースにおける医療の変遷や現在問題となっていることを認識することができた。来年度にこのような研修がもしあれば、次回は他のコースに参加し、それぞれの分野での薬剤師の関わり方を学びたいと思う。

5大学連携 学生短期研修プログラム報告書

（研修コース：②小児がん/AYA 世代コース）

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース		
研修等の名称	平成 30 年度「5大学連携 学生短期研修プログラム」		
研修等期間	平成 31 年 2 月 5 日（火）13:30 ～ 2 月 6 日（水）12:30		
研修等会場	京都大学医学部附属病院 外来棟 5 階　会議室B（その他関連施設）		
研修等目的	連携大学間での取組事業として、5大学からがんプロ履修生を選抜し、1 泊 2 日の合同研修に参加し、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図る。		
研修等内容	小児がん／AYA 世代コース 病棟での多職種カンファレンス、小児脳腫瘍ユニット、長期フォローアップ外来等の見学		

●研修等参加による成果

今回の研修では、各コース（がんゲノム医療、小児がん／AYA 世代、緩和）における講義を受講し、その後コースへごとに分かれての研修となりました。私の参加した小児がん／AYA 世代コースでは、1 日目に病棟での多職種カンファレンスの見学、小児脳腫瘍ユニットのカンファレンスの見学を実施しました。2 日目では、小児血液長期フォローアップ外来の見学、その他、小児病棟や関連する病棟・外来の見学を行いました。コース別の研修が終了後、各コースごとの発表・報告を経て、本研修が終了いたしました。

一言で今回の研修について述べるとするならば、「“イメージ”が“リアル”へと変わる研修」だったと思います。私自身が乳児・小児に関する研究を始めたばかりであり、知識・臨床経験が乏しいために感じたことかもしれませんが、小児において“今”だけでなく“未来”を見つめて治療を行っていく必要性を身に染みて感じた研修でした。頭では晩期合併症のことを理解したつもりでも、今回のように現実味をもった、リアルな感覚をもって肌で感じる機会は少なく、とても貴重な経験ができました。

治療において、患者さんの今後を見つめた治療方針を決めることは欠かせません。今回見学した各種カンファレンスでは、その患者さんの現時点での病気・治療だけでなく、成長過程を想像した上で治療方針を決めていく話し合いがなされていました。そして、小児科では他の診療科以上に“未来”を見つめていると痛感しました。外来では、治療から年月を経て発症するような晩期合併症もフォローしていくため、長期のフォローアップを行っておられました。私が想像した以上に長期間、丁寧にフォローアップされており、外来患者さんの年齢は衝撃的なものでした。発育、認知機能、妊娠・出産、就職など、今後幅広く活躍していくであろう小児患者さん相手だからこそ、晩期合併症という壁は現時点の病気と同様に立ち向かうべき課題なのだと感じました。

もちろん、治療方針を決めるにあたり、科学的根拠・エビデンスに基づいた判断も大切になってきます。カンファレンスでは、実際に出会った他の症例、学会等における報告、具体的な数値（例えば、○Gy 以上の放射線照射だと、おおよそどのくらいから同学年の学習に遅れをとるか）などが議論され、それらの情報を見極め、取捨選択し、治療方針の決定がなされていました。同じ“医師”という職業でも、持っている情報は異なります。チームやユニットで議論し、考えていくことがよりよい治療につながることを肌で感じることができました。臨床でも研究でも、多角的視点や情報の取捨選択などの“考える力”は重要であると感じましたし、“考える力”をもって、“チーム”で関わることの大切さを痛感しました。また、臨床的な知識（疾患のこと、治療背景や治療方針など）を深めるいい機会にも恵まれたと思います。症例ごとに先生方から解説もあり、研究だけでなく、臨床的な面からも良い研修となりました。今後の研究においても、今回得た知識や、感じたこと・経験を活かしていきたいと考えています。

他にも、他大学・多職種の方と交流し、知識・経験ともに異なる集団での意見交換ができたことも大変重要な点であったと感じています。職種による考え方の違い、経験値に基づいた着眼点など、私自身や同じ職種・同等の経験値をもつ学生とは異なる視点に触れることができ、自らの見分を広げる良い機会となりました。今後もこのような研修を通して、さらに多くの多職種・他大学と交流していくことで互いに切磋琢磨できる環境を作っていくことができれば素晴らしいと思います。今回は、基礎知識を事前にレクチャーいただき、最低限の足並みを揃えた上で、見学を通し“リアル”に感じ、ディスカッション・交流を通じ“視野”を広げることのできる研修でした。今後も、このような研修・交流を通じて成長していきたいです。

5大学連携 学生短期研修プログラム報告書

（研修コース：③緩和ケアコース）

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース		
研修等の名称	平成30年度「5大学連携 学生短期研修プログラム」		
研修等期間	平成31年2月5日（火）13:30 ～ 2月6日（水）12:30		
研修等会場	京都大学医学部附属病院 外来棟5階　会議室B（その他関連施設）		
研修等目的	連携大学間での取組事業として、5大学からがんプロ履修生を選抜し、1泊2日の合同研修に参加し、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図る。		
研修等内容	全コース共通のミニレクチャー、コース別研修として、緩和ケアセンターにおいての事例検討、緩和ケアに関するフリーディスカッション、緩和ケアチーム回診		

●研修の成果と感想

1日目の全コース共通のミニレクチャーではゲノム医療、小児がん・AYA世代のがん、緩和ケアについての講義があり、これからのがん医療において重要となってくるテーマについて基礎知識を学ぶことができた。講義終了後、各コースに分かれて研修を行い、私が参加した緩和ケアコースでは1日目の15:30から緩和ケアセンターにおいて緩和ケアチーム内の医師と事例検討（2症例分）を行った。症例が提示され、実際にどのように緩和ケアチームが関わっているか、カルテを参照しながらディスカッションを行った。京都大学緩和ケアチームは医師数が充実しており、コンサルテーション型のチームでありながらも、様々な視点から提案事項や除外診断に関する意見などが挙げられていた。また、主治医・担当医・病棟スタッフや患者へのアプローチ方法については言葉の選び方や提案の方法などについても綿密に検討されており、コンサルテーションチームとして依頼者と良好な関係を築く必要性を強く感じた。

2日目は各コースの集合場所は分かれており、緩和ケアコースは9:30に緩和ケアセンターに集合し、緩和ケアチームの介入患者の情報共有、その後、病棟回診へ同行した。精神症状担当医師のチームに同行させていただき、回診中にチーム内の医師・看護師とディスカッションを行うことができた。チームの役割として患者ごとの関わりだけではなく、院内で共通の認識が得られるように教育的な関わりも重要であると感じた。2日目は情報共有から回診までの時間が2時間しかなかったため、もう少し時間があればより充実した研修となったように感じた。

●「5大学連携　学生短期研修プログラム」全体を通しての成果と感想

各コースの研修終了後、全員が集合し、各コースでの研修内容について情報共有を行った。予定では、各コースから10～15分で報告する形となっていたが、実際に研修内容についてまとめる時間もあまり無かったため、私たちの緩和ケアコースは参加した2名がそれぞれ感想や学んだことについて発表を行い、他のコース参加者からの質疑応答を行った。研修として緩和ケアチームに参加できたことは非常に有意義であったが、全体的にタイトなスケジュールであり、もう少し研修時間が長くても良いと感じた。

ゲノム医療コースは参加者が多く、2日目はフリーディスカッションを行っており、どのような議論がなされたかについて発表があった。指導されていた京都大学武藤教授からは、「各コースにおいてももう少し人数配分を考慮してフリーディスカッションができると良いのではないか。」という意見もあった。人数が少ないコースでは実際の臨床現場に同行することが可能であったが、人数が多いとなかなか難しいと感じる。ただ、時間も限られているためそれぞれが意見を述べディスカッションができる研修も参加してみたいと感じた。

1日目の夜には情報交換会・懇親会があり、他大学の先生方とも情報交換することができ、有意義な時間を過ごすことができた。今回は医師と薬剤師のみの参加であったが、今後は多職種メンバーが集まり、チーム医療を意識した研修にも参加してみたいと感じた。

評　価　結　果　表　（取りまとめ）

1. 各項目評価

※ 採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

区分	項目番号	達 成 目 標 （評 価 項 目）	評価1	評価2	評価3
【教育プログラムコース】					
	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	A	B	A
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	A	A	B
	3	コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか	B	A	A
	4	がんに特化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況	A	A	A
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	A	A	A
	6	医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数	A	A	A
	7	多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数	A	A	A
	8	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績	A	A	A
	9	コース履修者の医療チーム・キャンサーボードの開催数、期間等	A	A	A
	10	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	B	A	A
	11	コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数	A	B	B
	12	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	A	A	A
	13	コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	A	A	A
	14	コース履修者の国際学会等への参加者数	B	A	A
	15	コース履修者が国内学会等への参加者数	B	A	A
【シンポジウムやセミナー等の実施】					
	16	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	A	A	A
	17	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	A	A	A
	18	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	A	A	A
【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】					
	19	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	A	A	A
	20	国際交流プログラムの実施数	A	A	A
	21	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	A	B	A
【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】					
	22	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	A	A	A
	23	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	A	A	A
	24	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	A	A	A
	25	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	A	A	B

※ 採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

区分	項目番号	達 成 目 標 （評 価 項 目）	評価1	評価2	評価3
【事業の運営体制（実施、評価、連携）】					
	26	連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制	A	A	A
	27	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	A	A	A
	28	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	A	A	B
	29	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	A	A	A
	30	連携5大学 コース履修者の e－learning 受講登録率	B	C	B
	31	新たな e－learning 講義科目の提供の取組みについて	A	A	B
	32	主幹大学での事業支援事務組織体制	A	A	A
【事業の普及】					
	33	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	A	A	A
	34	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	A	A	A
	35	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	A	A	A
	36	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	A	A	A
	37	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	A	A	A
	38	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	A	A	A
	39	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	A	A	A

2. 講 評

講 評 （ 評価 1 ）
今年度も引き続き順調に大学院生が入学し、活発な癌プロのプログラムになり、充実したカリキュラムで教育が行われていることが推察される。高度な指導が行われているため、そのためのファカルティ・ディベロップメントにも、指導教官が忙しい診療及び研究の合間に積極的に取り組んでおられることも、ワールドクラスの教育レベルの維持に貢献しておられることが読み取れる。当該5大学間の交流も軌道に乗り、主幹以外の大学でも人材育成が進み、独自の取り組みも増えてきているところは望ましいところである。今後もそれぞれの取り組みが結果を出し、次年度以降研究面では、さらに数多くの学会並びに論文発表が行われることが期待され、また同時に地域医療への貢献もより充実したものになることを期待している。地域医療に関わる受講者からの評価も知ることが出来れば、今後その活動がより発展することが期待される。

講 評 （ 評価 2 ）
本事業で推進する人材の養成は全体的に順調に遂行されている。各コースの充足率は前年度は74%でありD評価であったが、今年度は97%でありほぼ目標人数に達しているためB評価とした。e-learningの取り組みについては、前年度は準備期間中であり評価困難であったが、今年度は講義科目の追加もされており、受講登録率が100%ではないものの、受講者数を増やす取り組みは高い評価に値する。前年度に比べ、三重大学では講演会やセミナー数が増加し、積極的な取り組みが目立った。コース間の格差はみられるが、5大学連携の学生研修、海外の施設との合同教育セミナーなど学生のモチベーションを高める取り組みは引き続き遂行してほしい。 今後も京都大学がリーダーシップを発揮しつつ、大学間の連携を深め、本事業のアクティビティがさらに向上することを期待する。

講 評 （ 評価 3 ）
質の高い運営が主幹校のリーダーシップのもと行われ、がん医療人養成事業が軌道に乗っており、高く評価されます。 前回指摘された事項も多くの項目で改善がなされ、コンソーシアムにおける連携大学間の交流も活発に行われています。 またe-learningの活用も改善されております。総じて、質の高い活動がなされていると評価いたします。 今後連携と人材交流をさらに発展させていただくことを、期待いたします。

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

高度がん医療を先導するがん医療人養成

京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学

京都大学医学研究科　がんプロフェッショナル養成プラン事務局
〒606-8501　京都市左京区吉田近衛町
TEL　075-753-4654　FAX　075-751-2180
E-mail　060ganpro@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp